

令和5（2023）年度

# シラバス



横浜市立若葉台特別支援学校

（横浜わかば学園）

知的障害教育部門高等部（B部門）

# 1. 目次

1. 目次
2. 教育課程編成方針
3. わかば学園の3年間で育成を目指す資質・能力
4. 授業単位時間
5. 教科書
6. 国語
7. 社会
8. 数学
9. 理科
10. 音楽
11. 美術
12. 保健体育
13. 家庭
14. 英語
15. 情報
16. 職業（職業基礎）
17. 職業（オフィスサポート）
18. 職業（ビルメンテナンス）
19. 職業（パン工房）
20. 職業（現場実習）
21. 道徳
22. キャリアカウンセリング・キャリアガイダンス  
（総合的な探求の時間）
23. 特別活動（ホームルーム活動・委員会・学校行事）
24. 自立活動

## 2. 教育課程編成方針

B部門の生徒は卒業後、職業人として社会の中で前向きに生きていくことを目指します。そのためキャリア教育<sup>(注)</sup>の概念を中心に据えて教育課程を編成しました。教育課程編成のポイントは地域や企業を学びの場として意識し、授業を見つめ直すことと、生徒が自分の将来像を考え、働くことへの関心や意欲を高めるための授業を工夫することの二点です。

知的高等部の教育課程は、教科と領域の二つに分かれています。本校では、国語や数学などの一般教科、そして、校内実習と現場実習で構成する職業です。校内実習はビルメンテナンス、オフィスサポート、パン工場の3コースでおこないます。さらにキャリア教育の中核をなす領域として、CC・CG（キャリアカウンセリング・キャリアガイダンス）という総合的な探求の時間を学校独自の名前を付け実施しています。

CC・CG（キャリアカウンセリング・キャリアガイダンス）を土台に一般教科・校内実習と現場実習の中で、学んでいきます。一般教科や校内実習で学んだことを企業や地域での現場実習で実践します。そこで学んだことをふり返り、課題は学校の授業の中にフィードバックして、次の実習に結びつけていくというスパイラルを形成し生徒のキャリア発達を促していきます。

一般教科は社会自立のために必要な内容いわゆる社会に出た時に役に立つ内容を精選して、基礎学力や基礎体力を育みます。さらに生涯にわたるライフキャリア教育を意識して学習を組み立てます。

校内実習は地域との連携を重視します。ビルメンテナンスは市バスの車内清掃や営業所清掃、オフィスサポートは地域からの受注を受けて行う名刺や印刷物制作、パン工場は地域交流室やケアプラザでのパン販売などの学習を通して、地域の方々と積極的に交流し、「働くこと」や「働く喜び」を実地に学んでいきます。専門高校等とは異なり、特定の職種に就くためのスキルを獲得したり、資格を取得したりする職業訓練を目的とするのではなく、働くことに向かう意欲や態度、姿勢、社会性やコミュニケーション力を養うことに重点を置いています。1年はすべてのコースをローテーションし、2年時に一つのコースを選びます。なお、校内実習は1年から3年までの縦割り集団で実施します。

現場実習は実際に会社で実習を行うことで、一般教科や校内実習で学んだことを生かすことができるかを試す場です。社会に出る時に必要な社会性やスキルなどを実際の現場で体感し、課題を意識することが必要です。現場実習で感じた課題をふり返り、一般教科や校内実習で課題を解決する方法を学ぶために行います。

また、社会に出るために準備をする役割も担っているため、学年ごとにねらいを定めて実施します。1年では、「働くことを体感する」というねらいで、若葉台地域を中心に、1週間程度の現場実習を行います。2年の夏と秋には、「自分の適性を知る」ことをねらい、近隣地域（横浜線沿線など）を中心に4日間程度を1単位とした複数回の実習を行い、清掃・環境系、事務・情報処理系、製造・物流系、食品・福祉系など多様な職場や職種を経験します。冬は「自分の適性を見極める」というねらいのもと自分が選んだ職種で1週間程度の実習を行います。3年は、「就労体験実習」を、春と秋に2週間（～4週間）程度の実習を行います。この実習は就労を目指すための企業実習です。

CC・CGは現場実習をふり返り、課題を見つけ一般教科や校内実習の中で身に付けた力を整理して活用する場です。そのツールとなるのがキャリアデザインを使った学習です。キャリアデザインを通して生徒自身が目標を立て（Plan）、実施し（Do）、確認を行い（Check）、また、次の課題に取り組んでいく（Action）というPDCAサイクルを回していくことで、成長を促していきます。さらに様々な場面で、生徒自身によりよい選択と決定を促す場面を多く取り入れます。

### (注)キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育（中教審答申 H23年1月）

### 3. わかば学園の3年間で育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメント

新学習指導要領では、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために、育成を目指す資質・能力を明確にしたうえで、教科等横断的な視点を踏まえたカリキュラム・マネジメントを促進していくことが求められています。

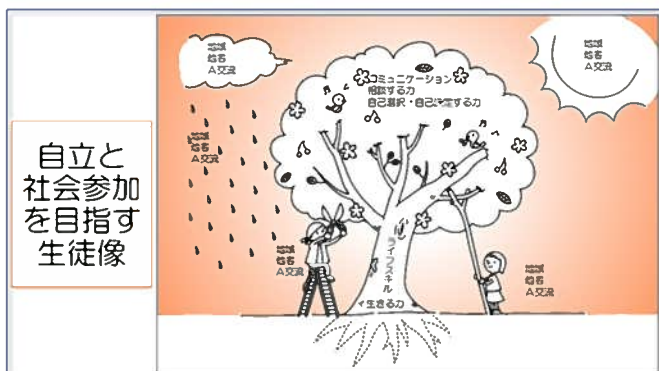
本校でも3年間で育成を目指す資質・能力を明確にして、各教科等の内容の焦点化や配列について、他教科や領域との関連をふまえて検討するなど、教科等横断的な視点に基づくカリキュラム・マネジメントを目指して取組を進めてきました。

令和元年度から令和2年度のB部門校内研究のテーマは、「3年間で育成を目指す資質・能力の明確化」でした。校内外に発信している様々な文書の文言の統一性がないことや教職員間での認識の差が生じていることをふまえ、今までの本校の教育実践の成果、キャリア教育を推進するために重要としてきたことを継承しながら、改めて教職員全体で本校B部門における教育方針について具体化を図り共有しました。

その結果、教職員が考えるわかば学園の3年間で育成を目指す資質・能力を、「生徒が3年間で社会参加と自立を目指すために、地域やA部門の児童・生徒といった様々な他者との関わりのなかで、**ライフスキルの育成を基礎として、自己選択・自己決定、コミュニケーション、相談する力を育て、生きる力**へと導いていく」と整理しました。また、「自立と社会参加を目指す生徒像（図1）とその成長する姿（図2）」として、共有したイメージを木のイラストで示し、それに基づいて年間指導計画を作成しました。

そして、令和3年度のB部門校内研究は「生徒と一緒に進める教科等を横断したカリキュラム・マネジメント」と題して、わかば学園の強みである生徒のキャリアデザインの力を生かし、アンケートやふり返しを実施し、さらに生徒側から各教科等を横断したカリキュラム・マネジメントを進めてきました。また、昨年度は令和3年度を取組を“根付かせる”ことを目的に実施しました。アンケートを「目標達成シート」に変更したことで、生徒が将来のために、今何を学びたいのかをつなげられるようになり、さらに生徒と教員の間に対話が生まれました。その結果、対話を通して生徒が主体的に学びに向かう力を高められるように教員側は授業改善に取り組むという、わかば学園のカリキュラム・マネジメントのかたちのベースが完成しました。

引き続き、生徒が社会参加と自立を目指して、生きる力を高めていくために、地域やA部門の児童・生徒といった様々な他者との関わりを大切に、ライフスキル、自己選択・自己決定、コミュニケーション、相談する力を育成するための「わかば学園らしい社会に開かれた教育課程の編成」を生徒たちと探究していきたいと考えています。その際、生徒のキャリアデザインを用いた「対話」を大切にしていきたいと考えています。



(図1)



(図2)

#### 4. 授業単位時間（令和5年度）

	1年	2年	3年
国語	2	2	2
社会	1	0	1
数学	1	1	1
理科	1	1	0
音楽	2	2	2
美術	1	2.1	2.1
保健体育	3.1	2	2
家庭科	2.1	2.1	2.1
英語	1	0	0
情報	2	2	1
職業基礎	1	1	0
職業に関する教科	8.4	10.5	12.6
キャリアガイダンス	1	1	1
キャリアカウンセリング	1	1	1
LHR・道徳・委員会	1	1	1
自立活動	1	1	1
計（週時数）	29.6	29.7	29.8
総授業数（年間時数）	1142	1146	1096
	現場実習時間等含む	現場実習時間等含む	現場実習時間等含む

#### 5. 教科書（令和5年度）

	教科	使用学年	教科書名	出版社
1	国語	1～3年	くらしに役立つ国語	東洋館
2	社会	1・3年	くらしに役立つ社会	東洋館
3	社会	1～3年	なんでもひける 日本地図	成美堂出版
4	数学	1～3年	くらしに役立つ数学	東洋館
5	理科	1・2年	くらしに役立つ理科	東洋館
6	理科	1・2年	グラフィックサイエンス最新理科資料集	明治図書
7	音楽	1～3年	高校生の音楽1	教育芸術社
8	美術	1～3年	高校美術	日本文教出版
9	家庭科	1～3年	新家庭科総合資料	正進社
10	情報	1～3年	趣味発見！ワード2013入門編	FOM出版
11	情報	1～3年	趣味発見！エクセル2013入門編	FOM出版
12	英語	1年	マンガで覚える！しろねこトーフの英会話	新星出版社
13	総合	1年	くらしに役立つソーシャルスキル	東洋館
14	総合	1～3年	知的障害・発達障害の人たちのための新・見てわかる新ビジネスマナー集	ジアース新社
15	職業	1～3年	ひとりだちするためのライフキャリア教育	日本教育研究出版

国語 1年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①国語に親しみ、社会生活に必要な語彙を豊かにする
- ②情報を正しく理解し、自分の思いや考えを表現できる
- ③他者とのかかわりを大事にし、新しい気づきを得ることができる

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	通年で漢字、語彙について扱う。 1. 授業開き ・実力テスト（BWAP） ・教科書、プリント、iPadについて ・国語辞典の使い方 ・図書室の使い方	1. ①実力テストに取り組み、理解できなかった語彙の確認をする。教科書、プリント、iPadの使い方を知る。国語辞典の使い方に慣れる。図書室の使い方を知り、自分で借りることができる。 ②自分の国語での課題を知り、目標を立てられる。 ③1年間の授業の見通しを持ち、目標を発表する。友達の発表を聞きあう。	ICT機器を使用し、適宜展開する。（道年） 1. 実力テストを行う。結果を伝える。辞書引きゲームなどをして辞書に親しむ。司書教諭の話しを聞く。
	5月	2. 説明文を読む。説明の練習。 ・説明文にふれる。 ・自分の好きなもの、おすすめのを説明する。（2分以内と決める）	2. ①自分の好きなもの、皆に説明したいもの一つ選ぶことができる。 ②自分の好きなものについて、みんなに伝えたい内容を文章で表現できる。その際に自分が良いと思うところ、みんなにも良いと思うところを考えると考える。 ③友達の発表を聞き、共感を覚えたものについて感想を言える。	2. 説明文の例を使用。（短いもの。物の説明をしているもの） ・発表会を開催する。
	6月	3. 電話の使い方とマナー	3. ①電話のマナーやルールを知り、必要なことを相手に伝えることができる。 ②相手に応じた言葉づかいを考えて話することができる。 ③学びを生かして、学校へ連絡できる。携帯電話やメールについても、全員で必要なマナーを考え、共有する。	3. プリント、教科書の使用（24P）、実際の場面に近づけた練習
	7・8月	4. 話し合いの練習 ・話し合いの方法を知り、実際にテーマを決めて話し合う 5. 好きな言葉 ・自分の心に残っている言葉を、理由とともに紹介する。	4. ①話し合いはなぜ必要なのかを知り、みなで考えたルールを理解できる。 ②話し合いで大事なことは何かについて、意見を言える。また、テーマに沿った話し合いで意見を言える。 ③話し合いの中で、自分と違う意見に対して、理解しようと努める。 5. ①自分がふだん触れている言葉や知っている言葉のうち、自分にとって深い意味のある言葉を選べる。 ②選んだ理由を、自分の思いを重ねて表現できる。 ③友達の作品を見て、共感を覚えたものについて感想を言える。	4. 話し合いはなぜ必要なのか、話し合いで大事なことは何かについては、生徒の意見からまとめていく。 5. 家庭で選んだ言葉を提出させ、添削する。
	9月	6. 手紙の書き方 ★CC・CG ・目上のひとへの書き方の基本を知る ・お礼状を書く	6. ①文章の順序、頭語・結語、時候の挨拶、後付けなどについて知る。 ②相手に伝えたい内容を整理し、文章の構成を考えることができる。 ③手紙で感謝を伝えることの良さを理解し、今後も機会があればお礼状を書く気持ちを持つ。	6. 郵便局が発行した生徒向け教材「手紙の書き方」を使用する。（ ）に記入するお礼状見本を配布する。
	後期	10月	7. 朗読・群読 ・詩の意味を考えながら音読する。 ・取り組み前後の感想を比較する。	7. ①文章を文字通り、教室内に伝わる大きさと間違えずに読むことができる。詩の書かれた背景を理解できる。 ②詩の意味を理解し、自分の思いを込めた読み方ができる。 ③現読で、自分の役割を理解し、仲間と息を合わせて読むことができる。群読をした感想をそれぞれ述べるができる。
11月	8. 古典に触れる ・いろはうた、枕草子などの作品に触れる。 ・古文と現代文の違いを知る。 ・昔の人の考え方を知る。	8. ①日本語の文字の歴史についてかんたんに知る。古文と現代文の違いをかんたんに知る。 ②実際の古典作品に触れ、言葉の響きやリズムに親しむことができる。 ③古典風の自分の作品を作ることができる。昔の人と今の人の考え方を比較し感想を言える。	8. いろはうた、枕草子、百人一首を扱う。歴史的仮名遣いの説明などから、古文と現代文の標記の違いを知る。	
12月	*実力テスト（BWAP実施）実施（12月中）	9. ①好きな漢字を選ぶことができる。 ②選んだ漢字を、筆順、太さ、大きさに気をつけて自分の思いを込めて丁寧に書くことができる。友達の練習作品について、アドバイスを言うことができる。 ③選んだ漢字について、意味も含めて自分の言葉で説明する。友達の作品について感想を言える。	9. 初めに好きな漢字の候補をいくつか選び、理由をしっかりと書けるものを残すようにしていく。道具の準備や書く姿勢など基本的な事柄から伝えていく。特に、筆順、線の太さ、字の大きさに注意するように促す。	
1月	9. 書道 ・好きな漢字を一字選ぶ。 ・書道の基本的な姿勢を学ぶ。 ・筆順、字の太さ、字の大きさに注意して書く			
2月	10. 表現力を高めよう。 ・文章による表現を工夫する。 ・相手への伝え方を工夫する。	10. ①事実と感想の違い、慣用句やたとえの表現、原因と結果を整理して書く、などの表現の工夫について知る。 ②それらの工夫をしながら、事実や思いを短文で表現する。 ③相手をお願いする言葉、断る言葉などを、相手の気持ちや状況を考えて工夫することができる。	10. 教科書P92を参照する。友達同士で見せ合う場面、実際に伝えあう場面を作る。	
3月	11. 1年のふり返り ・実力テスト（12月実施） ・目標に対するふり返り	11. ①実力テストについての大体の結果を知る。（4月に比べて伸びた部分） ②目標に対するふり返りを書ける。 ③国語の内容についての感想を書ける。	11. ①実力テストの領域別評価を伝える。 ②ファイル、ロイロを見て1年間のふりがえりを行う。	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①社会生活に必要な国語の知識を身に付けている
- ②自分の思いや考えを表現している
- ③仲間とのかかわりの中での気づきを得ている

国語 2年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①国語に親しみ、社会生活に必要な語彙を豊かにし、使い方を身に付ける ②情報を正しく理解し、考える力を養い、自分の思いや考えをわかりやすく表現できる ③他者とのかかわりを大事にし、自分の思いや考えを伝えあい、学びあう	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	通年で漢字、語彙について扱う。 1. 授業開き ・年間予定 ・実力テスト (BWAP) ・目標決め	1. ①実力テストに取り組み、理解できなかった語彙の確認をする。 ②自分の国語での課題を知り、目標を立てられる。 ③1年間の授業の見通しを持ち、目標を発表する。	ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年)  1. 実力テストを行う。結果を伝える。
	5月	2. 修学旅行事前学習 ・書類の書き方 ・アイヌの文化、歴史 ★道德	2. ①宅配便のラベルなどの、書類の書き方を知る。 ②北海道の方言やアイヌの人々の文化や考え方について知り、感想を持てる。 ③修学旅行で自分が知りたい内容をまとめられる。	2. 映像、文献資料を通じて知る。実際の伝票を使って練習する。
	6月	3. 作文（修学旅行事後学習） ・文集用作文の制作 ・まとまった文章の書き方	3. ①修学旅行の思い出のうち何を書きたいかを明確にできる。 ②書きたい内容をどのような言葉や順序で表現すればよいか考えて書く。また、必要な写真や絵について考えられる。 ③友だちの作文を読み、共感できる部分を探し、伝えられる。	3. 過去の文集の閲覧、下書きをiPadで、清書は手書きで行う。写真選定のためのフォルダ設置
	7・8月	4. 敬語の学習 ・現場実習に向けて目上の人への最低限の敬語の使い方	4. ①敬語を誰に、どのような時に使うのかを知る。敬語への言い換えができる。 ②場面ごとにどのような敬語を使えば良いのかを考えられる。 ③校内での使用機会に積極的に使う。	4. 事例を多く出し、どのような場で使われているかを改めて知る。また、なぜ使う必要があるのかも考えさせ、動機づけとする。
	9月	5. 言葉選び ・自分の心に残っている言葉を、理由とともに紹介する。	5. ①自分がふだん触れている言葉や知っている言葉のうち、自分にとって深い意味のある言葉を選べる。 ②選んだ理由を、自分の思いを重ねて表現できる。 ③友達の作品を見て、共感を覚えたものについて感想を言える。	5. 家庭で選んだ言葉を提出させ、添削する。
後期	10月	6. 群読 ・戦争の銃後の家族の思いを扱った文章を群読する。 ・取り組み後に文章に対する感想を書く。	6. ①文章を文字通り、教室内に伝わる大きさと間違えずに読むことができる。グループとして息を合わせた読み方ができる。 ②グループ内の自分の役割を理解し、自分の思いを込めた読み方ができる。 ③文章に対する感想、群読の感想をそれぞれ述べることができる。	6. 文章の内容の社会的背景（太平洋戦争）についても説明を加える。本格的な群読の前に、短い文で群読の練習を重ねる。
	11月	7. 俳句 ・俳句の鑑賞 ・俳句の創作 ・句会	7. ①俳句の基本的な決まりを知る。自分の気持ちをなにかにたとえるという仕組みを知る。 ②俳句を鑑賞し、その情景を自分の言葉で説明できる。 ③俳句の決まりに則って、俳句を創作できる。 友達の俳句で共感したものについて感想を言える。	7. 現代の、かつ若い世代の俳句の鑑賞からはじめ、共感を得やすくする。 ・教科書の説明を使用する (P70)
	12月	8. 書道 ・好きな熟語を選ぶ ・一枚掲示 ・熟語の意味を自分の言葉で書いて説明する。	8. ①好きな漢字を選ぶことができる。またその漢字を使った熟語を探すことができる。 ②選んだ熟語を、筆順、太さ、大きさに気をつけて自分の思いを込めて丁寧に書くことができる。 友達の練習作品について、アドバイスを言うことができる。 ③選んだ熟語について、意味も含めて自分の言葉で説明する。 友達の作品について感想を言える。	8. 好きな漢字を選び、そこから熟語を探す。意味を自分で調べ、自分の思いと合っているか確認し決定する。 ・友達のアドバイスを得ながら清書する。
	1月	*実力テスト (BWAP実施) 実施 (12月中)		
	2月	9. アサーティブトレーニング ・相手を尊重した聞き方・話し方 ・お願いの仕方・断り方	9. ①相手を尊重した聞き方・話し方について、コミュニケーションの例を見ながらどういうものかを理解できる。 ②相手を尊重した聞き方・話し方について、具体的に考えて自分なりの表現ができる。 ③友達とのコミュニケーションや、人のコミュニケーションの方法から気づきを得る。	9. 自己分析から、自分のコミュニケーションの課題を知る。 ・「アサーショングループワーク」「ソーシャルスキルトレーニング」のワーク集を用いる。
3月	10. 1年のふり返り ・実力テスト (12月実施) ・目標に対するふり返り	10. ①実力テストについての大体の結果を知る。(4月に比べて伸びた部分) ②目標に対するふり返りを書ける。 ③国語の内容についての感想を書ける。	10. 実力テストの領域別評価を伝える。 ・ファイル、ロイロを見て1年間のふりかえりを行う。	

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①社会生活に必要な国語の知識を身に付け、場面に応じて工夫して使用している ②伝わりやすい表現を考えながら、自分の思いや意見を表現している ③学んだ内容について仲間に伝えようとしている	

国語 3年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ① 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける
- ② 他者とのかかわりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる
- ③ 国語に親しみ、言葉がもつ価値を認識し、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養うことができる

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	オリエンテーション 面接での自己紹介	①面接のときに必要な語句を知る。（御社、など） ②自分の長所を理解し、伝わりやすい表現を考える。 ③伝え方を工夫し、目的を理解して、自己紹介できる。	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ◆プリントや教科書を使用し、適宜展開する。（通年） ◆自己紹介シートの作成 ◆友達同士での評価
	5月	季節を感じよう（季節の言葉、時候の挨拶）	①季節を感じたり、暦などにあらわされる季節の大切さを知る。時候の挨拶に独特な語句を知る。 ②生活を振り返り、季節感を言葉で表すことができる。 ③相手の様子を想像し、季節や二十四節気を参考にして時候の挨拶を選んだり書いたりすることができる。	◆プリント、辞書の使用 ◆時候の挨拶を作る。 ◆適宜プリントを準備する。 辞書を使用する。
	6月	書類の書き方①	①生活の中にある書類を知り、その違いや目的を知る。 ②社会生活で諸機関を利用する際に必要となる書類の基本的な書き方を知る。 ③読み手にわかりやすく適切に書くことを意識して取り組む。	◆プリントの使用 ◆実際の書類の見本を用いる。
	7・8月	伝え上手になろう	①相手に伝えるための適切な言葉遣いを知る。 ②いろいろな場面で効果的な伝え方を考える。 ③相手を尊重しながら、自分の言いたいことを伝えるための表現方法や言い方を考える	◆プリントの使用。実際の場面を想定したロールプレイを取り入れる。◆ケーススタディを渡し、自分ならどう言うのかを考える。
	9月	みんなで話し合おう 表現の工夫をしよう （慣用句、比喩表現）	①相手に伝えるための適切な言葉遣いを知る。 ②テーマについて、自分の意見を考える。 ③他者の意見を尊重しながら、自分の意見の伝え方を考える。 ①生活の中で使える語彙を増やす。 ②比喩表現を使うことで文章が豊かになる実感を持つ。 ③他者の比喩や慣用句の表現を互いに聞きあい、自分の表現方法を学びあう。	◆2グループに分けて、片方のグループだけで話し合う。もう片方のグループは片方のグループの話し合いの様子を見て、感想を述べあう。 ◆慣用句のプリントを用い、意味を考え、どのようなときに使えるか考える。比喩表現を使った例文を考える。
後期	10月	古典に親しむ（論語）	①簡単な訓読のルールを知る。 ②もの見方考え方について当時の人と自分たちの考え方や感じ方を比べ、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つことができる。 ③自分が共感する論語の一つを選び、自分なりの考えを持つことができる。	◆プリントの使用。訓読のルールを知る。 ◆論語の内容を理解して、共感する論語の一つを選ぶ。
	11月	後輩に伝えたい気持ちを言葉にしよう	①表現を工夫し、言葉の選別をすることができる。 ②自分の振り返りから、他者に伝えられる内容を考え、表現することができる。 ③話し合い、一つのテーマを決めて活動できる。 ④他者の発表を聞き、自分の感想を述べることができる。	◆3年間を振り返る時間を取る。
	12月 1月	日本文化を知る（書写）	①書写の目的に応じた基本的な技法や道具の違いなどを知る。 ②相手の状況を考えて、自分の思いを文字に表現しあらわすことができる。 ③将来生活で使うことを想像しながら取り組む。	◆「のし袋」の意味を知る。 ◆毛筆ペンを使って書く。 ◆数字を漢数字の旧字体を調べる。 ◆表書きと裏書の場所に注意して、集中して書ける環境を設定する。
	2月	詩の製作	①題材となる詩を読み、内容を理解し、気づきを得ることができる。 ②内容に合わせた自分の思いや考えを持ち、伝えあい表現する。 ③他者とのかかわりを大事にし、他者の言葉を理解し尊重しながら取り組むことができる。	◆プリントを準備し、製作のもとになる詩を朗読する。 ◆作者の考えを理解して、共通するものをいくつか書き表し、そのうちから一つを選ぶ。 ◆全員の思いを一枚の作品にする。
	3月			

評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
① 社会生活に必要な語彙や表現について理解し、適切に使っている。 ② 他者と関わり自分の思いや考えをわかりやすく表現しようとしている ③ 言葉を通して他者と関わり、国語を実生活で活用しようとしている			



社会 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①地域や我が国の国土の地理的環境、歴史や伝統的文化および外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける ②社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する ③社会的事象に興味関心をもって主体的に課題に取り組んだり、学習したことを社会生活に活かそうとしたりする	

学習計画		月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション ◎地球と地球儀・外国の様子 ・世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、首都、国旗、言語、文化など ・時事問題・ニュース ◎地図の見方 ・方位・方角、地図記号など	①地球儀、地図の特徴を理解し、地図を読み取るために必要な基礎的な知識を身に付ける。また、世界地図を通して主な国の位置や名称などを大まかに理解する。 ②身近な地域の地図を正しく読み取り、公共施設の位置など地域の様子を判断し、表現する。 ③若葉台散策を通して、地域への興味関心を高め、学校生活や日常生活の様々な場面で生かそうとする。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。（道年） ・地図帳で諸外国の位置を確認し、白地図を用いて整理する。 ・若葉台散策をふり振り返りながら、若葉台の地図を活用する。	
	5月	◎地図の見方 ・方位・方角、地図記号など ◎若葉台や旭区の地理的環境 ・横浜市における若葉台や旭区の位置、公共施設、交通、人口構成、学校住所など	①身近な地域の地図を正しく読み取り、公共施設の位置など地域の様子を判断し、表現する。 ②若葉台や旭区の様子を大まかに理解し、地理的環境の様子を捉え、その特色を考え、表現する。 ③地域への興味関心を高め、学んだことを学校生活や日常生活の様々な場面で生かそうとする。	・若葉台散策をふり振り返りながら、校内実習や現場実習とのつながりなどを知ることができるようにする。	
	6月	◎横浜市の地理的環境 ・神奈川県における横浜市の位置、政令指定都市、人口、歴史、18区の名称と位置・観光名所・交通・人口など	①横浜市の地理的環境の概要を理解する。 ②横浜市の地理的環境の様子を捉え、その特色を考え、表現する。 ③学んだことを現場実習等の学校生活や日常生活で生かそうとしたり、余暇の充実につなげようとしていたりすることができる。	・「横浜市18区のうた」で横浜市の区の名称と位置を確認する。	
	7・8月	◎神奈川県の地理的環境 ・全国における神奈川県の位置、政令指定都市、人口、歴史、33市町村の名称と位置・観光名所・交通・人口など	①神奈川県の地理的環境の概要を理解する。 ②神奈川県の地理的環境の様子を捉え、その特色を考え、表現する。 ③学んだことを現場実習等の学校生活や日常生活で生かそうとしたり、余暇の充実につなげようとしていたりすることができる。	・「神奈川県かるた」などを利用したり、知っていることを発表したりしながら、主な市町村の位置や特色を学ぶ。	
	9月	◎日本の国土の構成 ・世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲など ◎47都道府県と地方区分、気候区分 ★職業基礎	①日本の国土の地理的環境、47都道府県の名称、位置や地方区分を理解する。 ②日本の国土の地理的環境の様子を捉え、その特色を考え、表現する。 ③学んだことを現場実習等の学校生活で生かそうとしたり、余暇の充実につなげようとしていたりすることができる。	・地図帳で都道府県の位置等を確認して、白地図を用いて色を塗るなど、整理する。	
後期	10月	◎関東地方・中部地方の地理的環境 ・都道府県と県庁所在地、気候、人口、産業、特産物、観光地など	①地図帳等を用いて適切に情報を調べることを通して、各地方の地理的環境の概要を理解する。 ②各地方の地理的環境の概要の様子を捉え、他地方と比較しながらその特色を考え、表現する。 ③学んだことを現場実習や修学旅行等の学校生活で生かそうとしたり、余暇の充実につなげようとしていたりすることができる。	・地図帳で都道府県等の位置等を確認したり、教科書や図書館の本を用いて観光地や特産物などを調べたりして、情報を整理する。 ・「全国都道府県の歌」で47都道府県と県庁所在地を確認する。 ・ICT機器や動画等を活用して、イメージをもつ。 ・興味関心に応じて調べ学習を行い、発表する。（個人またはグループ）	
	11月	◎東北地方・近畿地方の地理的環境 ・都道府県と県庁所在地、気候、人口、産業、特産物、観光地など			
	12月	◎中国地方・四国地方・九州地方の地理的環境 ・都道府県と県庁所在地、気候、人口、産業、特産物、観光地など			
	1月	◎九州沖縄地方・北海道地方の地理的環境（修学旅行） ・都道府県と県庁所在地、気候、人口、産業、特産物、観光地など			
	2月	◎北海道地方の地理的環境 ・都道府県と県庁所在地、気候、人口、産業、特産物、観光地など ・修学旅行に向けた調べ学習			・修学旅行の行き先について調べ学習を行い、発表する。（個人またはグループ）
3月	◎外国の様子 ・外国との関わり ・時事問題・ニュース ★職業基礎・家庭科	①日常生活をふり振り返りながら、諸外国とのつながりを理解する。 ②日本と諸外国とのつながりを捉え、気づいたことや課題を考え、表現する。 ③将来を担う国民として、世界の国々の人々と共に生きることの大切さについて自覚をもつ。	・スーパージョーなどで、外国から輸入しているものを調べて、発表し合う。また、調理実習等で使われている材料の輸入先を調べる。		

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①各地の地理的環境等を理解し、調べまとめる技能を身に付けている ②社会的事象の特色等について、多角的に考え、適切に表現している ③社会的事象に関心をもち、学習内容を実生活に生かそうとしている	

社会 3年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける ②社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する ③社会的事象に興味関心をもって主体的に課題に取り組んだり、学習したことを社会生活に生かそうとしたりする	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション ◎外国の様子 ・時事問題、ニュース （SDGs、紛争、万博など）	①ニュースを正しく読み取り、外国の様子について理解する ②諸外国の様々な状況を受け、考えたことを適切に表現する ③世界の平和の実現を願い、世界の国々の人々と共に生きることを大切にする意識をもつ	・ICT機器を使用し、適宜展開する（通年） ・ニュースを正しく読み取り、考えたことを発表し合う
	5月	◎我が国の国土の様子と国民生活、歴史 ・太平洋戦争 （真珠湾攻撃、横浜大空襲、沖縄戦）	①横浜市などの主要都市への空襲や沖縄戦、広島や長崎への原子爆弾投下によって、国民が大きな被害を受けたことを理解する ②空襲や沖縄戦、原子爆弾投下の被害の様子を受け、様々な立場から考えたことや感じたことなどを適切に表現する ③二度と戦争を起さずにはいけないという思いをもち、世界の平和の実現を願い、将来を担う国民としての自覚を高める	・実際に戦争を体験した方からエピソードを聞く （戦争を語る会、ニュース等）
	6月	◎我が国の国土の様子と国民生活、歴史 ・太平洋戦争 （広島・長崎原爆、終戦）		
	7・8月	◎社会参加ときまり ★CC・CG ・日本国憲法 （三大基本原理、天皇の地位、国民としての権利および義務）	①三大基本原理、天皇の地位、国民としての権利および義務について理解する ②国民としての権利や義務を自分自身にあてはめてとらえ、生活と憲法とのつながりについて考え、適切に表現する ③現在の民主政治が憲法の考え方に基いていることについて関心をもつ	・太平洋戦争時の国民の生活を調べ、比べる
	9月	◎公共施設の役割と制度 ★国語、家庭、CC・CG（租税教室） ・租税（所得税、消費税など）	①身近な租税や社会保障の仕組みや役割をとらえ、就労して適切に税金を納めたり、社会保険料を支払ったりする必要性を理解する ②消費税や健康保険などの身近な租税や社会保障について、実際にどのくらい支払ったり、対応したりしているのか等、適切に表現することができる ③政治と租税や社会保障の仕組みや国民の生活とのつながりについて関心をもつ	・見本の給与明細から、就労後に支払う税金や社会保険料を読み取る
後期	10月	◎公共施設の役割と制度 ★CC・CG ・社会保障制度：社会保険 ・選挙体験学習 （成人年齢、18歳選挙権）	①選挙の仕組みや候補者の選び方がわかり、主権者として意見をもち、有権者として責任をもって投票し政治参加していくことの大切さを理解する ②様々な意見を参考にし、政策を多角的に考えたうえで判断し、その理由を明らかにして、適切に表現する ③18歳への引き下げの背景を受け、将来を担う国民としてよりよい社会を考え、政治に関わろうとする意識を高め、学習したことを生かそうとする	・仮想候補者の政策のメリットやデメリットについてグループで話し合いを行い、まとめたものを発表し合う ・実際の選挙で使用する投票箱や記載台、投票用紙を用いて、投票体験をする
	11月	◎公共施設の役割と制度 ★CC・CG ・選挙体験学習 （仮想候補者の政策の理解・比較：少子高齢社会、国際社会、環境問題、自然災害、SDGsなど）		
	12月	◎公共施設の役割と制度 ★CC・CG ・選挙体験学習 （選挙運動の注意点、投票の手順、投票）		
	1月	◎我が国の国土の自然環境と国民生活 ★理科、家庭 ・時事問題、ニュース （自然災害、東日本大震災など）	①ニュースを正しく読み取り、東日本大震災の被害の大きさや震災前後の変化などを理解する ②防災対策として日頃から取り組めることや災害時にすべき行動について考え、判断したことを適切に表現できる ③防災意識を高め、考えたことを日頃から実践していこうとする	・実際に震災を体験した方からエピソードを聞く （ニュース等）
	2月	◎我が国の国土の自然環境と国民生活 ★理科、家庭 ・時事問題、ニュース （環境問題など）	①正しくニュースを読み取ることを通して環境問題の原因を知り、それに対する政策について理解する ②環境問題に対して自分のこととして捉え、日頃から自分ができることを考え、適切に表現する ③環境問題への意識を高め、考えたことを日頃から実践していこうとする	・環境問題のニュースを正しく読み取り、考えたことを発表し合う
3月	※実際の選挙用品を使用して選挙体験学習を行う関係で、その年の選挙スケジュールに応じて学習期間が変わる可能性あり。			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①社会の動き等を理解し、情報を調べまとめる技能を身に付けている ②社会的事象の特色等について、多角的に考え、適切に表現している ③社会的事象に関心をもち、学習内容を実生活に生かそうとしている	

数学 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①生活に必要な数量や図形などについて数学的に表現・処理する技能を身に付ける ②生活の中でみられる数学的な出来事に対して、筋道を立てて考察し、数学的に表現する力を身に付ける ③数学的活動の楽しさを実感し、数学を生活や学習に活用しようとする態度を身に付ける	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション ◎四則計算（計算パズル） 【数と計算】 ※年間を通して10分間実施 ○数学の力、アセスメント	①単純なルールに従って、加減および乗除の計算ができる ②パズルに当てはまる数を予想したり、計算と確認を繰り返したりしながら数学的に考察することができる ③正解にたどり着けるまで試行錯誤しながら粘り強く考えることができる	・ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・単純なルールのある計算パズルの問題を通して、すぐに答えが分からなくても一定時間諦めずに考察したり、時には休憩したりしながら正解にたどり着く経験を繰り返す
	5月	◎割合 百分率（%） 【変化と関係】	①値引き方法の違い（割引き・%引き、円引き）を理解し、計算機を用いて割引後の値段を求めることができる ②「どちらがお得なのか」など、割合の大小から判断したり、計算をした結果から問題解決したりすることができる ③割合の学習をふり返り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・「定価の20%引き」など、日常生活の中で用いられている百分率をチラシなどから見つける活動を通して、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ
	6月	◎重さの単位と測定 【測定】 ★家庭	①身の回りにある重さや長さの単位と測定について理解し、およその見当を付けるなど量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、用いる単位や計器を適切に選択して測定することができる ②身の回りにある物の重さや長さに着目し、単位を用いて表現したり、比べたりすることができる。 ③重さや長さの単位と測定の学習をふり返り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・身の回りにある物の重さや長さを調べる活動を通して、その量を手掛かりに、およその見当をつけたり、適切な計器を選択したりするなど、実際に測定する経験から学ぶ
	7・8月	◎長さの単位と測定 【測定】 ★家庭		
	9月	◎時刻と時間 【測定】 ★CC・CG	①時刻と時間の意味や単位との関係を理解し、適切な単位を用いて時刻や時間を求めることができる ②日常生活における時間の経過を捉えて、時刻や時間の求め方を考察することができる ③日常生活における時間の使い方についての計画をたてたり、生活時間の目安をつくったりするなど、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・日常生活における時間の使い方について円グラフやタイムテーブルを作成する活動を通して、時間の長さの感覚を捉える ・実習概要や経路検索の結果を用いて、必要な時間を求めたり、時間の逆算から時刻を求めたりするなど日常生活と関連付けて学ぶ
後期	10月	◎面積 【図形】 ★家庭 ○数学の力、アセスメント	①基本的な図形や面積の単位について理解し、およその見当を付けるなど量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、図形を測量することができる ②身の回りにある物の面積に着目し、単位を用いて表現したり、比べたりすることができる ③面積の学習をふり返り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・面積を求める際には、一部を移動して求積が可能な図形に変形させたり、図形を分割して考えたりするなど、自ら工夫して解決していく ・賃貸物件の間取りをみたり、家具など身の回りにある物の大きさを実測し生活空間をイメージするなど、日常生活と関連付けて学ぶ
	11月			
	12月	◎概数（およその数） 【数と計算】	①概数の意味を理解し、四捨五入や切り捨て、切り上げができる ②日常の場面に着目し、ねらいに応じた詳しさを概数にしたり、大きく（小さく）見積もったりするなど、目的にあった数の処理の仕方を考察することができる ③概数を用いると数の大きさが捉えやすくなり、判断や処理がしやすくなることよき気づき、目的に応じて自ら概数で把握しようとする事ができる	・買い物場面で値段を概数にして計算するなど、日常生活と関連付けて学ぶ
	1月	◎金銭の価値や処理（家計簿） 【データの活用】 ★家庭 ★校外学習	①家計簿の書き方（収入・支出・残金）を理解し、レシートから必要な情報を読み取り、金銭の計算ができる ②旅行費用は時給計算で何時間分になるかなど、金銭の価値感覚を豊かにするとともに、家計簿を作成するために必要な情報を選別し、表としてまとめることができる ③実際に家計簿を付ける学習をふり返り、支出の見直しを検討するなど、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・校外学習や宿泊学習などの日常生活と関連付けて学ぶ ・これまでの学んだことを活用し、思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う活動を通して、互いの考えをよりよいものにしたり新たな発見が生まれたりするよう対話的に学ぶ

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①生活に必要な数学的知識および技能を身に付けている ②数学的事象を考察し、表現する力を身に付けている ③数学的活動の良さを実感し、生活の中で活用しようとしている	

数学 2年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①生活に必要な数量や図形などについて数学的に表現・処理する技能を身に付ける
- ②生活の中でみられる数学的な出来事に対して、筋道を立てて考察し、数学的に表現する力を身に付ける
- ③数学的活動の楽しさを実感し、数学を生活や学習に活用しようとする態度を身に付ける

学習計画		月	学習内容(何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	◎オリエンテーション ・現場(校内)実習で必要だった数学の力	◎四則計算(計算パズル) 【数と計算】 ※年間を通して10分間実施 ○数学の力、アセスメント	①単純なルールに従って、加減および乗除の計算ができる ②パズルに当てはまる数を予想したり、計算と確認を繰り返したりしながら数学的に考察することができる ③正解にたどり着けるまで試行錯誤しながら粘り強く考えることができる	・ICT機器を使用し、適宜展開する(通年) ・単純なルールのある計算パズルの問題を通して、すぐに答えが分からなくても一定時間諦めずに考察したり、時には休憩したりしながら正解にたどり着く経験を繰り返す
	5月	◎合計 平均 【データの活用】	①合計や平均の意味を理解し、計算機を用いて求めることができる ②全体の傾向を捉えることに着目し、測定した結果を平均する方法について考察することができる ③合計や平均の学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・形式的に計算するのではなく、図やグラフを用いて多いところから少ないところへ移動し平らにならすという方法や合わせたのち等分する方法と平均の意味を関連させながら学ぶ ・実際に測定した結果を平均するなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ	
	6月	◎単位量あたりの大きさ 【変化と関係】 ★家庭	①単位量あたりの大きさの意味や表し方について理解し、求めることができる ②一つの量だけでは比較することができない事象に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、表現したりする方法を考察することができる ③単位量あたりの大きさの学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・野菜の1gあたりの金額を求めて比較するなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ	
	7・8月				
	9月	◎速さの求め方 【変化と関係】 ★理科	①速さの意味や表し方について理解し、求めることができる ②日常の事象における数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、図や式などを用いて表現する方法を考察することができる ③速さの求め方の学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・人が歩く平均の速さについて学んだり、自分の歩く速さを実際に求めたりする活動を通して、速さの感覚を豊かにするなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ	
後期	10月	◎時間の求め方 【変化と関係】	①速さと距離をもとにした時間の求め方について理解し、適切な単位を用いて表現することができる ②日常の事象における数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、図や式などを用いて表現する方法を考察することができる ③時間の求め方の学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・プロ野球でのピッチャーの球速をもとに時間を求めるなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ	
	11月	○数学の力、アセスメント			
	12月	◎距離の求め方 【変化と関係】 ★社会	①速さと時間をもとにした距離の求め方について理解し、適切な単位を用いて表現することができる ②日常の事象における数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり、図や式などを用いて表現する方法を考察することができる ③距離の求め方の学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・新幹線の速度と時間から移動距離を求めたり、計算上の答えと実際の違いについての理由を考察するなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ	
	1月	◎金銭の価値や処理(割り勘) 【データの活用】 ★家庭 ★校外学習	①値段と代金とおつりの関係を理解し、消費税込みの値段を求めたり、いろいろな金種を組み合わせてちょうどのお金を用意したり、おつりのある支払い方を選んだりすることができる。 ②両替の考え方を活用して、同じ価値のお金をいろいろな金種を組み合わせて用意する方法や、おつりの硬貨を少なくするための支払い方など、目的に応じて考察することができる。 ③金銭の価値や処理の学習をふり取り、学んだことを生活や学習に活用しようとする事ができる	・単独での支払いだけでなく、友だちとの割り勘など日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ ・これまでの学んだことを活用し、思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う活動を通して、互いの考えをよりよいものにしたり新たな発見が生まれたりするよう対話的に学ぶ	
	2月				
3月					

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①生活に必要な数学的知識および技能を身に付けている
- ②数学的事象を考察し、表現する力を身に付けている
- ③数学的活動の良さを実感し、生活の中で活用しようとしている

数学 3年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①生活に必要な数量や図形などについて数学的に表現・処理する技能を身に付ける
- ②生活の中でみられる数学的な出来事に対して、筋道を立てて考察し、数学的に表現する力を身に付ける
- ③数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に活用しようとする態度を身に付ける

学習計画

	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション ・現場（校内）実習で必要だった数学の力  ◎四則計算（計算パズル） 【数と計算】 ※年間を通して10分間実施 ○数学の力 アセスメント	①単純なルールに従って、加減および乗除の計算ができる ②パズルに当てはまる数を予想したり、計算と確認を繰り返したりしながら数学的に考察することができる ③正解にたどり着けるまで試行錯誤しながら粘り強く考えることができる	・ICT機器を使用し、適宜展開する（通年） ・単純なルールのある計算パズルの問題を通して、すぐに答えが分からなくても一定時間諦めずに考察したり、時には休憩したりしながら正解にたどり着く経験を繰り返す
	5月	◎正の数・負の数 【数と式】  ◎金銭の価値や処理（収支） 【データの活用】 ★家庭	①正の数・負の数の意味を理解し、数直線上に表すことができる ②正の数・負の数の加法と減法を数直線上で考察し、反対の方向や性質を数で表したり、ある値を基準とした数の大小の比較をしたりすることができる ③正の数と負の数を用いて変化や状況を理解したり、その意味を読み取ったりするなど、学んだことを生活や学習に活用しようとするすることができる	・数直線を用いることで、実際に身体の動きで加減を表現しながら学ぶ ・収支の計算や赤字黒字の判断、目標値からの増減など、正の数負の数を日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ ・思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う活動を通して、互いの考えをよりよいものにしたり新たな発見が生まれたりするよう対話的に学ぶ
	6月			
	7・8月			
	9月		①比の意味や表し方を理解し、数量の関係を比で表したり、等しい比をつくったりすることができる。 ②日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係や比べ方を考察することができる ③比の学習をふり返り、学んだことを生活や学習に活用しようとするすることができる	・調理材料などでは、比の値を求めることで、量は異なっても同じ濃さ（味）であることが確認できるなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ ・黄金比、白银比など、自然界にある数学的な事象を通して学ぶ ・思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う活動を通して、互いの考えをよりよいものにしたり新たな発見が生まれたりするよう対話的に学ぶ
後期	10月	◎比 【変化と関係】 ★家庭 ★美術		
	11月			
	12月	◎0次元～3次元図形 ◎体積と容積 【図形】 ★家庭	①-1 0次元～3次元までの図形について理解し、基本的な特徴を表現することができる ①-2 基本的な立体図形や体積の単位について理解し、およその見当を付けるなど量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、体積を求めることができる ②身の回りにある物の体積に着目し、単位を用いて表現したり、比べたりすることができる ③図形の学習をふり返り、学んだことを生活や学習に活用しようとするすることができる。	・身近な物の中に関連する図形を探したり、飲み物のパックの体積を実測して求め、表示されている容積と比較したりするなど、日常生活と関連付けて問題解決しながら学ぶ ・思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う活動を通して、互いの考えをよりよいものにしたり新たな発見が生まれたりするよう対話的に学ぶ
	1月			
	2月	3年間のまとめ		
3月				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①生活に必要な数学的知識および技能を身に付けている
- ②数学的事象を考察し、表現する力を身に付けている
- ③数学的活動の良さを実感し、生活の中で活用しようとしている

理科 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①身近な自然に関わり、目的をもって観察・実験を行う ②観察・実験の結果を科学的にとらえ、自分の考えをもととする ③学んだことを日常生活に関連付けて考えようとする	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）		
前期	4月	オリエンテーション 理科室の使い方・器具の使い方 ★校内実習（ハン工房）	①理科室の使用方法について確認し、安全な取り組み方について理解する ②学習したことを用いて、自分の考えたことを表現することができる ③器具の使い方や、安全な取り組み方について意識し、今後の理科の授業で主体的に判断して取り組もうとすることができる	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） 理科室の利用にあたって、安全な取り組み方について考える。 いくつかの器具を用いて、器具の特性や材質を確認しながら操作や計量を行う。 器具は可能な限り一人一つ用意し自主的な活動を促す。		
	5月	●自然とくらし 地球の環境 気象 自然災害	①四季の気候の変化とその要因を知り、気候に合わせた生活を心がける。天気予報の見方について理解する。 ③気象や自然災害など身の回りの事象についての関心を高め、学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	自身が利用できる天気予報から、傘を用意したり気温に合わせた服装を選んだりする等、天気予報から様々なことを予想し、行動したらよいのか考える。 ニュースなどから災害関連の用語を理解しその現象をiPadで調べ		
	6月	★社会科				
	7・8月	↓				
	9月	●自然とくらし 植物 動物 生物と食物連鎖	①身近な生物の特徴、その生長及び活動の様子に関心をもつ ②学習したことを用いて、自分の考えたことを表現することができる ③植物のつくりや動物の生態などについて関心を高め、学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	季節ごとに学校敷地内の観察・採集を行い植物・動物の特徴の理解を深める。 食べ物と環境の大切さを考える。 顕微鏡を用いて、動植物のち密さや巧みな体のつくりを実感する。		
後期	10月	↓	①身の回りの物質について観察し、特徴や性質について理解を深める ②実験や観察から考察し、自分の考えたことを表現することができる ③身近なものの原材料や材質に関心を高め、学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	日常生活で使用する身近な調味料を用いて物質の性質を実験を通して理解し、使用方法や保存方法について実践しようとする。		
	11月	●物質 いろいろな物質 水溶液 気体、状態変化 ★家庭科				
	12月	●健康なくらし 人の体の主なつくりや働き 病気とその予防、けがとその処理 ★保健			①臓器の位置や役割などを知り、身体のしくみについて理解する ②学習したことを用いて、自分の考えたことを表現することができる ③病気の予防やケガの手当てなどについて関心を高め、学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	教科書やハワボ資料から消化と吸収、血液の循環について知り、すべてが牽連して命を維持していることに気づかせる。 人体模型を組み立て、自分の体のどの部分かを確認し意識する。
	1月	↓			健康に活動するために必要な栄養素について知り、食品の安全な取り扱いを考える。	
	2月	↓				
3月	●1年間のまとめ					

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①基本的な科学の知識や器具操作の技能を身に付けている ②安全に実験を行い、適切に記録している ③学んだことを日常生活に関連付けて考えている	

理科 2年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①身近な自然の事物・現象について理解を図り、観察・実験に関する技能を身につける
- ②観察・実験の結果を科学的にとらえ、自分の考えを表現する
- ③日常生活との関係を知り、学んだことを主体的に生活に生かそうとする

学習計画		月	学習内容(何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	オリエンテーション 理科室の使い方		①理科室の使用方法について確認し、安全な取り組み方について理解する ②学習したことを用いて、自分の考えたことを表現することができる ③器具の使い方や、安全な取り組み方について意識し、今後の理科の授業で主体的に判断して取り組もうとする	ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年) 理科室の利用にあたって、安全な取り組み方について考える。 いくつかの器具を用いて、器具の特性や材質を確認しながら操作する。 器具は可能な限り一人一つ用意し自主的な活動を促す。
	5月	<修学旅行事前事後学習> 飛行機 気温・気圧 ★社会科 保健	修学旅行	①飛行機の乗り方やその環境について理解することができる ②学習したことを用いて、自分の考えたことを表現することができる ③学んだことを主体的に判断して修学旅行の中で生かそうとすることができる	空気に質量があることを実感する事例を取り上げ(または活動し)、気圧について理解し、変化に対応しうる方法を考える。
	6月	●化学変化の利用 酸性・アルカリ性 中和	現場実習	①水溶液を定性的に調べ、酸性、アルカリ性、中和について知り安全かつ有効に使用できるようにする。 ②実験や観察から考察し、自分の考えたことを表現することができる ③生活薬品、生活用品の安全な取り扱いについて意識し、日常生活の中で主体的に判断して生かそうとすることができる	身近な洗剤や調味料だけでなく希塩酸やアンモニア水を使用しあわせて分類する。 リトマス試験紙や指示薬を使用し、定性的な実験を行う。
	7・8月				
	9月	テスト対策	前期期末テスト		
後期	10月	●便利なくらし プラスチック 分別	現場実習	①身の回りの物質について実際に見て触ることを通して、その特徴や利点について理解を深める ②安全に実験に取り組み、自分の考えを周りと共有することができる ③ゴミの分別リサイクルの意義を知り身近な環境への意識を高める。学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	身の回りの物は何でできているのかを考え、その特徴や利点を実験を通して考える。またSDGsの活動を取り上げ自身の考えや行動の参考にできるようにする。
	11月				
	12月	●電気 静電気 回路 電気製品の使い方 ★家庭科		①身の回りの電気器具の安全な取り扱い方についてを実験を通して理解を深める ②安全に実験に取り組み、自分の考えを周りと共有することができる ③電気機器の安全な取り扱い方の意識を高め、電気の節電の仕方など主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	静電気を発生させたり、簡単な回路を作ったりして、電気の存在や電気エネルギーの利点に気づく。 電気器具の安全な取り扱いについて実験を通して考え仲間と共有する。
	1月	●大地・天体 地球・地震 太陽系、月、惑星	現場実習	①地球を取り巻く天体について関心をもつ。 ②太陽、地球、月の位置関係によって季節や月の形の見え方に変化が起きることを知る	太陽、地球、月の位置関係を調べ、その変化について考えをもてるようにする
	2月	テスト対策 ●火山、地層、地震、化石	後期期末テスト	①火山や地層の仕組みについて知り、地震などに関連させて理解を深める ②災害時における対処の仕方について考え、自分の意見を周りと共有することができる ③安全な生活の実現のために災害への対処方法について意識を高め、学んだことを主体的に判断して日常生活に生かそうとすることができる	火山や地層について知り、地震などに関連付けて考える。 園芸用土を用いて火山性の岩石や化石を顕微鏡で観察する。
3月	★社会科				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①科学的な知識や実験等の技能を身に付けている
- ②安全に実験を行い、自分の考えを表現している
- ③日常生活との関係に関心をもち学んだことを生かそうとしている

音楽 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①多様な音楽に親しみ、それらの曲がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて歌ったり、演奏したりするために必要な技能を身に付ける	
②思いや意図をもとに自分たちで音楽表現を工夫するとともに、音楽に対する自分なりのイメージをもちながら、音楽を味わって聴くことができる	
③仲間とともに音楽活動に取り組むことの楽しさを味わい、音楽によって生活を豊かなものにしていく態度を養う	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	【オリエンテーション】 ・音楽室の使い方、座席、持ち物、授業内容など 【歌唱】 ・発声練習 ・校歌 ・対面式の歌	【歌唱】 ①伴奏や周りの声を聞きながら、大きな声で歌う ②歌詞の意味を捉え、それをイメージしながら歌う ③失敗をおそれず挑戦する意欲をもつ	・ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・大きな声で自己紹介をしたり、校歌や対面式の歌を歌ったりする ・校歌や対面式の歌の歌詞が表すことを考える
	5月	【歌唱】 ・部分二部合唱 ※参考p.12 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】【器楽】 ①他パートとの重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかる ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	歌唱【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
	6月	【器楽】 ・リズムアンサンブル ・打楽器の使い方 ※参考p.34	【鑑賞】 ①曲想や構造、多様な楽器の音色といった楽曲の特徴やその国の文化、歴史を理解する ②様々な世界の音楽のよさを感じながら曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・ヨーロッパの歌曲や踊りを体験したり鑑賞したりし、感じたことを共有する
	7・8月	【創作】 ・くり返しのリズム ※参考p.38 【鑑賞】 ・ヨーロッパの音楽（歌曲や踊りなど） ※参考p.18, p.26~31, p.44~47, p.52, p.96~113	【創作】 ①条件に合わせたリズムや言葉を選択する ②リズムアンサンブルで学習したことを活かして創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【創作】 ・グループで曲に合わせたリズムを創り、発表し合う
	9月	【歌唱】 ・二部合唱 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】【器楽】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
後期	10月	【器楽】 ・トーンチャイムやハンドベル	【創作】 ①条件に合わせた音を選択する ②自分が創りたいもののイメージをもち、意図をもって創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【鑑賞】 ・ヨーロッパの歌曲や踊りを体験したり鑑賞したりし、感じたことを共有する
	11月	【創作】 ・調性の選択 ・くり返しの旋律（無拍でリズムの変化のないもの） 【鑑賞】 ・世界の諸民族の音楽 ※参考p.86~95	【鑑賞】 ①曲想や構造、多様な楽器の音色といった楽曲の特徴やその国の文化、歴史を理解する ②様々な世界の音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
	12月	・ヨーロッパの音楽（歌曲や踊りなど） ※参考p.18, p.26~31, p.44~47, p.52, p.96~113	【鑑賞】 ①曲想や構造、多様な楽器の音色といった楽曲の特徴やその国の文化、歴史を理解する ②様々な世界の音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
	1月	【歌唱】 ・三部合唱（卒業式に向けて） ・校歌（卒業式に向けて） ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱のよさ課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】 ・合唱に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
2月	【鑑賞】 ・日本の楽器 ※参考p.36, p.78 ・西洋の楽器 ※参考p.54, p.152	【鑑賞】 ①多様な楽器の音色を知り、その国の文化、歴史を理解する ②日本の音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・日本の楽器や西洋の楽器を体験したり鑑賞したりし、感じたことを共有する	
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①音楽がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて表現している	
②音楽表現を工夫するとともに、音楽を味わって聴いている	
③仲間と取り組む楽しさを味わい、前向きに活動している	



音楽 2年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①多様な音楽に親しみ、それらの曲がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて歌ったり、演奏したりするために必要な技能を身に付ける ②思いや意図をもとに自分たちで音楽表現を工夫するとともに、音楽に対する自分なりのイメージをもちながら、音楽を味わって聴くことができる ③仲間とともに音楽活動に取り組むことの楽しさを味わい、音楽によって生活を豊かなものにしていく態度を養う	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標（何ができるようになるか）	方法（どのように学ぶか）
前期	4月	【オリエンテーション】 ・音楽室の使い方、座席、持ち物、授業内容など 【歌唱】 ・発声練習 ・校歌	【歌唱】 ①伴奏や周りの声に合わせて表現する ②歌詞の意味を捉え、それをイメージしながら歌う ③失敗をおそれず挑戦する意欲をもつ	ICT機器を使用し、適宜展開する。《適年》 ・大きな声で自己紹介をしたり、校歌を歌ったりする ・校歌や対面式の歌の歌詞が表すことを考える
	5月	【歌唱】 ・合唱 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.12 19, p.142	【歌唱】【器楽】 ①他パートとの重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかる ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏を振り返り、よさや課題を考える
	6月	【鑑賞】 ・キーボード ※参考p.150	【鑑賞】 ①北海道の音楽の特徴やその文化、歴史を理解する ②様々な音楽のよさを感じながら曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・北海道の音楽や踊りを体験したり鑑賞したりし、感じたことを共有する
	7・8月	【創作】 ・音の高低を認識した旋律 【鑑賞】 ・北海道の音楽（修学旅行に向けて）	【創作】 ①条件に合わせたリズムや言葉を選択する ②自分が創りたいもののイメージをもち、意図をもって創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
後期	9月	【歌唱】 ・ミュージックデイに向けた合唱 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.12 19, p.142	【歌唱】【器楽】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏を振り返り、よさや課題を考える
	10月	【器楽】 ・ミュージックデイに向けた合奏	【創作】 ①条件に合わせた音やリズムを選択する ②自分が創りたいもののイメージをもち、意図をもって創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラを鑑賞し、感じたことを共有する
	11月	【創作】 ・リズムの変化を取り入れた旋律	【鑑賞】 ①曲想や構造、多様な楽器の音色といった楽曲の特徴やその国の文化、歴史を理解する ②クラシック音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
	12月	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラ ※参考p.34 51, p.158		
	1月	【歌唱】 ・合唱（卒業式に向けて） ・校歌（卒業式に向けて） ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.12 19, p.142	【歌唱】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱のよさ課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】 ・合唱に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏を振り返り、よさや課題を考える
2月		【鑑賞】 ①日本の音楽の特徴やその文化、歴史を理解する ②日本の音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・日本の音楽を鑑賞し、感じたことを共有する	
3月	【鑑賞】 ・日本の音楽 ※参考p.140 143			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①音楽がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて表現している ②音楽表現を工夫するとともに、音楽を味わって聴いている ③仲間と取り組む楽しさを味わい、前向きに活動している	

音楽 3年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①多様な音楽に親しみ、それらの曲がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて歌ったり、演奏したりするために必要な技能を身に付ける	
②思いや意図をもとに自分たちで音楽表現を工夫するとともに、音楽に対する自分なりのイメージをもちながら、音楽を味わって聴くことができる	
③仲間とともに音楽活動に取り組むことの楽しさを味わい、音楽によって生活を豊かなものにしていく態度を養う	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標（何ができるようになるか）	方法（どのように学ぶか）
前期	4月	【オリエンテーション】 ・音楽室の使い方、座席、持ち物、授業内容など 【歌唱】 ・発声練習 ・校歌	【歌唱】 ①伴奏や周りの声に合わせて表現する ②歌詞の意味を捉え、それをイメージしながら歌う ③失敗をおそれず挑戦する意欲をもつ	ICT機器を使用し、適宜展開する。（適年） ・大きな声で自己紹介をしたり、校歌を歌ったりする ・校歌や対面式の歌の歌詞が表すことを考える
	5月	【歌唱】 ・合唱 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】【器楽】 ①他ハートとの重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
	6月	【器楽】 ・合奏 ※参考p.132~137 ※生徒の興味や実態に応じて楽器を選択 【創作】 ★国語 ・詩を元にした旋律	【鑑賞】 ①クラシック音楽の特徴やその文化、歴史を理解する ②クラシック音楽のよさを感じながら曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラを鑑賞し、感じたことを共有する
	7・8月	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラ ※参考p.2, p.42, p.48~51, p.56~59, p.108~111, p.150	【創作】 ①条件に合わせた音を選択する ②自分が創りたいもののイメージをもち、意図をもって創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
後期	9月	【歌唱】 ・ミュージックデイに向けた合唱 ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】【器楽】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱、合奏のよさや課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】【器楽】 ・合唱、合奏に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
	10月	【器楽】 ・ミュージックデイに向けた合奏	【創作】 ①条件に合わせた音やリズムを選択する ②自分が創りたいもののイメージをもち、意図をもって創作に取り組む ③自他のよさを認め合いながら、創作に取り組むことの楽しさを味わう	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラを鑑賞し、感じたことを共有する
	11月	【創作】 ・リズムの変化を取り入れた旋律	【鑑賞】 ①曲想や構造、多様な楽器の音色といった楽曲の特徴やその国の文化、歴史を理解する ②クラシック音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【創作】 ・個人で短い旋律を創り、発表し合う
	12月	【鑑賞】 ・オペラやオーケストラ ※参考p.2, p.42, p.48~51, p.56~59, p.108~111, p.150		
	1月	【歌唱】 ・合唱（卒業式に向けて） ・校歌（卒業式に向けて） ・季節の歌（共通教材、唱歌、民謡など） ※参考p.16, p.20~25, p.80~85, p.114~116	【歌唱】 ①各パートの特徴やその重なりを理解し、周りの音に合わせて表現する ②自分たちの合唱のよさや課題がわかり、課題を克服できるよう表現を工夫する ③自他のよさや課題を認め合いながら、くり返し表現に取り組む	【歌唱】 ・合唱に取り組み、それをビデオ撮影し、鑑賞するなどして自分たちの演奏をふり返り、よさや課題を考える
	2月	【鑑賞】 ・日本の音楽 ※参考p.4, p.70~77	【鑑賞】 ①日本の音楽の特徴やその文化、歴史を理解する ②日本の音楽のよさを感じながら、曲全体を味わって聴く ③多様な音楽文化に親しみ、音楽に関する世界を広げる	【鑑賞】 ・日本の音楽を鑑賞し、感じたことを共有する
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①音楽がもつ特徴を理解するとともに、他者と合わせて表現している	
②音楽表現を工夫するとともに、音楽を味わって聴いている	
③仲間と取り組む楽しさを味わい、前向きに活動している	

美術 1年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫し、創造的に表現することができる
- ②造形的なよさや美しさなどについて考え、豊かに発想したり美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めることができる
- ③創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う

学習計画

	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション ◎平面構成（色について） ・3色で12色相環を作る	①色について学び、新しい色の作り方や道具の使い方について知ることができるようになる。 ②自分の作りたい色をイメージしたり、どうすればその色を作れるかを考えたりすることができるようになる。 ③日常にある色について興味をもったり、今後の作品制作で活用したりすることができるようになる。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。 （通年）  ・色の三原色など、基礎を学ぶ。 ・三原色を使って12色相環を描く。
	5月			
	6月	◎立体（塑造） ・粘土のお弁当作り	①立体造形作品について学び、中でも粘土の扱い方や道具の使い方について知ることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③どのような道具で、どのように工夫していくかを考え、自分なりの作品を楽しみながら作り上げることができるようになる。	・粘土の性質について学ぶ ・よく観察しながら、ヘラや糸などを使って制作する。
	7・8月			
	9月			
後期	10月	◎イラストレーション ・フェナキストスコープ作り	①絵が動く仕組みについて知り、簡単なオリジナルアニメーションを作ることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③簡単なアニメーション作品を作ること、普段目にするアニメーションに、より興味関心をもって触れることができるようになる。	・アニメの歴史と原理を学ぶ。 ・フェナキストスコープでアニメを制作する。
	11月			
	12月	◎絵画（切り絵） ・紙のランタン作り	①切り絵について学び、道具を適切に使ったり安全に気を付けながら制作したりすることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③作品を通してイベントに参加することで、大きな輪としての繋がりが、外への興味関心をもつことができるようになる。	・ランタンフェスティバルに参加し、様々な作品に触れる。
	1月			
	2月			
3月	◎後期期末テスト	①ポップアップカードの仕組みや作り方について知り、はさみやカッターを安全に使って作品制作することができるようになる。 ②丁寧に作り上げることや、全体のバランスを考えながら制作を進めることができるようになる。 ③卒業生へ感謝の気持ちを込めながら作品作りを行うことができるようになる。	・完成までの工程を段階的に提示する。 ・できたこと、できなかったことを確認し振り返りを行う。	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①造形的な視点について理解し、創意工夫して表現していた
- ②豊かに発想し、美術文化などに対する見方や感じ方を深めていた
- ③美術を楽しみ、心豊かに作品を創造していた

美術 2年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫し、創造的に表現することができる ②造形的なよさや美しさなどについて考え、豊かに発想したり美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めることができる ③創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う	

学習計画		目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)	
前期	4月	◎オリエンテーション ◎絵画(昔の絵遊び) ・判じ絵作り	①判じ絵について学び、絵遊びの解き方や作り方について知ることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③判じ絵を作ったり解いたりすることで、絵画の楽しさを味わうことができるようになる。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年) ・判じ絵について知る。 ・できた作品をクイズにして共有、鑑賞す
	5月	◎絵画(現代の絵遊び) ・だまし絵について	①だまし絵作品を鑑賞し、作品の観方や楽しみ方を知ることができる。 ②絵画を通して、見方や考え方を考えることで、新しい見方や発見ができるようになる。 ③だまし絵について関心をもち、他の芸術作品や芸術家にも興味をもつことができるようになる。	・だまし絵作品を通して、見方や考え方を考えてみながら鑑賞する。
	6月	◎立体(デザイン) ・お菓子のパッケージデザイン	①デザインについて学び、日常にある様々なものとデザインの繋がりを知る ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。ことができるようになる。 ③使う人のことを考えてデザインしたり、使いやすさをイメージしながら制作を進めることができるようになる。	・誰に向けて、どのような作品を作るのか、よく考えて制作を進める。
	7・8月			
	9月	◎平面(デザイン) ・健康と安全ポスター展作品作成	①これまでの入賞作品からイメージを膨らませたり、学んできたことを活かして作品制作に取り組むことができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③学んできた技法を使い、自分のイメージに合った表現をすることができるようになる。	・これまでの受賞作品を鑑賞する。 ・相手に伝えることを意識して描くようにする。
後期	10月	◎絵画(版画) ・ドライポイントで動物画	①新しい道具や表現方法を知り、適切に使ったり安全に気を付けながら制作したりすることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③新しい技法や道具に触れることで、さらに絵画や創作活動に興味関心をもつことができるようになる。	・誰に向けて、どのような作品を作るのか、よく考えて制作を進める。
	11月			
	12月			
	1月	◎立体(陶芸) ・植木鉢づくり ◎後期期末テスト	①彫塑について学び、新しい技法や道具の使い方について知ることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③より美しいものや、より良いもの追求して制作を進めることができるようになる。	・見本と自分の作品を比較しながら、より良いものを追求していく。 ・様々な焼き物に触れて、焼き物の特性に関心をもちながら自分の作品づくりに生かしていく。
	2月	◎今年の自分漢字イラスト	①漢字のレタリング技法について学び、作品作りに生かすことができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③学んできた技法を使い、自分のイメージに合った表現をすることができるようになる。	・見本と自分の作品を比較しながら、より良いものを追求していく。
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①造形的な視点について理解し、創意工夫して表現していた ②豊かに発想し、美術文化などに対する見方や感じ方を深めていた ③美術を楽しみ、心豊かに作品を創造していた	

美術 3年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①造形的な視点について理解し、表現方法を創意工夫し、創造的に表現することができる
- ②造形的なよさや美しさなどについて考え、豊かに発想したり美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めることができる
- ③創造活動の喜びを味わい、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養う

学習計画

月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月 ◎オリエンテーション ◎絵画（鑑賞） ・ピカソについて ・ピカソ風自画像制作	①一人の芸術家から表現の違いや時代背景について知り、より美術に興味をもつことができるようになる。 ②芸術家の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③芸術家の生涯について知り、描くことをより自由に考え表現できるようにする。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。 （通年） ・ピカソの作品を鑑賞する。 ・ピカソになりきって
	5月 6月 7月 8月 ◎平面構成（光の芸術） ・スタンドアート（共同制作）	①スタンドグラスについて学び、光の表現や技法を知ることができる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③共同制作を通して仲間と協力して作品を作り上げる喜びを味わうことができるようになる。	・一つの作品を仲間と協力して制作する。
	9月 ◎伝統工芸（しぼり染め） ・手ぬぐいの染物	①伝統技法について学び、しぼり方によって柄のパターンが変わることを知ることができる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③日常で使う道具に美術を足すことで、より豊かな生活に近づけることができるようになる。	・絞り方について知り、作りたい模様をイメージする。
	10月 11月 12月 ◎絵画（平面構成） ・透視図法で描く ◎平面構成（色の組み合わせ） ・組み紙（紙を編む）	①透視図法の技術を学ぶことで立体的に見える作品を描くことができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③学んだことを活かして部屋をデザインすることや飛び出すような文字などを描くことができるようになる。 ①色の特性について学び、組み合わせの構成を考えることができるようになる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③色について知識を深め、コーディネートなど普段の生活に活かすことができるようになる。	・透視図法を知り、活用して立体的な作品を描く。 ・色の特性や見え方について学ぶ。 ・組み紙でオリジナルの作品を作る。
後期	1月 ◎平面（版画） ・消しゴム判子作り	①判子の歴史や道具について学び、作り方を知ることができる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③作品を作りながら完成をイメージして、より理想に近い作品を作りあげることができるようになる。	・目的を意識しながら役割を確認して制作する。 ・国語の書初めと連動して完成をイメージしながら制作する。
	2月 ◎伝統工芸（七宝焼き） ・七宝焼きアクセサリー作り	①七宝焼きについて学び、表現方法や技法を知ることができる。 ②周りの人の作品を鑑賞し、よさや美しさを感じ取ったり発表したりすることができるようになる。 ③偶発的にできた色や模様を楽しみ、新しい技法や表現方法に興味を持つことができるようになる。	・七宝焼きについて学ぶ。 ・道具や技法について知り、安全に注意して制作する。
	3月		

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①造形的な視点について理解し、創意工夫して表現していた
- ②豊かに発想し、美術文化などに対する見方や感じ方を深めていた
- ③美術を楽しみ、心豊かに作品を創造していた

保健体育 1年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①ルールや運動特性を理解し、運動を楽しむための基本的・応用的技能を身につける
- ②自他の課題に気づき、解決に向けて工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者と伝え合う
- ③心身の発達に関心をもち、生涯にわたって運動・健康・安全に主体的に取り組む態度を身につける

学習計画				
	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標（何ができるようになるか）	方法（どのように学ぶか）
前期	4月	【体育】 ・新体力テスト	【体育】 ①継続して運動することが健康な生活に必要なことを理解する ②自分の体力の変化と課題を知り、日常的に取り組める具体的な方法を考える ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る 【保健】 ①自立に向けた身だしなみの整え方について知る ②互いに身だしなみチェックを行い、評価し合う ③社会人としてふさわしい身だしなみが自分で意識できるようになる	・ICT機器を利用し、適宜展開する（道年） 【体育】 ・測定結果を得点化し、得意や課題を分かりやすく知るために円グラフを活用する 【保健】 ・身だしなみを整えるために道具を実際使用
	5月	【体育】 ・運動会練習 【保健】 ・生活習慣病とその予防	【体育】 ①仲間と一緒に運動したり、応援したりすることの楽しさを感じることができる ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③自ら交流を図り、運動会の見通しをもって取り組むことができる 【保健】 ①生活習慣病が生活習慣との関係が深いことを知る ②望ましい生活習慣について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自分の生活をふり返り、生活習慣の改善への意識を高める	【体育】 ・仲間と意見を話し合ったり、協力したりして活動に取り組む ・競技進行に向けた役割分担を行い、その責任を果たす 【保健】 ・グループワークを通して、望ましい生活習慣について考えを深める
	6月	【体育】 ・ティールボール ・バドミントン 【保健】 ・環境の変化と適応能力（熱中症）★	【体育】 ①ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る 【保健】 ①熱中症の症状や手当の仕方、熱中症の予防方法について知る ②熱中症の手当てや予防方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自らの健康のために、環境の変化に対応しようとする力を身につける 自らの健康のために、はっきりと断る強い意志をもてるようになる	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う 【保健】 ・事例を参考にしながら、その場での適切な行動を考えて発表し合う
	7・8月	理科 ・喫煙と健康	【体育】 ①熱中症の症状や手当の仕方、熱中症の予防方法について知る ②熱中症の手当てや予防方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自らの健康のために、環境の変化に対応しようとする力を身につける 自らの健康のために、はっきりと断る強い意志をもてるようになる	【保健】 ・事例を参考にしながら、その場での適切な行動を考えて発表し合う
	9月	【体育】 ・サッカー ・バスケットボール 【保健】 ・人間の身体づくり★理科 ・男女の身体づくり（二次性徴） ・応急手当の意義と基本	【体育】 ①ルールを理解し、パスやシュートなどの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る 【保健】 ①自分の身体づくりや二次性徴について正しく知る AEDの使用法や心肺蘇生法の流れについて知る ②二次性徴に伴う心身の変化について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自他の身体づくりの違いや二次性徴に伴う心の変化に向き合い、お互いを思いやる態度を身につける 実際の場面でも落ち着いて適切な行動がとれるようにイメージをもつ	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う 【保健】 ・グループワークを通して、仲間と悩みを共有しつつ、考えを深める ・練習用のAED機器や人形を用いての体験学習を行う
後期	10月			
	11月			
	12月	【陸上競技】 ・長距離走	【陸上競技】 ①走ることに楽しさを感じながら、自分に適したペースを維持して走る ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る 【保健】 ①未成年の飲酒が心身に悪影響を及ぼす危険性があることを知る ②飲酒への誘いを断る方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自らの健康のために、自分に合ったストレス対処法を見つける	【体育】 ・毎時間の目標や課題をふり返りシートに記入する 【保健】 ・ロールプレイングしながら飲酒の断り方を発表し、実践的に学習する ・事例を参考にしながら、ストレスを感じたときの適切な行動を考えて発表し合う
	1月	【保健】 ・飲酒と健康 ・心の健康（ストレスへの対処）	【保健】 ①未成年の飲酒が心身に悪影響を及ぼす危険性があることを知る ②飲酒への誘いを断る方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自らの健康のために、自分に合ったストレス対処法を見つける	【保健】 ・事例を参考にしながら、ストレスを感じたときの適切な行動を考えて発表し合う
	2月	【体育】 ・ソフトバレーボール	【体育】 ①ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う 【保健】 ・道具を用いての体験学習を行い、気づきを発表し合う
	3月	【保健】 ・性機能の成熟（二次性徴） ・性機能の成熟（射精と月経）	【保健】 ①二次性徴や射精・月経のしくみについて正しく知る ②エッチングやマナーについて考えたことを発表し、互いに共有できる ③射精・月経の正しい対処方法を身につけ、生涯にわたって心身の変化に向き合う態度を身につける	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①ルールや運動特性を理解し、基本的技能を身に付けている
- ②課題解決に向けて考えたことを他者に伝えようとしている
- ③運動や健康等に関心をもち、自主的に学習に取り組もうとしている

保健体育 2年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①ルールや運動特性を理解し、運動を楽しむための基本的・応用的技能を身につける
- ②自他の課題に気づき、解決に向けて工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者と伝え合う
- ③心身の発達に関心をもち、生涯にわたって運動・健康・安全に主体的に取り組む態度を身につける

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	【体育】 ・新体カテスト	【体育】 ①継続して運動することが健康な生活に必要なことを理解する ②自分の体力の変化と課題を知り、日常的に取り組める具体的な方法を考える ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	・ICT機器を利用し、適宜展開する（通年） 【体育】 ・測定結果を得点化し、得意や課題を分かりやすくするために円グラフを活用する
	5月	【体育】 ・運動会練習	【体育】 ①仲間と一緒に運動したり、応援したりすることの楽しさを感じることができる ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③自ら交流を図り、運動会の見通しをもって取り組むことができる	【体育】 ・仲間と意見を話し合ったり、協力したりして活動に取り組む ・競技進行に向けた役割分担を行い、その責任を果たす
	6月	【体育】 ・テニス ・バドミントン  【保健】 ・感染症とその予防) ★理科	【体育】 ①ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る  【保健】 ①感染症や性感染症の症状や感染経路、予防方法について知る ②感染症や性感染症の予防方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自分や周りの健康のために自分ができることについて考えられるようになる	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う 【保健】 ・図やビデオを活用する ・ワークシートに自分の気持ちを記入できるようにする
	7・8月	【保健】 ・男女の身体のづくり	【保健】 ①自分や異性の身体のづくりや二次性徴について正しく知る ②二次性徴に伴う心身の変化について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自分や異性の身体や心を尊重し合うための考え方や態度を身につける	・グループワークを通して、仲間と悩みを共有しつつ、考えを深める
	9月	【体育】 ・サッカー ・バスケットボール	【体育】 ①ルールを理解し、パスやシュートなどの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う
後期	10月	【保健】 ・性機能の成熟（受精と妊娠）★家庭科	【保健】 ①受精と妊娠のしくみや自分や異性の身体について正しく知る ②受精や妊娠に関する感想や不安なことを共有できる ③自分や異性の身体や心を尊重し合うための考え方や態度を身につける	【保健】 ・図やビデオを活用する ・ワークシートに自分の気持ちを記入できるようにする
	11月	【体育】 ・長距離走  【保健】 ・応急手当の意義と基本	【体育】 ①走ることを楽しみながら、自分に適したペースを維持して走る ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る  【保健】 ①AEDの使用法や心肺蘇生法の流れについて知る ②体験学習をしての感想や応急手当の必要性について発表し、仲間と共有できる ③実際の場面でも落ち着いて適切な行動がとれるようにイメージをもつ	【体育】 ・毎時間の目標や課題をふり返りシートに記入する  【保健】 ・練習用のAED機器や人形を用いての体験学習を行う
	12月	【体育】 ・ソフトバレーボール	【体育】 ①ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う
	1月			

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①ルールや運動特性を理解し、基本的技能を身に付けている
- ②課題解決に向けて考えたことを他者に伝えようとしている
- ③運動や健康等に関心をもち、自主的に学習に取り組もうとしている

保健体育 3年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①ルールや運動特性を理解し、運動を楽しむための基本的・応用的技能を身につける
- ②自他の課題に気づき、解決に向けて工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者と伝え合う
- ③心身の発達に関心をもち、生涯にわたって運動・健康・安全に主体的に取り組む態度を身につける

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	【体育】 ・新体カテスト	【体育】 ①継続して運動することが健康な生活に必要なことを理解する ②自分の体力の変化と課題を知り、日常的に取り組める具体的な方法を考える ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	・ICT機器を利用し、適宜展開する（通年） 【体育】 ・測定結果を得点化し、得意や課題を分かりやすくするために
	5月	【体育】 ・運動会練習	【体育】 ①仲間と一緒に運動したり、応援したりすることの楽しさを感じることができる ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③自ら交流を図り、運動会の見通しをもって取り組むことができる	【体育】 ・仲間と意見を話し合ったり、協力したりして活動に取り組む ・競技進行に向けた役割分担を行い、その責任を果たす
	6月	【体育】 ・テニス ・バドミントン	【体育】 ①ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う
	7・8月	【保健】 ・薬物乱用と健康	【保健】 ①薬物が健康面や社会性に悪影響を及ぼす危険があることを知る ②薬物への誘いを断る方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③自らの健康のために、はっきりと断る強い意志をもてるようになる	【保健】 ・ロールプレイングしながら薬物への断り方を発表し、実践的に学習する
	9月	【体育】 ・サッカー ・バスケットボール	【体育】 ①ルールを理解し、パスやシュートなどの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・実際のプレーを見ながらルールや基本的な技術を学ぶ ・ゲームの前後に作戦や課題について話し合う
後期	10月	【保健】 ・性どう向き合うか（性情報への対応と責任ある行動）	【保健】 ①性情報は、容易に得ることができる反面、誤った情報があることを知る ②正しい性情報の判断する方法について考えたことを発表し、互いに共有できる ③責任ある行動がとれるように、正しく判断しようとする意識をもつ	【保健】 ・事例を参考にしながら、その場での適切な行動を考えて発表し合う
	11月			
	12月	【体育】 ・長距離走 ・ソフトバレーボール	【体育】 ①走ることを楽しみを感じながら、自分に適したペースを維持して走る ルールを理解し、打ち方などの技術を身につけて、ゲームで活かす ②個人目標やチームでの作戦を考え、達成に向けたふり返りや話し合いができる ③仲間と協力して、安全に活動するための決まりやマナーを守る	【体育】 ・毎時間の目標や課題をふり返りシートに記入する
	1月	【保健】 ・応急手当の意義と基本	【保健】 ①AEDの使用法や心肺蘇生法の流れについて知る ②体験学習をしての感想や応急手当の必要性について発表し、仲間と共有できる ③実際の場面でも落ち着いて適切な行動がとれるようにイメージをもつ	【保健】 ・練習用のAED機器や人形を用いた体験学習を行う
	2月			
3月				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①ルールや運動特性を理解し、基本的技能を身に付けている
- ②課題解決に向けて考えたことを他者に伝えようとしている
- ③運動や健康等に関心をもち、自主的に学習に取り組もうとしている



家庭 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①家族・家庭の役割について考え、生活の自立に必要な家族・家庭・衣食住についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。 ②家族や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ③家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	【オリエンテーション】学習内容 【家族・家庭生活】P2～3 ○自立・青年期 ○身だしなみ職基（通年） 制服の着方、手入れの仕方	①自立した生活を送るための知識・技能を知る。 ②青年期の自立について考え、自分の課題や目標を必要に沿った取組を意識する。 ③卒後の生活をイメージし自立した生活の実現に向けて実践しようとしている。 ①好感もてる身だしなみを知る。 ②周りの人を意識した着用の仕方を実践できる。 ③就労を意識した身だしなみを考え実践する意欲をもつ。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・各成長期について考え、ワークシートにまとめ、考えたことを発表し合う。 ・視聴覚教材を視聴して学習を深める。
	5月	【衣食住の生活】 ・衣服の素材・表示 p82～83 ・洗濯表示 p84～85 ・洗剤のはたらき ・アイロンがけ p86～87	【衣生活】 ①衣服と社会生活との関わりが分かる。 ②TPOに応じた衣服選択の大切さがわかり生活に生かすことができる。 ③衣服や日常の衣生活に関心をもつことができる。	・小中学校の学習内容をふり返る。 ・衣服の保健衛生上、社会生活上の役割を考える。 ・視聴覚教材を視聴し学習を深める。 ・衣服の繊維に
	6月	【衣食住の生活】 ○衣服の役割 p72～75 ○衣服の選択と手入れ p80～81 ○衣服の購入と衣服の表示 p80～81	【衣生活】 ①衣服の手入れの方法について知る。 ②衣類に合った扱い方を考える。 ③衣服の手入れを日常生活で実践しようとする。	に触る。洗剤のはたらきについて実験・観察する。 ・洗濯・アイロンがけの実習をする。
	7・8月	【衣食住の生活】 ・食事の役割・朝食の役割 ・調理の身支度 ・アイロンのかけ方 p86～87	【食生活】 ①食との役割についての理解する。 ②食事の役割を考え自分自身の食生活の課題を解決しようとする。 ③生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身に付けようとしている。	・健康の維持について考え、食事や朝食の大切さについて考える。 ・アイロンがけの実習をする。
	9月	【衣食住の生活】 ・調理室の使い方・調理道具の使い方 ・包丁の使い方 ・食品を切ってみよう p52～53	①調理に必要な身支度や用具・器具などを正しく使用することができる。 ②調理器具を安全に使うために周りに配慮した声掛けや仲間と相談し協力しながら作業できる。 ③健康で安全な食生活を営む力を付けようとしている。	・包丁の扱い方といろいろな切り方を練習する。 ・調理実習を行う。 ・調理室の使い方や器具の使い方について知る。
後期	10月	【衣食住の生活】 ○買い物しよう レシートや消費税について ・消費者教育（契約と約束の違い）	【消費生活】 ①レシートの見かたがわかる。 ②日常生活で食品の表示や値段を確認しながら買い物できるようにする。 ③いろいろな日常生活で生かせるようにする。	・レシートを活用して書かれている情報を確認する。
	11月	【衣食住の生活】 ○簡単な食事作り ・ひとりで作れる料理 p54～63 ・栄養素の種類とはたらき p28～29	①食材の扱い方やその調理方法がわかる。 ②積極的に調理に取り組むことができる。 ③調理の基本に関心をもち実践しようとしている。	・5大栄養素やそのはたらきを考え、水・食物繊維についても考える。 ・理科の資料集などを参考にする。 ・視聴覚教材を視聴し学習を深める。
	12月	【衣食住の生活】 ○簡単な食事作り ・ひとりで作れる料理 p54～63 ・栄養素の種類とはたらき p28～29	①調理器具を安全に正しく扱い手順書を確認しながら作業をする。 ②仲間と相談、協力しながら調理実習ができるようになる。 ③効率を意識して工夫して調理ができるようになる。	・栄養素を考え、調理実習を行う。
	1月	【衣食住の生活】 裁縫用具の使い方 ○衣服のトラブル ・玉結び・玉止め ・基本の縫い方（なみ縫い）	【衣生活】 ①正しい用具の使い方や基礎縫いの方法がわかる。 ②縫い代を測り、正しい縫い方で製作に取り組む。 ③自分の衣生活のなかで学んだ縫い方を活用できるようにする。	・基礎縫いをワークシートや練習布で練習する。 ・作品の製作をする。
	2月	【衣食住の生活】 ○生活に役に立つものを作ろう p92～95 ・ひとりで簡単に作れる食事	【衣生活】 ①正しい用具の使い方や基礎縫いの方法がわかる。 ②縫い代を測り、正しい縫い方で製作に取り組む。 ③自分の衣生活のなかで学んだ縫い方を活用できるようにする。	・調理実習を行う。 ・作品の製作をする。
	3月	【衣食住の生活】 ○生活に役に立つものを作ろう p92～95 ・ひとりで簡単に作れる食事	【衣生活】 ①正しい用具の使い方や基礎縫いの方法がわかる。 ②縫い代を測り、正しい縫い方で製作に取り組む。 ③自分の衣生活のなかで学んだ縫い方を活用できるようにする。	・調理実習を行う。 ・作品の製作をする。

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている ②生活上の課題を設定し、解決方法を考え解決しようとしている ③家庭生活を大切にし、生活を工夫し改善しようとしている	

家庭 2年

目標

①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①家族・家庭の役割について考え、生活の自立に必要な家族・家庭・衣食住についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けようとする。  
 ②家族や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。  
 ③家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

学習計画

月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）	
前期	4月	【オリエンテーション】 【家族・家庭生活】 p4~5 ○自分の成長と家族 ★職基（通年） 【衣食住の生活】 ○旅したくをしよう p73	【家族・家庭生活】 ①自立した生活を送るための知識・技能を知る。 ②自分の課題を目標に沿った取組を意識する。 ③卒後の生活をイメージし自立した生活を送るために必要なことを知る。 【衣食住の生活】 ①衣服と社会生活との関わりがわかる。 ②TPOに応じた衣服選択の大切さがわかり生活に生かすことができる。 ③衣服や日常の衣生活に関心を持つことができる。 ④旅行に必要な荷物の整え方を知る。 ⑤目的や気候に応じた衣服やコーディネートができる。 ⑥荷物を行程に合わせ準備し整え効率よい詰め方を考え工夫できる。	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・視聴覚教材（NHK高校講座）を視聴して学習を深める。 ・くらしとお金（副教材）にまとめ仲間のよさや自己理解をする。 ・ワークシートに学習内容をまとめ発表し合う。 ・ファッション雑誌や広告などを用意する。 ・実際の衣服などを見て興味・関心をもつ。 ・修学旅行を意識して現地の気候や衣食住文化を調べらる。
	5月	【衣食住の生活】 ○マナーについて ・洋食のマナー ・和食のマナー ・箸の使い方 ・日本茶の淹れ方やいただき方 ・公共施設・ホテルのマナー	【衣食住の生活】 ①社会人として飛鷹なマナーを知る。 ②自分や周囲の人のマナーについて考えその課題がわかる。 ③マナーと社会生活の関わりを考え社会生活を円滑に送るためにマナーを意識し実践していくこととする。	・社会生活を送る上で気をつけていることや社会生活に必要なマナーについて考え発表し合う。 ・ワークシートに学習内容をまとめる。 ・洋食の食事の仕方やテーブルセッティングを実際に行う。 ・簡単な洋食を用意して実際に食べる練習をする。 ・箸の使い方を練習する。 ・ワークシートを利用して学習内容をまとめたり調べたりする。 ・仲間と話し合いを促し発表して意見を認め合う。
	6月	○基礎縫いを使って作ろう ○献立を考えよう p42~43 ・献立の条件 ・栄養バランス ★理科 ・6つの基礎食品・食品群別摂取量の目安 ○食品の選び方（生鮮食品、加工食品）	①正しい縫い方で縫うことができる。 ②必要に応じた縫い方が工夫できるようになる。 ③基礎縫いの方法を活用して衣服の簡単な作品ができるようになる。	・作品の製作をする。 ・5大栄養素とはたらきを考え、一日の献立を考えて、発表する。 ・加工食品の特徴を知り、上手な選び方を知る。 ・生鮮食品の選び方や俊を知る。
	7月	○基礎縫いを使って作ろう ○献立を考えよう p42~43 ・献立の条件 ・栄養バランス ★理科 ・6つの基礎食品・食品群別摂取量の目安 ○食品の選び方（生鮮食品、加工食品）	①献立をたてるための手順や必要な条件がわかる。 ②一食分の栄養バランスについて考え、簡単な朝食の献立を考えられる。 ③調理時間を考え効率の良い調理を工夫し実践できる。 ④生鮮食品や加工食品の特徴を知る。 ⑤食品の見分け方や保存方法などの表示を確認して購入できるようになる。 ⑥健康で安全な食生活を営む力を身に付けようとしている。	・作品の製作をする。 ・5大栄養素とはたらきを考え、一日の献立を考えて、発表する。 ・加工食品の特徴を知り、上手な選び方を知る。 ・生鮮食品の選び方や俊を知る。
	8月	○基礎縫いを使って作ろう ○献立を考えよう p42~43 ・献立の条件 ・栄養バランス ★理科 ・6つの基礎食品・食品群別摂取量の目安 ○食品の選び方（生鮮食品、加工食品）	①加工食品を使用した調理の種類を知る。 ②加工食品の利点を生かした調理方法を行えるようにする。 ③食生活を送る上で加工食品を上手に利用し生活に生かそうとする。	・実際に様々な食品を見る。 ・食品添加物の有無について食品を比べる。（ハムなど） ・インスタント食品の調理や出し巻き卵、青菜の調理を行う。 ・視聴覚教材（NHK高校講座）を視聴して学習を深める。
	9月	○食品の表示、食品添加物 ・食品の保存 p48~49 ○インスタント食品の利用 p46~47 （レトルト食品・冷凍食品等）	①和食の特徴や行事を知る。 ②和食のよさを感じ意欲的に調理に取り組むことができる。 ③多様な食文化を知り、和食のよさや調理法について関心をもち日常生活に取り入れようとする。	・郷土食や日本の伝統行事食について発表し合う。
	10月	○日本の食文化を知ろう p68~69 ・だし巻き卵を作ろう（卵の栄養） ・青菜をゆでよう（青菜の栄養）	①リンゴについての知識を高め、正しく包丁を使ってリンゴの皮むきができる。 ②リンゴの利用について安全な包丁の使い方を工夫して取り組もうとする。 ③リンゴの栄養に関心をもち日常生活に取り入れようとする。	・知っているリンゴの種類を発表しあう。 ・試食して味の違いを比べる。 ・皮むきの練習を行う。
	11月	○包丁の練習をしよう（リンゴの皮むき等の仕方）★数学 ・リンゴの種類や栄養	①正しい縫い方でぬいおとができる。 ②必要に応じた縫い方ができる。 ③基礎縫いの方法を活用して衣服の簡単な作品ができるようになる。	・作品の製作をする。 ・調理実習を行う。
	12月	○基礎縫いを使って作ろう p92~95 ・衣生活の工夫 ○食事を作ろう p54~67 ・肉料理・魚料理	①調理器具を安全につかうために周りに配慮した声掛けができる。 ②報告・連絡・相談や仲間と協力しながら調理実習することができる。 ③効率や手順を意識し工夫して調理を行うことができる。	・知っている肉や野菜についてや料理について発表し合う。 ・ワークシートの記入や資料などで調べて学習を深める。
後期	1月	・肉料理・魚料理	①肉や魚の種類や特徴、肉料理を知る。 ②肉や魚の種類のふさわしい調理方法を選び工夫し実践しようとする。 ③肉や魚の調理方法について関心をもち日常生活に取り入れようとする。 ④現代の食生活における環境問題を知る。	・調理実習を行う。 ・家庭生活や調理実習、新聞や書籍、インターネットによる資料集などを通して考えをまとめたり発表したりする。 ・視聴覚教材（NHK高校講座）を視聴して学習を深める。
	2月	・食生活と環境 p70~71	①調理器具を安全につかうために周りに配慮した声掛けができる。 ②報告・連絡・相談や仲間と協力しながら調理実習することができる。 ③効率や手順を意識し工夫して調理を行うことができる。	・視聴覚教材（NHK高校講座）を視聴して学習を深める。 ・自分の1年間の成果や課題をまとめ発表し合う。
	3月	・食生活と環境 p70~71 ・1年間のふり返り	①生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付ける。 ②自分お生活上の課題を知り実践し工夫しようとする。	

評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている  
 ②生活上の課題を設定し、解決方法を考え解決しようとしている  
 ③家庭生活を大切にし、生活を工夫し改善しようとしている

家庭 3年

目標

①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①家族・家庭の役割について考え、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする
- ②家族や地域における生活の中から問題を見だし課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う
- ③家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う

学習計画

月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月 【オリエンテーション】 【家族・家庭生活】 ○自立 P2～P4 ○社会人としての身だしなみとエチケット	【家族・家庭生活】 ①自立的な生活に必要な知識・技能を知る ②自分の課題を知り目標に沿った取り組みを意識する ③卒後の生活をイメージし自立した生活を送るために必要なことを知る ・就労を意識した身だしなみを考え実践する意欲をもつ	・ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・視聴覚教材を視聴して、より学習を深める ・ワークシートへ記入し自己理解を深める ・考えをまとめ発表し合う
	5月 【家族・家庭生活】 ○幼児の生活と家族 ・自分の成長と家族・家庭 P4～P15 ・幼児の成長 P8～P22 ・生活と家族 ★保健体育 ★公民	【家族・家庭生活】 ①各ライフステージの特徴・課題について理解する ②家族とは何かを様々な観点から考え自分なりの考えをもつ ③家族の一員として自分の役割を考え生活を向上しようとする ④子どもの誕生・成長・発達・環境について知る ⑤子どもの心身の特徴や発達、遊びの意義をとらえ子どもにとって良い環境について考え自分なり意見をもつ ⑥生命の尊さを認識し保育における親の役割について考える	・視聴覚教材を視聴して、より学習を深める ・ワークシートへ記入し自己理解を深める ・自分の成長の過程をふり返る ・幼少期を思い出し好きだった事柄や食べ物を思い出す ・幼児のおやつの内容を話し合う ・調理実習を行う
	6月 【衣食住の生活】 ○幼児の簡単なおやつ P64～65 ○お弁当作り ・お弁当の条件 P40～41 ・季節の食事（弁当など） P43 旬の野菜	【衣食住の生活】 ①幼児にふさわしい食品や調理法を知る ②幼児との生活を想像しておやつづくりの計画をたてられる ③幼児期にふさわしいおやつを考え実践できる	・料理（弁当など）の献立を話し合う ・調理実習を行う
	7・8月 ○生活を楽しもう P86～89 ・自分らしく暮らすために ○持続可能な生活 ・リサイクル リユース ゴミの分別	①食事（料理や弁当など）に必要な条件や栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を生かして適切な献立作成ができる ②作りたい料理（弁当など）の栄養バランスを考え、よりバランスのとれた献立にしようとする ③調理法や調理時間、見た目などを工夫したお弁当作りを実践し、健康で安全な食生活を営む力を身に付けようとしている	
	9月 【消費生活と環境】 P100～P111 ○自分の消費行動をふり返ろう ★公民 ・消費者としての自覚 ★ライフキャリア ・金銭の管理と物資・サービスの購入 ○私のマネープラン ・収入と支出 ・生活費と生活設計 ・販売方法と支払い ・消費者の権利と責任、トラブルと対策 ○環境に配慮した消費生活 ・クーリングオフ制度、グリーンコンシューマー	①商品購入の仕方や商品選択のポイントを知る ②情報を正しく活用し適切な判断ができる力をつける ③自分自身の消費生活をふり返りよりよい生活の実現に向けて工夫できることを考えられる ④1か月の生活にかかる生活費を知る ⑤必要な生活費について考え生活に必要な金額を想定できる ⑥よりよい生活に向けてやりくりが必要になることへの意識を高める	・視聴覚教材を視聴して、より学習を深める ・ワークシートへ記入し理解を深める ・家計管理について具体的な事例を考える ・1か月の給料を想定し1か月のやりくりを考える ・消費者教育資料を参考にして理解を深める ・ワークシートへ記入し考えをまとめ発表し合う
後期	10月 【衣食住の生活】 ○自立的な生活に役立ち、彩り豊かにするものを作ろう P90～95 ・裁縫道具やミシンの使い方 ・採寸、デザインなど、ものづくりの方法 ○旬の食材を使った料理 P43 ○住まいのはたらき P90～P99 ・家族と住まいのかかわり ・健康で安全な住まい ・一人暮らしの住まい	【衣食住の生活】 ①正しい用具（裁縫道具やミシン）の使い方ができる ②ものづくりの手順を考え、必要に応じた制作方法で取り組む ③生活をより豊かにするものを基礎的な縫い方を組み合わせる ④食事に必要な条件や栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を生かして適切な献立作成ができる ⑤作りたい料理の栄養バランスを考え、よりバランスのとれた献立にしようとする ⑥使用する食品や調理法、調理時間、見た目などを工夫した食事作りを実践し、健康で安全な食生活を営む力を身に付けようとしている	・料理の献立を話し合う ・調理実習を行う ・インターネットを利用して一人暮らし用の住まいの検索をする ・ワークシートにまとめる
	11月 ○住まいの役割を話し合う ○住まいの役割を話し合う ○住まいの役割を話し合う	①住まいの役割を理解し、住生活の設計に必要な情報を収集・整理することができる ②ライフステージに応じた住居について考えられる ③将来の住まい方に関心をもち主体的に取り組もうとしている	
	12月 【家族・家庭生活】 ★ライフキャリア ○なりたい自分になろう ・卒業後の自立的な生活に向けて ・ライフプラン	【家族・家庭生活】 ①自分らしく生きるために目標をもつことができる ②自分らしいライフスタイルの実現を目指して生活設計をたてたり、発表したりしている ③自分自身の人生を見直し生活設計を考えようとしている	・視聴覚教材を視聴して、より学習を深める ・ワークシートにして、考えをまとめる。
	1月 【衣食住の生活】 ○楽しい会食をしよう	【衣食住の生活】 ①食事の役割をふり返り会食の意義を考える ②会食の献立を仲間と相談、協力しながら考え発表しあう ③楽しく会食をするための工夫をし実践できる	・料理の献立を話し合う ・調理実習
	2月 【衣食住の生活】 ○楽しい会食をしよう	【衣食住の生活】 ①食事の役割をふり返り会食の意義を考える ②会食の献立を仲間と相談、協力しながら考え発表しあう ③楽しく会食をするための工夫をし実践できる	
3月			

評価の観点

①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている
- ②生活上の課題を設定し、解決方法を考え解決しようとしている
- ③家庭生活を大切にし、生活を工夫し改善しようとしている

外国語(英語) 1年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①初歩的な単語、句、文など基礎的な英語の知識・技能を身に付ける
- ②英語を用いて身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを伝え合う
- ③英語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

学習計画

月	学習内容(何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月 ○自己紹介 ○身近な表現1(名前) ★国語 道徳 社会	①英語で自分の名前を書き、読む ①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景にある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年) ・自分の名前に名札を作る ・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	5月 ○身近な表現2(気分・天気) ★国語 社会	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	6月 ○身近な表現3(曜日・日付・月・数) ★国語 数学	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	7・8月 ○身近な表現4(好きな食べ物・色・スポーツ・教科など) ★国語	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	9月 ○前期のまとめ(会話テスト) ○夏休みについて ○身近な表現5(位置関係を表す表現 in on under など) ★国語	①英語で自分の名前を書き、読む ①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景にある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・教員と一対一での面接形式でテストを行う ・写真や絵、実物などを活用し、具体的な情報を示しながら会話をすすめる ・上下や左右などの位置関係を表す語を実際にある場所やものを使って練習する
後期	10月 ○身近な表現6(動詞) ○ハロウィン ★国語 社会 音楽	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ①ハロウィンの歴史や行事にまつわる語句を理解する ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	11月 ○身近な表現7(道案内、時間) ★国語 社会	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ ③英語の背景にある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	12月 ○身近な表現8(主語、道案内) ○クリスマス ★国語 社会 音楽	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ①クリスマスの歴史や行事にまつわる語句を理解する ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	1月 ○身近な表現9(助動詞canなどを使った表現) ○冬休みについて ★国語	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ
	2月 ○身近な表現10(過去形・未来形) ○後期のまとめ(会話テスト) ★国語	①英語で自分の名前を書き、読む ①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景にある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・教員と一対一での面接形式でテストを行う ・写真や絵、実物などを活用し、具体的な情報を示しながら会話をすすめる ・上下や左右などの位置関係を表す語を実際にある場所やものを使って練習する
3月 ○身近な表現11(職業の名称・なりたい職業について) ★国語 社会 道徳	①日本語の音声や文字などとの違いに気づく ②身近で簡単な事柄について、簡単な語句などを用いて自分の考えや生畝を伝え合う ③英語の背景ある文化に関心をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとする意識をもつ	・スライド資料や写真、絵カードなどで単語を学ぶ ・自分のやってみたい職業を英語で表現する	

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①基礎的な英語の知識・技能を身に付けた
- ②学んだ英語等を用いて自分の気持ちや考え等を伝えていた
- ③英語を用いて主体的にコミュニケーション等を図ろうとしていた

情報 1年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①ソフトウェアの基本操作を知り、基礎的な技能を身に付ける ②課題や目的に応じて情報手段を適切に選び、活用することができる ③情報技術を活用し、情報社会に関わろうとすることができる	

学習計画		学習内容(何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>情報モラル</li> <li>インターネットの基本操作</li> <li>★経路検索</li> <li>ワープロソフトの基本操作(教科書P4~27)</li> <li>ソフトの起動・編集・保存・終了、ファイルを開く・閉じる、文字入力</li> </ul>	【経路検索】 ①ホームポジションを身につけ、正確にタイピングができる。 ②実習課題のテーマを決定することができる。 ③パソコンやインターネットの活用について興味を持つ。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を使用し、適宜展開する。【経路検索】</li> <li>具体的な問題を出題し、経路検索を活用して解決する。</li> <li>【タッチタイピングの練習、文書入力】</li> <li>授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>ワープロソフトの基本操作(教科書P28~46、50、51)</li> <li>範囲選択、文字の装飾、文字入力の応用、再変換</li> <li>ショートカットキーの利用(Ctl+Z、Ctl+A、Ctl+X、Ctl+C、Ctl+V、Ctl+Y)</li> </ul>	【ワープロソフトの基本操作】 ①ワードの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③ワードの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【ワープロソフトの基本操作】 ・ワードの操作、機能について解説し、実践する。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>ワープロソフトの活用(課題)</li> <li>自己紹介書の作成</li> <li>自己紹介書の発表</li> </ul>	【ワープロソフトの活用】 ①ワードの機能を使いこなせるようになる。 ②どのような自己紹介書を作るのが自分で決定することができる。 ③ワードの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【ワープロソフトの活用】 ・作成した学校生活に関連する表を発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>ワープロソフトの活用(課題)</li> <li>自己紹介書の作成</li> <li>自己紹介書の発表</li> </ul>	【ワープロソフトの活用】 ①ワードの機能を使いこなせるようになる。 ②どのような自己紹介書を作るのが自分で決定することができる。 ③ワードの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【ワープロソフトの活用】 ・作成した学校生活に関連する表を発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>表計算ソフトの基本操作(教科書P8~67)</li> <li>ソフトの起動、画面の名称等、データ入力</li> </ul>	【表計算ソフトの基本操作】 ①エクセルの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③エクセルの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【表計算ソフトの基本操作】 ・ワードの操作、機能について解説し、実践する。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>表の作成、文字・セルの装飾、印刷</li> <li>画像・図形の挿入等</li> <li>期末テスト</li> </ul>	【表計算ソフトの活用】 ①エクセルの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②どのような学校生活に関連する表を作るのが自分で決定することができる。 ③エクセルの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【表計算ソフトの活用】 ・作成した学校生活に関連する表を発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>表計算ソフトの活用(課題)</li> <li>学校生活に関連する表の作成</li> <li>学校生活に関連する表の発表</li> </ul>	【表計算ソフトの活用】 ①エクセルの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②どのような学校生活に関連する表を作るのが自分で決定することができる。 ③エクセルの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【表計算ソフトの活用】 ・作成した学校生活に関連する表を発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>プレゼンテーションソフトの基本操作</li> <li>ソフトの起動、スライドの作成方法等</li> <li>アニメーション、画面切り替え等</li> </ul>	【プレゼンテーションソフトの基本操作】 ①パワーポイントの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③パワーポイントの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【プレゼンテーションソフトの基本操作】 ・パワーポイントの操作、機能について解説し、実践する。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>プレゼンテーションソフトの活用(課題)</li> <li>マイブームの作成</li> <li>スライド作成、原稿作成、リハーサル</li> </ul>	【プレゼンテーションソフトの活用】 ①パワーポイントの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②どのようなマイブームを作るのが自分で決定することができる。 ③パワーポイントの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【プレゼンテーションソフトの活用】 ・作成したマイブームを発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	2月 3月等	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>発表</li> <li>まとめ</li> </ul>	【プレゼンテーションソフトの活用】 ①パワーポイントの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②どのようなマイブームを作るのが自分で決定することができる。 ③パワーポイントの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【プレゼンテーションソフトの活用】 ・作成したマイブームを発表する。友達への発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①ソフトウェアの基本操作を知り、基礎的な技能が身に付いている ②課題や目的に応じて情報手段を適切に選び、活用している ③学びを生かして情報技術を活用し、情報社会に関わろうとしている	

情報 2年

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①データ入力で速く正確に打てる。ソフトウェアの基本操作ができる。 ②身近な事象を捉え、情報を活用し、適切に解決できる。 ③学習したソフトウェアの機能をその目的に応じ使うことができる。	

学習計画				
月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）	
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>ワープロソフトの活用 (教科書P52～91、98) レポートの作成</li> </ul>	【ワープロソフトの活用】 ①ワードの様々な機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③ワードの操作に興味を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を使用し、適宜展開する。</li> </ul> 【ワープロソフトの活用】 ・ワードの操作、機能について解説し、実践する。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>用紙の設定、文字の配字・書体・大きさ、箇条書き、インデント、あいさつ文の挿入、ルビ、印刷、表の挿入、ページ罫線など</li> <li>教科書P145～146の発展問題のレポート作成</li> </ul>	【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>ワープロソフトの活用（課題） カレンダーの作成 カレンダーの発表</li> </ul>	【ワープロソフトの活用】 ①ワードの機能を使いこなせるようになる。 ②どのようなカレンダーを作るのか自分で決定することができる。 ③ワードの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【ワープロソフトの活用】 ・作成したカレンダーを発表する。友達の発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習</li> <li>表計算ソフトの操作 基本操作の確認 関数の利用 (教科書P79、80、117～121) SUM、AVERAGE、MAX、MIN グラフの作成 (教科書P123～135) 総合問題 ・期末テスト</li> </ul>	【表計算ソフトの操作】 ①エクセルの機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③エクセルの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【表計算ソフトの操作】 ・作成した学校生活に関連する表を発表する。友達の発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	9月			
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算ソフトの活用（課題） 自分の好きな～一覧の作成 自分の好きな～一覧の発表</li> </ul>	【表計算ソフトの活用（課題）】 ①エクセルの機能を使いこなせるようになる。 ②どのような表を作るのか自分で決定することができる。 ③エクセルの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【表計算ソフトの活用（課題）】 ・作成した自分の好きな～一覧を発表する。友達の発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	11月			
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションソフトの応用操作 アニメーションの応用 アニメーションの組み合わせ アニメーションのタイミング等</li> </ul>	【プレゼンテーションソフトの応用操作】 ①パワーポイントの様々な機能を使いこなせるようになる。 ②操作で分からないことがあったときには自分から相談できる。 ③パワーポイントの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【プレゼンテーションソフトの基本操作】 ・パワーポイントの操作、機能について解説し、実践する。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	1月			
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチタイピングの練習または文書入力</li> <li>プレゼンテーションソフトの活用（課題） マイホリデイの作成 スライド作成、原稿作成、リハーサル等 発表</li> <li>まとめ</li> </ul>	【プレゼンテーションソフトの活用】 ①パワーポイントの基本的な機能を使いこなせるようになる。 ②どのようなマイホリデイを作るのか自分で決定することができる。 ③パワーポイントの操作に興味を持つ。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【プレゼンテーションソフトの活用】 ・作成したマイホリデイを発表する。友達の発表の感想を出し合う。 【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①ソフトウェアの基本操作を知り、基礎的な技能が身に付いている ②課題や目的に応じて情報手段を適切に選び、活用している ③学びを生かして情報技術を活用し、情報社会に関わろうとしている	

情報 3年

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①ソフトウェアの基本操作を知り、基礎的な技能を身に付ける
- ②課題や目的に応じて情報手段を適切に選び、活用することができる
- ③情報技術を活用し、情報社会に関わろうとすることができる

学習計画

月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）	
前期	4月	【実習課題】 ①ワードの機能を使いこなせるようになる。 ②実習課題のテーマを決定することができる。 ③ワードアートや表などのワードの機能に興味を持つ。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。  【実習課題】 ・ワードの機能を学習し、ポスター作成で学習した機能を活用する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。	
	5月			・オリエンテーション ・タッチタイピングの練習または文書入力 ・実習課題 ポスターデザイン ワードソフトの基本操作 ワードアート、ページ罫線、表、テキストボックス、画像・図形の挿入等 企画書の作成 内容、ねらい、ターゲット、キャッチコピー、イメージスケッチ等 ポスター制作
	6月			
	7・8月	・タッチタイピングの練習または文書入力 ・実習課題 ポスター制作 課題発表会	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③課題の発表に積極的に参加する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成したポスターを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	9月	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③画像編集やワードの機能に興味を持つ。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成した卒業アルバムを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。	
後期	10月	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③課題の発表に積極的に参加する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成した卒業アルバムを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。	
	11月			・タッチタイピングの練習または文書入力 ・実習課題 卒業アルバム制作 係分担当決め 画像処理の操作説明 編集作業等
	12月	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③課題の発表に積極的に参加する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成した卒業アルバムを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。	
	1月	・タッチタイピングの練習または文書入力 ・実習課題 卒業アルバム制作 課題発表会	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③課題の発表に積極的に参加する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成した卒業アルバムを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。
	2月	【実習課題】 ①課題で用いたワードの機能を説明できる。 ②発表での良かったところ、改善点を整理できる。 ③課題の発表に積極的に参加する。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ①速く正確に文字入力ができる。 ②タイピング、文書入力を自分の課題に合わせて選択できる。 ③10分間集中してタイピング練習ができる。	【実習課題】 ・作成した卒業アルバムを発表する。友達の発表の感想を出し合う。  【タッチタイピングの練習、文書入力】 ・授業の初め10分間タイピング練習の時間を設け、文書入力に自信がない生徒は、タッチタイピングの練習をソフトで行い、ホームポジションを身につけさせる。	
3月				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①ソフトウェアの基本操作を知り、基礎的な技能が身に付いている
- ②課題や目的に応じて情報手段を適切に選び、活用している
- ③学びを生かして情報技術を活用し、情報社会に関わろうとしている

職業 1年 (職業基礎)

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①「働くとは?」「様々な職種と求められる力」の学習を通して、職業に関する事柄について理解を深める。 ②「できるようにになりたいライフスキル」の取組を通して、自己の課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、表現する力を身につける。 ③「できるようにになりたいライフスキル」の取組を通して、生活を改善しようとする実践的な態度を身につける。	

学習計画		学習内容 (何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	○自己紹介と自己理解 ・特技・性格・自己PR ○働くとは? ・「働く」を考えよう。 ・「働く」って何だろう? ○あなたは何のために働きますか? ・インタビュー課題「あなたは何のために働きますか?」	①自己紹介を通して客観的に自己を見つめ、自身の長所や短所、性格を理解する。 ②働く事で得られるものや自己実現について考える。またインタビュー課題を通して、保護者等身近な人がどんな思いで働いているかを知り将来の自分の就労について考える。 ③会社見学の心得や基本的なマナー、公共交通機関の利用、話す態度や聞く態度を考え、習得する。	・ICT機器を使用し、適宜展開する。(適年) ・「なぜ働くのか」をインタビューやグループワーク等を行い考えさせる。 ・「働くための必要な力」について、グループワーク等を行い考えさせる。 ・「第1回職場見学」に向けて、会社見学の心得や基本的なマナー、話す態度や聞く態度を考えさせ習得させる。 ・就労の美点を提示し、働くことに関する実践的なイメージをもたせる。
	5月	○職場見学に向けて ・見学態度やマナー ・公共交通機関利用のマナー		
	6月	○できるようにになりたいライフスキル ・ライフスキルの他者と共有と自己理解 ・自らの弱み理解と「できるようにになりたいライフスキル」選定 ・本人、家庭、学校で取り組み状況を共有する	①「できるようにになりたいライフスキル」目標を自己決定をする。 ②「できるようにになりたいライフスキル」の目標を達成するための取り組み方を決定する。 ③「できるようにになりたいライフスキル」の取り組みを通して生活リズムの改善や家族の一員としての役割を果たす態度を身に付ける。	・「スキルチェック表わかば版」の結果をもとに、「弱み克服項目お手伝いメニュー」選定に向けて自己決定を促し支援する。 ・今の自分のライフスキルを家族と共有する「スキルチェック表わかば版」を家庭で実施 ※「第1回進路説明会」にてライフスキルについて保護者に説明し、協力を求める。
	7・8月	○職業生活を支えるスキル(就労準備性ヒラミッド) ・ライフスキル ・ソフトスキル ・ハードスキル ○いろいろな職種と求められる力 ○夏休みに身に付けたいライフスキル	①就労に必要なスキルと就労継続に必要なスキルを理解し、自らを省みて足りないスキルに気付く。 ①様々な職種がある事を理解し、どのような力が求められるのかを理解する。 ②自らに足りないスキルを身に付けられる場面や方法を考えられる。 ③チェックリスト(夏休みに身に付けたいライフスキル)の取り組みをどのように継続し提出期日を守るか工夫改善しようとする。	・スキルの分類に取り組みすることで就労準備性ヒラミッドのどの段階に課題があるか考えさせる ・保護者の協力を得て、自ら決定したライフスキルに継続して取り組む ※「第1回進路説明会」にてライフスキルについて保護者に説明し、協力を求める。
	9月	○若葉台実習に向けて ビジスマナー ・挨拶をしよう ・How to お辞儀 ・敬語を話そう ・正しい仕事の進め方 ○夏休みに身に付けたいライフスキル提出 ○The ライフスキル継続は力なり(9月より毎月提出)	①働くときに求められる基本的なビジスマナーを身に付ける。 ②夏休みに身に付けたいライフスキルの取り組み状況を振り返り目標を再設定する。 ③正しい生活リズムを身に付ける事を第一に取り組み、お手伝いの継続を通して家族の一員としての役割を果たそうとする。 ③弱み克服項目に取り組み、できなかったライフスキルを一つでも多くできるようにしようとする。	・現場実習に向けて、面接時の態度や丁寧な言葉づかいなどを考えさせ、習得させる。 ・「社会人としての基本的なマナー、話す態度や聞く態度などを振り返りながら、身に付ける。 ・「夏休みに身に付けたいライフスキル」「The ライフスキル継続は力なり(9月)」を振り返り、評価を促し、改善点などを考える。
後期	10月			
	11月	○若葉台実習振り返り ・仕事の分析 主な仕事と求められた力 ・15秒スピーチビジスマナーでできたか ○The ライフスキル継続は力なり(9月より毎月提出)	①現場実習振り返り自分の行った職種の働く環境や求められる力、職種に関係なく働くために必要な力について整理して理解する。 ②現場実習における課題の改善策を考え目標を設定する。 ③課題克服に向け、生活の改善や校内実習の取り組みを改善しようとする態度を身に付ける。	・現場実習を通して、働くために必要な力について考えさせる。求められた力、課題と関わった力を分類整理し、その力をどの場面で習得できるのかを考えさせる。
	12月	○働く環境と求められる力 ○The ライフスキル継続は力なり(9月より毎月提出)	①現場実習での経験も踏まえ、職種ごとの働く環境や働き方について理解を深める。 ②これまでに学んだ求められる力に加え働く環境も加味して少しずつ自分の適性について考える。また不足するスキルの習得に向け目標をもち解決策を考える。 ③生活面に起因する課題の改善に向け努力しようとする。	・これまで学んだ職種の働く環境や働き方について理解させる。
	1月	○第二回職場見学に向けて ・自分の力を発揮して働ける職種か考える ・見学先の見どころについて発表 ○ライフスキル3分面談 ○The ライフスキル継続は力なり(9月より毎月提出)	①事前学習で分かった事とこれまでの学習で得た知識を総合し、見学先企業の働き方をおおまかに理解する。 ②これまでに学んだ職種に関する知識と自己理解を踏まえ、どのような場面で自分の力を発揮して働けるか考える。またどの力が不足しているか理解し改善策を考える。 ③生活面に起因する課題の改善に向け努力しようとする。	・職種や働き方についての知識が第一回職場見学の際とは異なる事を理解した上で以下の事に取り組む。 ・発表された見学先について調べ、自分の力を発揮して働ける職種を考えさせる。 ・苦手な部分をどのように克服するか考えさせる。
	2月	○職場見学振り返り ・自分の力を発揮して働ける職場であったか ・適性を勘案し働きたい職場であったか ・働くために足りない力は? ○今の自分のライフスキルを知る。 ○「スキルチェック表わかば版」を再実施 ・家族と共有する ○「できるようにになりたいライフスキル」まとめ ・ふり返りをもとに2年次目標を設定する。 ・ふり返りをもとに発表し、仲間と共有する。 ・本人、家庭、学校で取組状況を共有する。	①事前学習やこれまでの学習を通して得た知識から考えた職場と実際の職場の違いについて考え、実際の職場や働く環境、働き方について理解する。 ②今年度のライフスキルの取り組みを振り返り、身についた力や足りない力について整理し次年度に向け目標を持つ。 ③自らの生活を省みて、就労し働き続ける力が備わっているか考え、必要な生活の改善を行おうとする。	・「スキルチェック表わかば版」の結果をもとに、日常生活、余暇活動、対人関係の3領域についての実態把握ができるように支援し、「できるようにになりたいライフスキル」の2年次の目標選定に向けて自己決定を促す。 ・「スキルチェック表わかば版」を家庭で再実施する。 ・仲間と共有することで、共感や助言の場とする。 ※3月の三者面談で、ライフスキルのまとめについて情報交換を行う。
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①学習を通して職業に関する事項について理解している ②ライフスキルの実践を評価・改善・表現する力を身に付けている ③学びを踏まえ実生活を改善しようとする態度を身に付けている	



職業 2年 (職業基礎)

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①「働くとは?」「様々な職種と求められる力」の学習を通して、将来の職業生活に係る技能を身に付ける ②「できるようになりたいライフスキル」の取り組みを通して、自己の課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、表現する力を身に付ける ③「できるようになりたいライフスキル」の取り組みを通して、生活を改善しようとする実践的な態度を身に付ける	

学習計画		月	学習内容 (何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期		4月	○できるようになりたいライフスキル(1) ・「スキルチェック表わかば版」を家庭で実施 ・「できるようになりたいライフスキル」選定 ★家庭	①ライフスキルの習得が、働き続けて豊かな人生を築く上で大切であることを理解する。 ②「スキルチェック表わかば版」の結果から日常生活、余暇活動、対人関係の3領域についての自身の実態を把握するとともに「できるようになりたいライフスキル」を自ら選定する。 ③「できるようになりたいライフスキル」の取り組みを通して、生活を改善しようとする実践的な態度を身に付ける	ICT機器を使用し、適宜展開する(通年) ・保護者の協力の元「できるようになりたいライフスキル」に取り組む。 ・個別面談や仲間との共有の場面を設定し気付かせる。
		5月	○現場実習にむけて(1) ★CC・CG (くらしに役立つソーシャルスキル P46~63, P90~93, P124~127) ・あいさつ ・おじぎの仕方 ・身だしなみ	①各テーマについて正しいやり方を知り、理解する。 ②各テーマについて実際の現場に適した対応を判断し実行できる。 ③現場実習でより円滑なコミュニケーションを目指して実践しようとする態度を養う。	・グルーフトーク、ロールプレイ等により各テーマについて考えさせる。 ・練習を通して正しいやり方や態度、姿勢を習得させる。
		6・7月	・通勤時の身だしなみ ・交通機関の利用マナー ・面接の受け方 ・言葉遣いの基本 ○自分の力や得意な事を知ろう(1)(自己理解)	①作業に求められる力について正確に理解する。 ②自らを省みて客観的に評価できる。 ③客観的な評価に基づき自らの苦手を理解しまた克服しようとする。	・自分の力や得意な事を知ろうを実習前後に実施する。
		8・9月	○現場実習にむけて(2) ★CC・CG ・休憩時間の過ごし方 ・人と話す時の態度 ・指示の受け方 ・報告の仕方	①各テーマについて正しいやり方を知り、理解する。 ②各テーマについて実際の現場に適した対応を判断し実行できる。 ③現場実習でより円滑なコミュニケーションを目指して実践しようとする態度を養う。	・グルーフトーク、ロールプレイ等により各テーマについて考えさせる。 ・練習を通して正しいやり方や態度、姿勢を習得させる。
後期		10月	○自分の力や得意な事を知ろう(2)(自己理解) ・前期小テスト	①作業に求められる力について正確に理解する。 ②自らを省みて客観的に評価できる。 ③客観的な評価に基づき自らの苦手を理解しまた克服しようとする。	・自分の力や得意な事を知ろうを実習前後に実施する。
		11月	○働くルールと労働条件(1) ★社会・家庭科 ・最低賃金 ・社会保険の種類と役割 (くらしに役立つソーシャルスキル P146~149) ・諸手当 ・給与計算 ○現場実習にむけて(2) ★CC・CG ・注意されたときの態度 ・書類の渡し方 ・電話の対応 ・報告の仕方	①賃金や休暇をはじめとする労働条件とその根拠について理解する。 ②様々な事例について何が問題であり、どのように対処すべきか考え表現できる。 ③(就労後)自らの労働条件に関心を持ち、自分の働き方が契約通りに運用されているか確認しようとする意欲を持つ。またトラブルの際にはどのように行動すべきか考えようとする。	・給料明細書を読み解きながら賃金や社会保険、諸手当、休暇等について考える。
		12月	○働くルールと労働条件(2) ★社会・家庭科 ・労働三法 ・後期小テスト	①賃金や休暇をはじめとする労働条件とその根拠について理解する。 ②様々な事例について何が問題であり、どのように対処すべきか考え表現できる。 ③(就労後)自らの労働条件に関心を持ち、自分の働き方が契約通りに運用されているか確認しようとする意欲を持つ。またトラブルの際にはどのように行動すべきか考えようとする。	・動画で学ぼう労働条件(厚生労働省版)を視聴。
		1・2月	○働くルールと労働条件(2) ★社会・家庭科 ・労働三法 ・後期小テスト	①賃金や休暇をはじめとする労働条件とその根拠について理解する。 ②様々な事例について何が問題であり、どのように対処すべきか考え表現できる。 ③(就労後)自らの労働条件に関心を持ち、自分の働き方が契約通りに運用されているか確認しようとする意欲を持つ。またトラブルの際にはどのように行動すべきか考えようとする。	・動画で学ぼう労働条件(厚生労働省版)を視聴。
		3月	○できるようになりたいライフスキル(2) ・ふり返し ・合理的配慮(くらしに役立つソーシャルスキルP38~43)	①振り返りを通して自己理解を深める。 ②自分に必要な支援や配慮について考え、発信できる。 ③支援や配慮を前向きに受け入れる事で、より効果的な支援とし、もって苦手を克服しようとする。	・ふり返しを基に発表し仲間と共有する。 ・実例により合理的配慮について理解する。

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①学習を通して、将来の職業生活に係る技能を身に付けている ②ライフスキルの実践を評価・改善・表現する力を身に付けている ③学びを踏まえ実生活を改善しようとする態度を身に付けている	

職業 1年（オフィスサポート）

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う	

学習計画		目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	※オフィスサポートコース、ビルメンテナンスコース、ハン工房コースを短期間でローテーションする ≪1回のローテーション≫ ・Aグループ：火AM4コマ、水AM4コマ ・Bグループ：木AM4コマ、金AM4コマ →計8コマ実施 ※木曜日、金曜日、火曜日、水曜日の4日連続で行う 【基礎基本】 ・オフィスサポートコースの心得（ハワーポイント）⇒（2コマ） ・エフロン習用練習⇒（2コマ） ・基本的な情報機器の扱い方1）（日誌作成）⇒（4コマ） ・基本的な情報機器の扱い方2）（名札作成）⇒（4コマ） ・基本的な作業の体験（二つ折り、紙数えなど） 【チームでの軽作業】 ・グループでの協働における軽作業（地域の作業所からの受注） 仕事内容⇒チラシ折り、ホールヘン組み立て、 【地域展開業務】 ※毎月月末に実施 ・とちのぎ集会所での印刷、封入業務 ・マンション集合ポストへの投函業務 【期末試験】 ・筆記試験（知識・理解） ・実技試験	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・働くためにはソフトスキル（あいさつ、報告、相談など）が必要な事柄だということを理解し、業務（作業）を進める中で、周りとのやり取りを通して実践・ふり返りを行う。  ・視覚的に理解しやすいマニュアルや映像、指導者の教示、スモールステップでの指導により、手順や留意点を把握する。  ・集団への一斉指導だけではなく、指導体制を工夫して障害特性に合わせた個別的な指導も行っていく。
	5月	☆オフィスサポートコース心得 ・自分から動いて仕事をします（自主性） ・仕事には最後まで責任をもちます（責任感）  【基礎基本】 ○働く姿勢を学ぶ ①職場でのルール ③出社、退社の心構え ③身だしなみ ③あいさつ ①指示理解 ②報告、連絡、相談 ①環境整備 ③休憩時間の過ごし方 ①安全への配慮  【チームでの軽作業】 ○チームで働く力を身につける ①指示理解 ①商品の取り扱い方 ①長時間作業への体力向上 ①長時間作業への集中力の維持 ③作業中の姿勢保持 ①②確認作業 ①②コミュニケーション力の向上	
	6月		
	7・8月		
	9月		
後期	10月	【現場実習期間】 Aグループが現場実習⇒Bグループが校内実習 Bグループが現場実習⇒Aグループが校内実習	・職場で求められる基礎的な働く力に関しては、実際の職場を想定した形で、校内実習の中で学習する。また、「キャリアガイダンス（CG）」「職業基礎」をはじめとした他教科での指導内容とリンクさせて、段階を踏んだ学習を進める。
	11月	【チームでの軽作業+個人での作業】 ・グループでの協働における軽作業（地域の作業所からの受注） 仕事内容⇒チラシ折り、ホールヘン組み立て、 ・上級生に混ざり一般業務を行う 仕事内容⇒名刺作成、ハンシール関係	・安全面や衛生面に注意した作業を徹底し、けがや事故の未然防止に努めた作業の進め方を考え、実践する。
	12月	↓	・文書の印刷、製本、封入など、作業中に扱う個人情報に十分に留意したうえで作業を行い、業務上知り得た情報の適切な取り扱いを理解する。
	1月	【期末試験】 ・筆記試験（知識・理解） ・実技試験  【次年度コース発表】 ・希望調査をもとに次年度からのコースが決定する	
	2月	【コース新体制スタート】 ・次年度以降のコースメンバーで実習を行う	
3月	【学習発表会】 ・1年間の学習をふりかえり成果をまとめる		

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。	

職業 2年（オフィスサポート）

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	・Aグループ：火AM4コマ、水AM4コマ ・Bグループ：木AM4コマ、金AM4コマ ・ABグループ合同：水PM2コマ⇒計10コマ実施 【校内受注】 ・名刺 ・ハンバーコード	☆オフィスサポートコース心得 ・自分から動いて仕事をします（自主性） ・仕事には最後まで責任をもちます（責任感）	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・働くためにはソフトスキル（あいさつ、報告、相談など）が必要な事柄だということを理解し、業務（作業）を進める中で、周りとのやり取りを通して実践・ふり返りを行う。
	5月	・ハンポイントシール ・ハンポイントカード ・ハン販売日カレンダー ・A部門日めくりカレンダー ・学校ハンフレット ・学校要覧 【校外受注】 ・名刺 ・チラシ作成、印刷 ・製本作業 ・その他 ※上記の受注内容を基本的に1人1つずつ分担する	【年間を通して身につけさせたい力】 ○任された仕事を1人で行う ①自分から動いて作業や質問、報告、相談ができる ②定型の仕事を支援して完遂できる ③作業工程を書き出すことができ、作業全体の見通しを持つことができる ④長期にわたる仕事に対し、どこかの工程の作業をしているか理解できる ⑤ABグループ間での作業の引き継ぎができる	・視覚的に理解しやすいマニュアルや映像、指導者の指示、スモールステップでの指導により、手順や留意点を把握する。
	6月	・名刺 ・チラシ作成、印刷 ・製本作業 ・その他 ※上記の受注内容を基本的に1人1つずつ分担する	①納期までの見通しを持って作業を進めることができる ②③電話、メール、FAXなどを用いてお客様とコミュニケーションをとることができる ④⑤仲間を気遣い協力して作業ができる	
	7・8月	【現場実習1】 ・事務、清掃、物流、食品（福祉）の4職種のうち2社で3日間ずつ行う 【地域展開業務】※毎月月末に実施 ・とちのぎ集会所での印刷、封入業務 ・マンション集合ホストへの投函業務 【期末試験】 ・筆記試験（知識・理解） ・実技試験	【地域展開業務】 ○社会の中で役に立てる ①地域の方が出す指示の理解 ②③地域の方との協働	・集団への一斉指導だけではなく、指導体制を工夫して障害特性に合わせた個別的な指導も行っていく。
	9月			
後期	10月	※後期より2年生が中心となって運営していく	【庶務】 ②メールを確認し印刷、報告することができる ①③時間を意識して全体に声掛けができる ④資材の在庫確認ができる ⑤発注など必要なことを教員に報告できる ①帳簿の整合性を取ることができる	
	11月	※【校内受注】と【校外受注】は前期と同様 【現場実習2】 ・事務、清掃、物流、食品（福祉）の4職種のうち2社で3日間ずつ行う		・安全面や衛生面に注意した作業を徹底し、けがや事故の未然防止に努めた作業の進め方を考え、実践する。
	12月	【庶務】 ・職員室前お客様用ホストの確認 ・作業終了時刻の全体共有 ・メール確認 ・書類整理、ファイリング ・不足書類の印刷（作業書や引き継ぎ書、納品書類など） ・資材の在庫チェック ・帳簿整理 ※3年生から引継ぎローテーションで全員経験する		・文書の印刷、製本、封入など、作業中に扱う個人情報に十分に留意したうえで作業を行い、業務上知り得た情報の適切な取り扱いを理解する。
	1月			
	2月	【現場実習3】 4職種での実習を通して自分で選んだ職種1社で行う（5日間） 【期末試験】 ・筆記試験（知識・理解） ・実技試験		
3月	【学習発表会】 ・1年間の学習をふりかえり成果をまとめる			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
-------	---------------------------------

職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。

職業 3年（オフィスサポート）

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う	

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	・Aグループ：火AM4コマ、水AM4コマ ・Bグループ：木AM4コマ、金AM4コマ ・ABグループ合同：水PM2コマ⇒計10コマ実施 【校内受注】 ・名刺 ・ハンバーコード ・ハンポイントシール ・ハンポイントカード ・ハン販売日カレンダー	☆オフィスサポートコース心得 ・自分から動いて仕事をします（自主性） ・仕事には最後まで責任をもちます（責任感）	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年） ・働くためにはソフトスキル（あいさつ、報告、相談など）が必要な事柄だということを理解し、業務（作業）を進める中で、周りとのやり取りを通して実践・ふり返しを行う。
	5月	・A部門日めくりカレンダー ・学校ハンフレット ・学校要覧 【校外受注】 ・名刺 ・チラシ作成、印刷 ・製本作業 ・その他	【年間を通して身につけさせたい力】 ○広い視野で臨機応変に対応ができる ①優先順位を整理して仕事を進めることができる ②急に入った仕事に対して対応できる ③自分のことだけでなく、周囲へのサポートや気遣いができる ④2同時に進行している仕事の全体を把握をしながら、一つひとつ確実に仕事を完遂できる ⑤3初めての仕事に対してこれまでの経験を汎用化することができる	・視覚的に理解しやすいマニュアルや映像、指導者の指示、スモールステップでの指導により、手順や留意点を把握する。
	6月	【原簿】 ・職貸室前お客様用ホストの確認 ・作業終了時刻の全体共有 ・メール確認 ・書類整理、ファイリング ・不足書類の印刷（作業書や引き継ぎ書、納品書類など） ・資材の在庫チェック ・帳簿整理 ※上記の業務を基本的に1人1つずつ分担する	【地域展開業務】 ○社会の中で役に立てる ①地域の方が出す指示の理解 ②③地域の方との協働	・集団への一斉指導だけではなく、指導体制を工夫して障害特性に合わせた個別的な指導も行っていく。
	7・8月	・【現場実習1】 ・就職に向けた実習（日時、期間は実習先による） 【地域展開業務】※毎月月末に実施 ・とちのぎ集会所での印刷、封入業務 ・マンション集合ホストへの投函業務 【期末試験】 ・筆記試験（知識・理解） ・実技試験		
	9月			
後期	10月	※後期より2年生が中心となって運営していく（引き継ぎ） ※【校内受注】と【校外受注】は前期と同様	【2年生への引き継ぎ】 ○これまでの経験を人に伝える ②日々の業務を2年生とともにを行い、引き継ぎができる ③2年生が主体的に作業に従事できるよう個別に支援することができる ④2年生を中心としてオフィスサポートコースの業務が回るよう、全体への支援ができる	「キャリアガイダンス（OG）」において現場実習のふり返しを行い、自己の課題を明確にし、校内実習にて課題克服に向けて取り組む。
	11月	【現場実習2】 ・就職に向けた実習（日時、期間は実習先による）		・安全面や衛生面に注意した作業を徹底し、けがや事故の未然防止に努めた作業の進め方を考え、実践する。
	12月			
	1月	【3年生最後の語り場】 ・授業最終日でこれまでの校内実習での経験や思いを後輩に伝える		
	2月	【学習発表会】 ・3年間の学習をふりかえり成果をまとめる		・文書の印刷、製本、封入など、作業中に扱う個人情報に十分に留意したうえで作業を行い、業務上知り得た情報の適切な取り扱いを理解する。
3月				

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。	

職業 1年（ビルメンテナンス）

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	◎学年全体での指導 ・職業の内容全般に関するオリエンテーション ・3種の内容に関するオリエンテーション	A、働く姿勢、基本的な技術の習得 ①校内実習中のルールを理解し、守る ②働くということを体感する、報告・連絡・相談の大切さを知る。 ③大きな声で挨拶・返事をしたり、適切に謝罪することの大切さを知り、実践する。	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年）  A ・身だしなみを整えて校内実習に臨む。 ・必要な持ち物を忘れない。 ・大きな声で挨拶をする練習を繰り返す。 ・危険予知トレーニングを行い、安全に清掃が進められるようにする。  B ・上級生とペアを組み、清掃に必要な知識技能を学んだり、コミュニケーションをとることを学習の中で経験したりする。
	5月	◎グループごとの指導 講義1：作業従事者の心得 実技1：清掃の基礎・基本、道具の扱い方等		
	6月	※1～4時間目は 2、3年との縦割り授業		
後期	7・8月	◎市営バス清掃 Aグループ：水曜日課 Bグループ：木曜日課	B、チームでの作業を学ぶ ①上級生から道具の名前や使い方等を学び、実践を通して理解する ②分からないことを自ら上級生に聞き、理解を深める。 ③大きな声で挨拶・返事をしたり、適切に謝罪することの大切さを知り、実践する。  C、役割を意識した作業を行う ①リーダーの役割を理解する ①②ミーティング時の意見の言い方や相手の話の聞き方を学び、お互いに気持ちよく意見交換する。 ②③自分に任せられた仕事に、責任感をもって取り組む  ②③年度末の学習発表会を通じて1年間の学びをふり返り、来年度に活かそうとする	《バス清掃》 ・手順書に沿って清掃する。 ・学んだ清掃の基本的技能やコミュニケーション方法をバス清掃で実践する ・ふり返りを行う。  C ・バス清掃のリーダーを順番に行う ・自分たちでミーティングを行う。
	9月	◎校内の清掃練習（階段、トイレ等） Aグループ：火曜日課 Bグループ：金曜日課		
	10月	◎期末試験（知識・理解、実技）		
	11月	◎学年全体での指導 ・1年での職業のまとめ ・来年度の学習内容の説明		
	12月			
	1月			
2月				
	3月	新コースでの校内実習 ・次年度へ向けての準備をする		

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。  
また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。

職業 2年（ビルメンテナンス）

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	グループごとの指導 《内容》 講義1：作業従事者の心得 実技1：清掃の基礎・基本、 道具の扱い方等 1年生への指導	A、後輩に基本の清掃手順を分かりやすく教える ①後輩に教えるために、必要な道具や清掃手順について再確認し、説明や実演ができる知識や技能を身に付ける。 ②後輩に分かりやすく教えるために、教え方や説明の仕方を考えたり、先輩の意見を参考にしながら見本の見せ方を工夫したりする。 ③後輩からの質問に適切に答えたり、後輩を励ましたりしながら、お互いに清掃や説明等が上達していく喜びを味わう。  B、依頼を受けた作業を行い、作業終了の報告をする。 ①手順書に書かれていることを守り、ルールに沿って清掃を行う。 ②お客様に利用していただきながらの清掃を経験し、時間を守った り、臨機応変に清掃を進めたり、状況によって清掃の順番を工夫したりする経験を積み重ねる。 ③ミーティングで自分の意見を伝えたり、仲間の意見を聞いた りして効率よい清掃を行うための方法等を考える。状況判断や早期解決ができるように、報告・連絡・相談を確実に 行えるようになる。  C、現場実習 ①教えていただきながらその会社での仕事を体験し、知識を 深め、技能を高める。 ②手順等が理解できた仕事については、会社の方の判断のも と一人で作業を進める。 ③分からないことは早めに会社の方に相談したり、失敗した ことに対して誠意をもって謝罪したりしながら、会社の一員 として働く経験を積み重ねる。	ICT機器を使用し、 適宜展開する。（通 年）  A ・先輩・後輩とペアを 組み、清掃の手順等を 覚えてもらえるように 説明をする。  B ・市営バス若葉台営業 所やコミュニティハウ ス内の清掃を、仲間と ともに行う。  C ・現場実習に行き、校 内実習で学んだことを 実践する
	5月	※5月以降		
	6月	《火曜・金曜》 AM：コミュニティハウス清 掃 《水曜・木曜》 AM：市バス営業所の清掃作 業		
	7・ 8月	《水曜午後》 校内清掃等		
	9月	※6月下旬～7月上旬現場実習  ※期末試験（授業内の内容すべ て）		
後期	10月	グループごとの指導 《火曜・金曜》 AM：コミュニティハウス清 掃 《水曜・木曜》 AM：市バス営業所の清掃作 業		C ・現場実習に行き、校 内実習で学んだことを 実践する  ふり返しを行い、頑 張ったことや課題等を 記入し、次回以降の作 業に活かす
	11月	《水曜午後》 校内清掃等		
	12月	※10月下旬～11月中旬 現 場実習		
	1月	※1月下旬～2月上旬現場実習		
	2月	※期末試験（授業内の内容すべ て）		
	3月	・次年度へ向けての準備をする		

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

“職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。”

職業 3年（ビルメンテナンス）

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	グループごとの指導 《内容》 実技：清掃の基礎・基本や 道具の扱い方等に関する	A、後輩に基本の清掃手順を分かりやすく教える ①後輩に教えるために、必要な道具や清掃手順について再確認し、説明や実演ができる知識や技能を身に付ける。 ②後輩に分かりやすく教えるために、教え方や説明の仕方を考えたり、仲間の意見を参考にしながら見本の見せ方を工夫したりする。 ③後輩からの質問に適切に答えたり、後輩を励ましたりしながら、お互いに清掃や説明等が上達していく喜びを味わう。  B、仲間とともに効率よく清掃を行う。 ①お客様が通られる状況でも、清掃を行う。 ②清掃に必要な道具や数を考えて準備したり、お客様の立ち位置によって清掃する順番を入れ替えたりする。決められた時間内に清掃が終われるように、ペースを考えて作業を進める。 ③依頼された箇所をきれいに清掃するために、仲間と言葉をかけ合い効率よく作業を行う。自ら挨拶したり、会話をしたりしながら、作業中でも適切なコミュニケーションをとる。  C、現場実習 ①教えていただきながらその会社での仕事を体験し、知識を深め、技能を高める。 ②手順等が理解できた仕事については、会社の方の判断のもと一人で作業を進める。 ③分からないことは早めに会社の方に相談したり、失敗したことに対して誠意をもって謝罪したりしながら、会社の一員として働く経験を積み重ねる。	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年）  A ・下級生とペアを組み、清掃の手順等を覚えてもらうように説明をする。  B ・若葉台地域の中の各所を清掃させていただく  C ・現場実習に行き、校内実習で学んだことを実践する  ふり返りを行い、頑張ったことや課題等を記入し、次回以降の作業に活かす
	5月	2,3年生への指導		
	6月	※5月中旬以降 AM：地域清掃 （地区センター、カルチャースクール、まちづくりセンター、VOSC）		
	7・8月	火・木 PM：校内清掃等		
	9月	※5月下旬～6月 現場実習 ※期末試験（授業内の内容すべて）		
後期	10月	グループごとの指導 《内容》 AM：地域清掃 （地区センター、カルチャースクール、まちづくりセンター、フチドオル、VOSC）		
	11月	火・木 PM：校内清掃等		
	12月	※期末試験（授業内の内容すべて）		
	1月	※10月下旬～11月 現場実習		
	2月	※卒業制作 （壁新聞を作り後輩に発表する）		
3月				

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

〃 職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。

職業 1年 (パン工房)

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価したり、表現したりする ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を工夫しようとする	

学習計画		学習内容 (何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)
前期	4月	1回目ローテーション ・オリエンテーション 【パン工房】 ・トッピング ・分割 ・丸め ・計量 ・シール貼り	①働くための基礎・基本的な知識や技能を知る ・食品を扱う際の注意事項 (衛生管理・身だしなみ等) ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力	・ICT機器を使用し、適宜展開する。 ・パン工房を実際の職場と想定して、作業に取り組む  ・作業の一連の学習活動を積み重ねることを通して、職場で求められる作業態度を学ぶ
	5月	・清掃 ・紙敷き ・食器戻し ・食器洗い	②次回のローテーションへ向けて、ふり返しを通して自分の課題に気づき、アドバイスを受けてその方策を考え、教員等に伝えたり、文にまとめたりする	・手順表やマニュアルが必要最低限の環境において、自分から質問や相談を行い、作業手順を覚える
	6月		③意欲的に指示された作業に取り組み、任された仕事を最後までやり遂げる	・現場実習における自分の課題や「キャリアデザイン」の目標を意識しながら、日々のふり返しを行う
後期	7・8月	2回目ローテーション 【パン工房】 ・トッピング ・分割 ・丸め ・計量 ・シール貼り	①働くための基礎・基本的な知識を理解し、技能を身に付ける ・食品を扱う際の注意事項 (衛生管理・身だしなみ等) ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力	・肢体不自由部門と連携する  ・地域販売やカフェ営業は上級生から作業手順を学び、実際にお客様とのやりとりを通して、接客に必要なスキルを学ぶ
	9月	・清掃 ・紙敷き ・食器戻し ・食器洗い ・地区センター納品	②次回のローテーションへ向けて、ふり返しを通して自分の課題に気づき、その方策を考え、教員等に伝えたり、文にまとめたりする	
	10月	・買い出し 【カフェ】 ・開店準備 (清掃) ・レジ打ち・接客	③1回目のローテーションで学んだことを生かして、意欲的に指示された作業に取り組み、任された仕事を最後までやり遂げる	
	11月	9月 期末試験 (実技+ふり返しプリント記入)		
	12月	3回目ローテーション 【パン工房】 ・トッピング ・分割 ・丸め ・計量 ・シール貼り ・清掃 ・紙敷き ・食器戻し ・食器洗い ・地区センター納品 ・買い出し 【カフェ】 【外部販売】 ・開店準備 (清掃) ・レジ打ち・接客	①働くための基礎・基本的な知識を理解し、技能を身に付ける ・食品を扱う際の注意事項 (衛生管理・身だしなみ等) ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力  ②来年度のコース選択に向けて、ふり返しを通して自分の得意・不得意をとらえ、理由を明確にして説明したり、文にまとめたりする  ③今まで学んだことを生かして、見通しをもって指示された作業に取り組み、任された仕事を最後までやり遂げる	
1月	・開店準備 (清掃) ・レジ打ち・接客 2月 期末試験 (実技 + ふり返しプリント記入)			
2月				
3月	新コースでの校内実習 ・次年度へ向けての準備をする			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
-------	---------------------------------

職業 (校内実習) の3コースについては、上記の①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。



職業 2年 (パン工房)

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善したり、表現したりする
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする

学習計画

月	学習内容 (何を学ぶか) 関連教科は★印をつけて明示	目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)	
前期	4月	【第1期】 【パン工房】 ・トッピング ・仕込み ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量	①働くための基礎・基本的な知識の理解を深め、技能の定着を目指す ・食品を扱う際の注意事項 (衛生管理・身だしなみ等) ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力 ・作業の効率性、技術の向上 ・状況に応じた対応、コミュニケーション ②自分の課題を意識しながら作業に取り組み、ふり返しを通して評価し、次の方策を考え、伝えたり、文にまとめたりする ③自分で選んだコースであることに責任をもち、進んで様々な作業に取り組み、任された仕事を最後までやり遂げる	・ICT機器を使用し、適宜展開する。 (通年) ・パン工房を実際の職場と想定して、作業に取り組む ・作業の一連の学習活動を積み重ねることを通して、職場で求められる作業態度を学ぶ ・手帳やマニュアルが必要最低限の環境において、自分から質問や相談を行い、作業手順を覚える ・担当の業務に関する作業手順を上級生から学ぶ ・現場実習における自分の課題や「キャリアデザイン」の目標を意識しながら、日々のふり返しを行う
	5月	【カフェ】 【外部販売】 ・開店準備 (清掃) ・販売準備 ・ハンドドリップ コーヒーの抽出 ・レジ打ち・接客 ・閉店準備 (片づけ)		
	6月	6~7月 現場実習 (3日間×2職種で実習)		
	7・8月	【第2期】 【パン工房】 【交流】 ・トッピング ・A部門生徒との連携 ・仕込み ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量		
	9月	【カフェ】 【外部販売】 ・開店準備 (清掃) ・販売準備 ・ハンドドリップ コーヒーの抽出 ・レジ打ち・接客 ・閉店準備 (片づけ)		
後期	10月	*9月 若葉台地区センターまつり 準備・参加 *10月 現場実習 (3日間×2職種で実習) *11月 中2・中3見学会準備	①働くための基礎・基本的な知識の理解を深め、技能を定着させる ・食品を扱う際の注意事項 (衛生管理・身だしなみ等) ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力 ・作業の効率性、技術の向上 ・状況に応じた対応、コミュニケーション ②自分の課題を意識しながら作業に取り組み、ふり返しを通して評価し、次の方策を考え、伝えたり、文にまとめたりする ③役割を任せられることに責任をもち、作業手順の習得を目指して、自分から進んで作業に取り組む	・肢体不自由部門と連携をする ・地域販売やカフェ営業は上級生から作業手順を学び、実際にお客様とのやりとりを通して、接客に必要なスキルの学びを深める ・後期には下級生に地域販売やカフェ営業の作業手順を伝えることで、自分のスキルの習得度を確認する ・地域のお客様の声を生かして、よりよいパン販売やカフェ運営、その宣伝や普及の企画に向けた話し合いを行う
	11月			
	12月	【第3期】 【パン工房】 ・トッピング ・仕込み ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量		
	1月	【カフェ】 【外部販売】 ・開店準備 (清掃) ・販売準備 ・ハンドドリップ コーヒーの抽出 ・レジ打ち・接客 ・閉店準備 (清掃)		
	2月	*1~2月 現場実習 (5日間×1職種で実習) *学習発表会 (コースとして1年の学習の成果をまとめ、発表する)		
3月		②現場実習の経験から得られた自分の課題や適性を意識しながら作業に取り組み、ふり返しを通して評価し、3年生に向けてその方策を考え、伝えたり、文にまとめたりする ③自分の仕事に責任をもち、自分から進んで作業に取り組み役割を果たすことで、成就感を得たり、貢献する喜びを感じたりする		

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

職業 (校内実習) の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。

職業 3年（パン工房）

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善したり、表現したりする
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする

学習計画

月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）	
前期	4月	【第1期】 【パン工房】 ・トッピング ・仕込み ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量	①働くために必要とされる実践的な知識の理解を深め、技能を定着させる ・食品を扱う際の注意事項（衛生管理・身だしなみ等） ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力 ・作業の効率性、技術の向上 ・状況に応じた対応、コミュニケーション  ②就労体験実習に向けて自分の課題を意識しながら作業に取り組み、ふりかえりを通して評価し、次の方策を考え、適切に伝えたり、文にまとめたりする  ③最上級生として責任をもって作業に取り組み、自分の役割を確実に果たし成就感を得て、さらによりよい作業を目指す	・ICT機器を使用し、適宜展開する。 （通年）  ・パン工房を実際の職場と想定して、作業に取り組む  ・作業の一連の学習活動を通じ、職場で求められる作業態度を学ぶ  ・手帳表やマニュアルが必要最低限の環境において、自分から質問や相談を行い、作業手順を覚える
	5月	【カフェ】 【外部販売】 ・開店準備（清掃） ・販売準備 ・ハンドドリッ コーヒーの抽出 ・レジ打ち ・接客 ・閉店準備（片づけ）		
	6月	*5～7月 現場実習		
	7・8月	【第2期】 【パン工房】 【交流】 ・トッピング ・コラボ集会参		
	9月	・仕込み ・A部門生徒との連携 ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量		
	10月	*9月 販売促進のための話し合い *10月～11月 現場実		
後期	11月		②就労体験実習に向けて自分の課題を意識しながら作業に取り組み、ふりかえりを通して評価し、次の方策を考え、適切に伝えたり、文にまとめたりする  ③最上級生として、パン工房全体を見て率先して様々な作業に取り組むなかで貢献する喜びを体得し、さらによりよい作業を目指す	・担当の業務に関する作業手順を下級生のことを考えて伝える  ・現場実習における自分の課題や「キャリアデザイン」の目標を意識しながら、日々の振り返りを行う  ・肢体不自由部門とコラボ集会等を通じて連携し、繋がりを深める  ・地域販売やカフェ営業は実際にお客様とのやりとりを通して、接客に必要なスキルの学びを深める
	12月	【第3期】 【パン工房】 ・トッピング ・仕込み ・分割 ・袋詰め ・出荷 ・焼成 ・仕込み ・計量	①働くために必要とされる実践的な知識の理解を深め、技能を定着させる ・食品を扱う際の注意事項（衛生管理・身だしなみ等） ・挨拶、言葉づかい ・報告・連絡・相談 ・時間を意識した作業 ・道具の扱い方、安全性 ・作業の確実性、持続性、巧緻性 ・他者との協力 ・作業の効率性、技術の向上 ・状況に応じた対応、コミュニケーション	
	1月	（*1～2月 現場実習）	②就労に向けて自分の課題を意識しながら作業に取り組み、ふりかえりを通して評価し、次の方策を考え、適切に伝えたり、文にまとめたりする  ③最上級生として、パン工房全体を見て率先して様々な作業に取り組むなかで貢献する喜びを体得し、学んだことを卒業後の就労に生かそうとする	
	2月			
	3月			

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

職業（校内実習）の3コースについては、上記①②③に関して連絡票の「担当所見」で文章表記にて評価する。また、連絡票の「職業評価表」の各項目ごとに4段階評価する。

職業 1年（現場実習・職場見学）

目標		①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等		
①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身につけるようにする ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う				
学習計画				
月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて 明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）	
4月			・ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年）	
5月				
前期	6月	◎職場見学① ★CC・C G、職業基礎、家庭	①様々な職種を見学したり説明を聞いた りして、働く意義や職種ごとの共通 点または違いなどについて知る ②見学を通して知った働く意義や職種 ごとの共通点または違いなどを、報告 会などで表現する ③見学で得た知識等を自らの職種選択 に生かそうとする態度を養う	・9職種（①清掃②事務・庶務③製造④ロジスティクス ⑤販売・ 流通⑥食品加工⑦フードサービス⑧介護・保育⑨その他）の中から できるだけ多く見学できるようにする（実質的には、①②④が中 心） ・クラス単位で午前中に1企業、午後に1企業を訪問する（6か所） ・事前事後学習を充実させ、報告会を行うことで、定着と共有を図 る
	7・8月			
	9月			
	10月	◎若葉台地域 での現場実習 ★CC・C G、職業基礎、家庭 国語	①近隣の若葉台地域においてあたたか く受け入れていただく体験を通して、 働くことを体感する。 ②体感した「働くこと」について、実 習先への礼状や報告会などで表現する ③体感した「働くこと」を自らの職種 選択に生かそうとする態度を養う	・若葉台地域を中心に、1週間程度を1回行う ・高齢者施設での利用者とのコミュニケーションを中心とした実習 を基本とする ・1週目はAグループが現場実習、Bグループが校内実習。2週目 はAグループが校内実習、Bグループが現場実習 ・7事業所程度に依頼し、1事業所あたり2名で実施する ・原則として、朝は学校に登校し各職場に向かい、実習が終わった ら学校に戻る ・最初の現場実習でもあるので、9時から15時位までの時間設定で 行う ・事前事後学習を充実させ、報告会を行うことで、定着と共有を図 る
	11月			
12月				
後期	1月	◎職場見学② ★CC・C G、職業基礎、家庭	①様々な職種を見学したり説明を聞いた りして、働く意義や職種ごとの共通 点または違いなどについて知る ②見学を通して知った働く意義や職種 ごとの共通点または違いなどを、報告 会などで表現する ③見学で得た知識等を自らの職種選択 に生かそうとする態度を養う	・9職種（①清掃②事務・庶務③製造④ロジスティクス ⑤販売・ 流通⑥食品加工⑦フードサービス⑧介護・保育⑨その他）の中から できるだけ多く見学できるようにする（実質的には、①②④が中 心） ・クラス単位で午前中に1企業、午後に1企業を訪問する（6か所） ・事前事後学習を充実させ、報告会を行うことで、定着と共有を図 る
	2月			
	3月			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①職業に関する事柄について理解を深めている。 ②働くことを体感する「若葉台実習」を通して、自分の課題に気づき、目標を設定し解決しようとしている ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を身につけている	

職業 2年（現場実習）

目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等
①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身につけるようにする	
②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う	
③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う	

学習計画		目標 (何ができるようになるか)	方法 (どのように学ぶか)	
前期	4月		・ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年)	
	5月			
	6・7月	◎自分の適性を知る実習 ・1回目 ・2回目 ★CC・CG、職業基礎	①4つの職種を体験することで、それぞれの職種に求められる力を知る ②ふり返りや実習先への礼状発送、クラスでの共有などを通して、体験したことを表現する ③様々な仕事の体験から、自分に合った職種を見つけようとする態度をもつ	・一日当たり6～8時間の実労働時間 ・自宅から直接実習場所に行く ・4日間程度を1単位とした2回の実習 ・(月)事前学習、(火)(水)(木)(金)実習、(月)事後学習 ・個人もしくは小グループでの実習 ・3年生の現場実習とは時期が重ならないようにする ・9職種(①清掃②事務・庶務③製造④ロジスティクス⑤販売・流通⑥食品加工⑦フードサービス⑧介護・保育⑨その他)のうちから4職種を体験する
	8月			
	9月			
後期	10月	◎自分の適性を知る実習 ・3回目 ・4回目 ★CC・CG、職業基礎	①4つの職種を体験することで、それぞれの職種に求められる力を知る ②ふり返りや実習先への礼状発送、クラスでの共有などを通して、体験したことを表現する ③様々な仕事の体験から、自分に合った職種を見つけようとする態度をもつ	・一日当たり6～8時間の実労働時間 ・自宅から直接実習場所に行く ・4日間程度を1単位とした2回の実習 ・(月)事前学習、(火)(水)(木)(金)実習、(月)事後学習 ・個人もしくは小グループでの実習 ・3年生の現場実習とは時期が重ならないようにする ・9職種(①清掃②事務・庶務③製造④ロジスティクス⑤販売・流通⑥食品加工⑦フードサービス⑧介護・保育⑨その他)のうちから4職種を体験する ・7月三者面談にて、1、2回目のふり返りを丁寧に行うと共に、他に体験してみたい職種について一緒に考え、その意向を3、4回目の職種に反映させていく
	11月	※進路希望調査(第1回)		
	12月	※二者面談 ※三者面談		
	1月	◎自分の適性を見極める実習 ★CC・CG、職業基礎	①自ら選んだ職種を体験し、自分の適性を見極める ②ふり返りや実習先への礼状発送、クラスでの共有などを通して、体験したことを表現する ③自ら選んだ職種を体験することから、自分に合った職種を見つけようとする態度をもつ	・一日当たり6～8時間の実労働時間 ・1週間程度を1回行う ・自分の適性を知る実習での体験をベースにして、進路希望調査(第1回)、二者面談、三者面談で希望職種を決め、その職種で実習をすることで、自分の適性を見極める ・実習後、ふり返りを通して自分の適性が何であるかを考え、進路希望調査(第2回)を提出して、3年生での職種選択に向かっていく
	2月	※進路希望調査(第2回)		
3月	※二者面談 ※三者面談			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身につけている	
②「適性を知る実習」と「適性を見極める実習」を通して、自己理解を深め、就労に向けて課題を解決しようとしている	
③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を身につけている	

職業 3年（現場実習）

目標 ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等

- ①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身につけるようにする
- ②将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う

学習計画

	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月			ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年）
	5月			
	6・7月	◎就労体験実習（前期） ・就労を目指して ★CC・CG、職業基礎	①就労先候補となる職場・職域において、就労を目指して力を発揮すると共に、自分の課題について知る ②ふり返りや実習先への礼状発送などを通して、体験したことを表現する ③将来の職業生活をイメージし、必要な生活改善などに取り組む態度をもつ	・2週間程度～（4週間） ・一日当たり6～8時間の実労働時間だが、8時間を基本とし、場合によっては6時間や7時間とする ・実際の就労に近い時間帯、時間数で実習を行う  ※福祉的就労（就労移行支援事業所、就労継続A型事業所、就労継続B型事業所 等）を選択する場合も同様に現場実習を行う ※企業就労と福祉的就労の現場実習を並行して実施する場合もある（2WAY）
	8月			
	9月			
後期	10・11月	◎就労体験実習（後期） ・就労を意識して ★CC・CG、職業基礎	①就労先候補となる職場・職域において、就労を意識して力を発揮すると共に、自分の課題を克服する ②ふり返りや実習先への礼状発送などを通して、体験したことを表現する ③将来の職業生活をイメージし、必要な生活改善などに積極的に取り組む態度をもつ	・2週間程度～（4週間） ・一日当たり6～8時間の実労働時間だが、8時間を基本とし、場合によっては6時間や7時間とする ・実際の就労に近い時間帯、時間数で実習を行う  ※福祉的就労（就労移行支援事業所、就労継続A型事業所、就労継続B型事業所 等）を選択する場合も同様に現場実習を行う ※企業就労と福祉的就労の現場実習を並行して実施する場合もある（2WAY）
	12月			
	1・2月	◎追実習 ◎研修実習 ★CC・CG、職業基礎	①就労先候補となる職場・職域において、就労を意識して力を発揮すると共に、自分の課題を克服する ②ふり返りや実習先への礼状発送などを通して、体験したことを表現する ③将来の職業生活をイメージし、必要な生活改善などに積極的に取り組む態度をもつ	・就労体験実習（後期）では採用の判断がつかない場合、追実習を行う ・内定後、4月からの職業生活にスムーズに移行するために、研修実習を行うことがある ・いずれの場合も、実習期間などは企業の求めに従う
	3月			

評価の観点 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

- ①職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身につけている
- ②「就労体験実習」を通して、将来の職業生活を見据え、自分の課題に気づき目標を設定し、評価・改善しようとしている
- ③よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を身につけている

# 学校教育目標（開校宣言）

## 一人ひとりを大切にする教育

### 地域とともに歩む

### 自立と社会参加

学校全体で育成を目指す資質・能力

相談する力  
自己選択、自己決定できる力  
自立と社会参加を目指し生きる力

道徳教育の重点目標

道徳教育の目標

<基本的な考え方>  
日々の指導・支援を、道徳教育との関連を意識して行うことを通して、道徳教育の目標にせまる

<重点目標>  
◎自他の生命を尊重し、共に生きようとする心豊かな児童生徒の育成  
A 主として自分自身に関すること：自分の意思を相手にしっかり伝え、自らを律する態度を身につける。  
B 主として他の人との関わりに関すること：自分との関わりを理解しながら、共に行動できる。  
C 主として集団や社会との関わりに関すること：協力し合って集団や社会に参加する意識を高める。  
D 主として自然や崇高なものとの関わりに関すること：望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図る。

高等部においては、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

特別支援学校 高等部 学習指導要領「第1章総則」第2節 第1款2(2)より

学部目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神をたっとび、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本となる。\*特別支援学校 高等部 学習指導要領「第1章総則」第2節 第1款2(2)より

A	B	C	D
社会自立に向けて、自分が必要とする支援をしっかりと伝えるとき、決まり事を守ることができる。	積極的に様々な人との関わりを助け、仲間とともに活動する喜びを感じることができる。	卒業後の社会生活に向けて具体的な活動をすすめる、進路への意識を高めることができる。	自分の心身の状態を理解し、より健康で快適な生活を送ろうと努めることができる。
1 自主、自律、事由と責任 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	6 思いやり 感謝 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに答え、人間愛の精神を深めること。	10 遵法精神 公徳心 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した実現に努めること。	19 生命の尊さ 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること。
2 節度、節制 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	7 礼儀 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。	11 公正、公平、社会正義 正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。	20 自然愛護 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める。
3 向上心、個性の伸長 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	8 友情 信頼 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	12 社会参画、公共の精神 社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。	21 感動、畏敬の念 美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深めること。
4 希望と勇気、克己と強い意志 より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	9 相互理解 寛容 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他から学び、自らを高めていくこと。	13 勤労 勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献をすること。	22 よりよく生きる喜び 人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。
5 真理の探究、創造 真理を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。		14 家族愛、家庭生活の充実 父母、祖父母を敬愛し、家族の一員として自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。	
		15 よりよい学校生活、集団生活の充実 教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力しあってよりよい校風をつくることとともに、様々な集団の意義や集団の中で自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。	
		16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。	
		17 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。	
		18 国際理解、国際貢献 世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。	

学年	1	週当たりの単位時間数		年間単位時間数	12	授業集団	学級他	使用教室	各教室等
目標		①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等							
道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高める。									

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	A節度、節制 ○望ましい生活習慣について考えよう A希望と勇氣克己と強い意志 ○入学しての決意 Cよりよい学校生活、集団生活の充実 ○ホームルーム組織づくり ★ライフスキル CCCG、特別活動 保健体育、職業基礎 他	②節度・節制を心がけて生活することの大切さについて考える。 ③心と体の健康に気をつけて生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○ICT機器を使用し、適宜展開する。（適任） ○自分の一日の生活リズムを数日書き出す。 ○書き出した表を見て、継続すべき点や課題点を発見する。
	5月	Cよりよい学校生活、集団生活の充実 ○運動会の成功のために ★特別活動、保健体育他	②A・B部門それぞれの立場やA部門の仲間を応援する上で大切なことについて考える。 ③互いを認め合い生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○A部門の仲間の発表を応援する。 ○競技や演劇に参加し、応援したことで感じたことについてまとめ、発表する。
	6月	B相互理解、寛容 ○いいとこさがし C遵法精神 公徳心 ○電車やバスなど交通ルール、マナー、公共の場でのエチケット C勤労 ○職場見学 ★CCCG、職業基礎、職業	②自分の良いところや仲間の良いところについて考える。 ③仲間の個性や立場を尊重し合い、互いに高め合いながら生活していこうとする実践意欲と態度を高める	○入学からこれまでの取組を振り返る。 ○仲間ががんばっているところに気づき相手に伝える。 ○仲間からのメッセージを前向きにとらえ今後の意欲につなげる。
	7・8月	B相互理解、寛容 ○SNS利用のマナーについて考えよう 「トラブル対策」P56	②SNSを含めたコミュニケーションの取り方や寛容な心をもって他者と関わっていくことの大切さについて考える。 ③他者の思いや立場を考えて行動する実践意欲と態度を高める。	○題材をもとに、相手の気持ちを考えたコミュニケーションをとるにはどうしたらよいか意見交換等をする。
	9月	B礼儀 ○人と関わるときに大切な礼儀の心「ひとりだち」 P53～ 「くらしに役立つソーシャルスキル」 P46～ C勤労 ○若葉台実習 実習報告会 ★特別活動、CCCG、職業、職業基礎 他	②人と関わるときに大切な礼儀の心について考える。 ③相手を敬い、時と場に応じた言動を取ろうとする心情を高める。	○感染症予防のためのソーシャルディスタンスを確認する。 ○電車やバスなど交通公共機関や公共の場でのルールやマナーについて考え、実践する。 ○実習先でのコミュニケーションの取り方や話す時の距離について確認する。 ○仲間とのコミュニケーションの取り方やマナー、エチケットについて意見交換し、実践する。
後期	10月	C公正、公平、社会正義 ○いじめのない社会のために ★特別活動 他	②いじめが起こらない社会をつくるために大切なことについて考える。 ③自分のこれまでの生活を振り返り、いじめが起こらない社会を実現していこうとする実践意欲と態度を高める。	○いじめアンケートを記入する。 ○いじめを起こさないために自分ができることを考え、意見交換する。
	11月	C我が国の伝統と文化の尊重 ○修学旅行に向けて 北海道の伝統や文化について知ろう Cよりよい学校生活、集団生活の充実 ○校外学習にむけてコース作り 鎌倉の地理や歴史について知ろう C遵法精神 公徳心 ○電車やバスなど交通ルール、マナー、公共の場でのエチケット C勤労 ○職場見学 ★CCCG、職業基礎、職業、社会 特別活動 他	②北海道の伝統や文化に携わる人々の考え方や気持ちについて考える。 ③伝統と文化を大切にしていこうとする実践意欲と態度を高める。	
	12月	A向上心 個性の伸長 ○自己をみつめ直そう ★公開研究会 3年学習発表会	②他者の取組や考えにふれることから自己を振り返る機会をもつ。③自己の向上を図るとともに個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	○公開研究会や学習発表会での上級生の発表を聞く。 ○感想や印象に残ったことなどを記入し意見交換する。 ○次年度の活動の意欲につなげる。
	1月	A向上心 個性の伸長 ○道徳の学びを振り返ろう C遵法精神 公徳心 ○電車やバスなど交通ルール、マナー、公共の場でのエチケット ★学習発表会 校外学習他	②これまでの学習を振り返り、道徳的諸価値について理解を深める。 ③他者と共によりよく生きていこうとする実践意欲と態度を高める。	○過去の学習を振り返り、感じたことを仲間と意見交換する。 ○一年間お世話になった人へメッセージの記入等をする。
	2月			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができるようになったか	
②ねらいとする道徳的価値に関して、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることができるようになったか	
③さまざまな側面から道徳的価値を多面的に考えることができるようになったり、一つの道徳的価値が多様な道徳的価値との関わりがあるといった多角的な考え方ができるようになったか	
④人間としてよりよく生きる上で大切なものは何か、その上に立って自分はどうのように生きるべきかなどについて考えられるようになったか	

学年	2	週当たりの単位時間数		年間単位時間数	12	授業集団	学級他	使用教室	各教室等
----	---	------------	--	---------	----	------	-----	------	------

<p>目標</p> <p>&lt;全学年共通&gt;                  道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高める。</p>									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

学習計画									
月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）						
前期	4月	C 我が国の伝統と文化の尊重 「アイヌの文化の継承について考える」	北海道の伝統や文化に携わる人々の考え方や気持ちについて考え、伝統と文化を大切にしていこうとする実践意欲と態度を高める。	○ICT機器を使用し、適宜展開する。（適年） ○動画視聴、記事を読む等 ○ワークシートへの記入、意見交換する。					
	5月	Cよりより学校生活、集団生活の充実 ○運動会の成功のために ★特別活動、保健体育他	A・B部門それぞれの立場やA部門の仲間を応援する上で大切なことについて考え、互いを認め合い生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○A部門の仲間の発表を応援する。 ○競技や演技に参加し、応援したことで感じたことについてまとめ、発表する。					
	6月	A 自主、自律、自由と責任 ○自分で考えて行動するとは？ 「カラカラカラ」	自ら考えて行動するとはどういうことかを考えさせ、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもととする実践意欲と態度を高める。	○動画視聴、文章を読む、ロールプレイ等 ○ワークシートへの記入、意見交換					
	7・8月	A 節度、節制 ○スマートフォンを使う時にはどんな心構えが必要だろう ★CCCG、保健体育、職業基礎 他	節度・節制を心がけてスマートフォンを使うことの大切さについて考え、心と体の健康に気をつけて生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○自分のスマートフォンの利用について書き出す。 ○書き出した用紙を見て、継続すべき点や課題点を見出す。					
	9月	B 友情、信頼 思いやり、感謝 ○信頼し、励まし合える友達とは？ 「違うんだよ、健司」	信頼し、励まし合える友達とはどんな存在なのかを考えさせ、他者と友情と信頼を築いていこうとする実践意欲と態度を高める。	○動画視聴、文章を読む、ロールプレイ等 ○ワークシートへの記入、意見交換					
後期	10月	C 勤労 ○働くって なに？ ★職業基礎、職業 他	働くことの意義や喜び、自分が働くために大切なことについて考え、現場実習に向けて目標をもって臨もうとする実践意欲と態度を高める。	○アンケート結果などから、働く理由について考え、話し合う。					
	11月	A 向上心、個性の伸長 ○自分の良さを見つめ進路選択に活かそう ★職業基礎、職業、特別活動 他	話し合いを通して、自分の得意なことについてさまざまな角度から見つめ、向上心や個性をより伸ばすことや、それを進路選択に活かそうという意欲を高める。	○特に校内実習における自分や他者の良いところを付箋に書き、交換する。 ○ワークシート等を書いてまとめ、進路選択に活かす。					
	12月	A 節度、節制、希望と勇気、克己と強い意志 C よりよい学校生活、集団生活の充実 ○将来をより豊かにするための生活習慣について 「就職駅伝に挑戦」★保健体育他	将来をより豊かにするための生活習慣について考え、節度ある生活を送ろうとする実践意欲と態度を高める。	○動画視聴、文章を読む、アクティビティ等 ○ワークシートへの記入、意見交換					
	1月	D 生命の尊さ ○命が生まれるその時に ★特別活動 他	震災について知っていることの話し合いをもとに、生命の大切さについてさまざまな側面から考え、日々悔いのないように生きることへの意欲を高める。	○動画視聴、記事を読む等 ○ワークシートへの記入、意見交換					
	2月	A 向上心、個性の伸長 ○自分の良さを見つめ個人票作成に活かそう ★職業基礎、職業、特別活動 他	話し合いを通して、自分の長所についてさまざまな角度から見つめ、向上心や個性をより伸ばすことや、それを個人票作成に活かそうとする意欲を高める。	○自分や他者の良いところを付箋に書き、交換する。 ○ワークシート等を書いてまとめ、個人票記入に活かす。					
	3月	○道徳の学びをふり返ろう	これまでの学習をふり返り、道徳的諸価値について理解を深め、他者と共によりよく生きていこうとする実践意欲と態度を高める。	○過去の学習をふり返り、感じたことを仲間と意見交換する。 ○一年間お世話になった人へメッセージの記入等をする。					

評価の観点	①「道徳的価値」の理解 ②「自己を見つめる」こと ③「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」こと ④「人間としての生き方についての考えを深める」こと
①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができるようになったか ②ねらいとする道徳的価値に関して、自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めることができるようになったか ③さまざまな側面から道徳的価値を多面的に考えることができるようになったり、一つの道徳的価値が多様な道徳的価値との関わりがあるといった多角的な考え方ができるようになったか ④人間としてよりよく生きる上で大切なものは何か、その上に立って自分はどうに生きるべきかなどについて考えられるようになったか	



学年	3	適当たりの単位時間数	年間単位時間数	12	授業集団	学級他	使用教室	各教室等
目標								
<全学年共通> 道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高める。								

学習計画								
	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）				
前期	4月	A節度節制 ○良い生活習慣を繰り返し実践する ★職業、職業基礎、CCCG他	望ましい生活習慣を継続していくことの大切さについて考え、よりよい生活習慣を続けていこうとする実践意欲と態度を高める。	○ICT機器を使用し、適宜展開する。（適年） ○自分の生活習慣をふり返り、シートへ記入する。 ○今後どう継続するか、どう改善するかを考え、まとめる。				
	5月	Cよりより学校生活、集団生活の充実 ○運動会の成功のために ★特別活動、保健体育他	A・B部門それぞれの立場やA部門の仲間を応援する上で大切なことについて考え、互いを認め合い生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○A部門の仲間の発表を応援する。 ○競技や演技に参加し、応援したことで感じたことについてまとめ、発表する。				
	6月	B相互理解、寛容 ○SNS利用のマナーについて考えよう ★特別活動、CCCG他	SNSを含めたコミュニケーションの取り方や寛容な心をもって他者と関わっていくことの大切さについて考え、他者の思いや立場を考えて行動する実践意欲と態度を高める。	○題材をもとに、相手の気持ちを考えたコミュニケーションをとるにはどうしたらよいか意見交換等をする。				
	7・8月	Dよりよく生きる喜び ○夏休みにやってみようことについて考えよう	将来の生き方について考えを深め、余暇の過ごし方について改めて考え、自らの生き方を充実させていこうとする実践意欲と態度を高める。	○先生の夏休みプランを参考に、自分のプランを考え記入する。 ○夏休みプランを共有し、自分の考えを深める。				
	9月	Cよりより学校生活、集団生活の充実 ○ふれあい交流②成功のために ★特別活動、校内実習他	B部門の校内実習をA部門の児童生徒と一緒に取り組む上で大切なことについて考え、互いを認め合い生活していこうとする実践意欲と態度を高める。	○A部門の仲間と一緒に活動できるように学習内容を考える。 ○感じたことについてまとめ、ふり返りシートに記入する。				
後期	10月	A希望と勇氣、克己と強い意志 ○豊かに生きる ★特別活動、CCCG他	夢や目標をもつことの大切さについて考え、目標に向かい、夢と希望をもって着実にやり抜こうとする実践意欲と態度を高める。	○自分のことについてふり返りを行う。 ○感じたことや自分の生活に生かせることについてまとめる。				
	11月	B相互理解、寛容 ○リボン運動について知ろう ★特別活動、CCCG他	リボン運動が何のために行われているものなのかを学習し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、差別やいじめがない社会を実現していこうとする実践意欲と態度を高める。	○シトラスリボンが作られるまでの流れを学習する。 ○シトラスリボンを実際に作り、リボン運動への理解を深める。				
	12月	C公正、公平、社会正義 ○いじめのない社会のために ★特別活動、CCCG他	いじめが起こらない社会をつくるために大切なことについて考え、自分のこれまでの生活をふり返り、いじめが起こらない社会を実現していこうとする実践意欲と態度を高める。	○いじめを起ささないために自分ができることを考え、意見交換する。 ○いじめアンケートを記入する。				
	1月	C勤労 ○30歳までのライフプラン ★職業、職業基礎、CCCG他	将来の生き方について考えを深め、他者や社会に貢献しながら自らの生き方を充実させていこうとする実践意欲と態度を高める。	○先生のライフプランを参考に、自分のライフプランを考え記入する。 ○ライフプランを共有し、自分の考えを深める。				
	2月	A向上心、個性の伸長 ○体験談を聞いて、考えよう ★特別活動、CCCG他	社会人の方から体験談を聞き、自分の社会生活をイメージし、自己を見つめ、より充実した生き方をしていこうとする実践意欲と態度を高める。	○講和を聴講する。 ○感想を発表する。				
	3月							

評価の観点	①「道徳的価値」の理解 ②「自己を見つめる」こと ③「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」こと ④「人間としての生き方についての考えを深める」こと
①道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができるようになったか ②ねらいとする道徳的価値に関して、自分の経験やそのときの感じ方、考え方や照らし合わせながら、更に考えを深めることができるようになったか ③さまざまな側面から道徳的価値を多面的に考えることができるようになったり、一つの道徳的価値が多様な道徳的価値との関わりがあるといった多角的な考え方ができるようになったか ④人間としてよりよく生きる上で大切なものは何か、その上に立って自分はどのように生きるべきかなどについて考えられるようになったか	

学年	1	週当たりの単位時間数	2	年間単位時間数	60	授業集団	10	使用教室	普通教室・研修会議室等
目標		①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等							
①ポートフォリオ「キャリアナビゲーション」や「キャリアデザインシート」の活用を通して、3年間のキャリア教育に見通しをもち、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につける。 ②校内実習のふり返りや職場見学、現場実習を通して、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ③キャリアデザイン相談会を通して、教員や友人と相談する力を身に付け、自分の将来を主体的に考える態度を養う。									

学習計画		月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	○オリエンテーション（ファイリング、ポートフォリオ）・キャリア教育3年間の流れ・キャリアデザインシート記入 ○「若葉台に入学しての決意」事前学習 ○「若葉台に入学しての決意」発表会 ★職業基礎	①3年間におけるキャリア教育の流れを理解する ②新しい学習や生活に対して期待感をもち、目標を立てられる。 ③ファイリング、ポートフォリオを活用して整理していくことの有用性を理解できる。	ICT機器を使用し、適宜撮影する。（講義）・3年間の共通しが持てるようワークシートを工夫する・書類を冊系列にドットファイルへ保管整理する・発表会を通して「やりたい」「やってみよう」という気持ちを醸成する	
	5月	○第1回職場見学事前学習・見学の目的・見学態度やマナー・調べ学習 ○第1回キャリアデザイン相談会事前学習 ○第1回キャリアデザイン相談会 ○第1回キャリアデザイン相談会事後学習 ・キャリアデザインシート記入 ★職業基礎	①主体的な調べ学習を通して、見学先の職場について知る。 ②キャリアデザイン相談会に向けて、自分の学校生活をふり返り、相談内容を考えられる。 ③積極的に相談することを通じて、解決につながる道筋を見つけ、そこに向かって努力する姿勢をつくる。	・職場見学の意義・内容をパワーポイントで説明する。その際に職種選択につながるものであることを強調する。・キャリアデザイン相談会を通して、他者に相談することで悩みや課題を解決したり今後の目標を定めたりすることにつながることを知る	
	6月	○第1回職場見学事前事後学習・ふり返り・職場見学報告会・キャリアデザインシート記入（○第1回進路説明会）○校内実習ふり返り・キャリアデザインシート記入○スケジュール管理の工夫 ★職業基礎	①見学した内容を自分なりに文章でまとめることができる。スケジュール帳の使い方を知る。 ②仲間と共有できる内容を伝えられるように報告会の準備をする。校内実習を通して、できたことや課題を明確にする ③職種ごとに必要なスキルを知り、現時点での自分の適性を考えられる。校内実習を通して、できたことや課題を明確にする	・職場見学報告会を通して、他クラスの様子を聞く中で他職種の様子も共有する。・大事なことや締切があるものをスケジュール帳に記入していく・ソフトスキル、ハードスキルの区別を知らせる。	
	7・8月	○現場実習事前学習・実習の目的・実習の心構え・個人票の書き方・証明写真 ★職業基礎、国語	①現場実習の目的・内容を知る。個人票の書き方や証明写真の撮り方を知る。 ②個人票の内容を工夫し、相手に伝わりやすい内容で伝えることができる。 ③個人票を書くことで、実習への気持ちを高め、自分の課題について確認できる。	・しおり、パワーポイントを使い、現場実習の意味、必要な準備などを伝える。・個人票の見本を使い、欄ごとの書き方を伝える	
	9月	○現場実習事前学習・個人票の清書・お礼状の下書き・メモを使った報告の仕方・実習日誌の記入の仕方 ○校内実習ふり返り（○第2回進路説明会）○第2回キャリアデザイン相談会事前学習 ○第2回キャリアデザイン相談会○第2回キャリアデザイン相談会事後学習・キャリアデザインシート記入 ★職業基礎、国語	①お礼状の書き方、メモの書き方、実習日誌の記入の仕方を知る。 ②校内実習のふり返りから自分の課題・目標をまとめる。キャリアデザイン相談会で、自分の課題や相談内容をわかりやすく伝えられる。 ③キャリアデザイン相談会で受けたアドバイスを参考にして、自分の課題に対する目標を立てる。	・メモの必要性を伝える。お礼状の見本を使う。国語の授業が中心。・キャリアデザイン相談会でもらったアドバイスを通して、自分の課題や目標を明確にしていく。	
後期	10月	○現場実習事前学習・面接準備・スケジュール管理・目標発表・最終確認 ○現場実習事後学習・担当者とのふり返り・お礼状書き・キャリアデザインシートの記入 ★職業基礎	①現場実習に必要な準備ができる。お礼状を決まりに従って書ける。 ②現場実習で学んだことをふり返り、できたことや課題を考えられる。 ③自分の課題の解決に向けて、校内実習で取り組める具体的な目標を考える。 目標発表では互いの目標を聞き合い、実習に向けた思いを共有共感し、共に実習に向けた決意を新たにす。	・学年又はクラスで決意表明をする時間をもつことで、実習に向けた思いを共有し、ともに実習に臨む仲間がいることにあらためて気づき、実習に向けた決意をあらたにする	
	11月	○現場実習事後学習・担当者とのふり返り・お礼状書き ○現場実習報告会準備・報告会・まとめ ○校内実習ふり返り・キャリアデザインシート記入 ★職業基礎	①お礼状を正確に清書する。報告会の発表原稿を書く。 ②報告会で、情報を共有することを目的とした発表内容を考える。 ③報告会に向けて、同じ実習先の仲間と協力して発表練習ができる。	・実習担当者とのふり返りを行う。お礼状書きを通して、実習先への感謝の気持ちを持つ。・実習報告会にむけて、自分が発表する内容を整理したり、発表する際の注意点を明確にする。	
	12月	○第2回職場見学事前学習・見学の目的・調べ学習 ★職業基礎 ○次年度校内実習コース希望票（1回目）書き ★職業基礎	①職場見学の目的を再確認し、見学先について調べ学習をする。 ②見学先企業に対する質問内容を考える。 実習の経験から、自分の長所・課題について考え、コース希望を書く。 ③職種理解、コース希望などを通じて、自分の将来について考える。	・しおり、パワーポイントを使用し、日程、実習先の発表などを行い、適宜記入させる。 ・コース決定の流れを説明する。	
	1月	○次年度校内実習コース希望票（2回目）書き ○第2回職場見学事前学習・態度やマナー・調べ学習・目標発表・最終確認 ○第2回職場見学事後学習・ふり返り・報告会準備 ○第2回職場見学報告会 ○第3回キャリアデザイン相談会事前学習 ○第3回キャリアデザイン相談会 ○第3回キャリアデザイン相談会事後学習・ふり返り（○教育課程・進路説明会）○校内実習ふり返り ○キャリアデザインシート記入○校外学習事前学習・日時場所の発表他 ★職業基礎	①調べ学習を通して、主体的に見学先の職場の準備をする ②職場見学を通して、働く上で大切なことを知り、報告会で学年で共有できるようにわかりやすくまとめる。 キャリアデザイン相談会で、自分の強みや課題を伝えられる。 そしてアドバイスを参考にして目標を立てられる。 ③見学した内容をふまえ、各職種に対する自分の適正について考える。 先輩や同僚のアドバイスを参考にして、コース選択にあたって自分の気持ちを明確にしていく	・しおりに記入することで、準備、まとめ、報告会後のまとめを行う。 ・見学で大事なこと（職種理解、必要なスキル）、報告会、相談で注意すべきことを伝える。	
	2月	○次年度校内実習コース希望票（最終）書き ○学習発表会事前学習・タイトル決め・発表原稿書き・キャリアデザインシート記入 ○校外学習事前学習・班編成等 ★職業基礎	①学習発表会の意義、内容を理解し、準備すべきことを知る。 校外学習班で、行き先をきめるための方法を知る。 ②校内実習を振り返り、自分が成長できたことをわかりやすく表現する。 班の話し合いで自分の希望を伝えられる。 ③班の話し合いで仲間の意見を尊重し、計画作成という課題解決に向かって努力できる。	・発表会事前学習を通して、発表したい校内実習のシーンや内容をワークシートに記入する ・iPad、ガイドブックなどを用いて調べさせる。話し合いの方法について知らせる。	
3月	○校外学習事前学習・班ごとに行動計画作成・事後学習 ○学習発表会事前学習・発表原稿書き・パワーポイント作り ○学習発表会 ○キャリアデザインシート記入	①学習発表会の原稿を、2分以内で発表できることを考慮してまとめる。 校外学習の班別行動計画をまとめ、提出する。 ②わかりやすく発表できるように工夫し練習する。自信をもって発表する。	・発表練習で伝わりやすい工夫について助言する。 ・行動計画を教員で確認する。		

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけている ②自分の強みや課題を整理し、次の目標を立てている ③将来の自立した生活に向けて、主体的に取り組もうとしている	

学年	2	週当たりの単位時間数	2	年間単位時間数	56	授業集団	8~9人	使用教室	普通教室・研修会議室
目標	①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等								
①ポートフォリオ「キャリアナビゲーション」の活用を通してキャリア教育の理解を深め、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につける ②校内実習や現場実習を通して、情報を集め、整理・分析し、次の課題・目標を立てることができるようになる ③キャリアデザイン相談会や現場実習を通して周りの人と相談する力を身につけ、自分の将来を主体的に考える態度を養う									

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標（何ができるようになるか）	方法（どのように学ぶか）
前期	4月	◎オリエンテーション（ファイリング、ポートフォリオ） ★職業基礎 ・第2学年におけるキャリア教育の流れ ・キャリアデザインシート記入	①2年生におけるキャリア教育の流れを理解する ②書類を冊系列にドットファイルへ保管・整理し、ポートフォリオ活用への意識をもつ ③キャリアデザインシートに2年次の履修の目標を記入することで自分の課題に向き合い一般教科や校内実習で学習する内容に意欲を持つ	・ICT機器を使用し、適宜展開する（操作） ・キャリアデザインシートを記入しながら1年間でどんな項目を記入するのか見直しをもつ。
	5月	◎6月現場実習に向けて ★職業基礎 ・第1回進路説明会 ・6月現場実習のねらい「適性を知る」の確認 ・実習先直前に向けて ・実習先通勤経路検索 ・実習のしおり・日誌の記入	①2年生の現場実習のねらいを理解し、様々な職種について知る ②ICTを活用して実習概要をもとに通勤経路などを適切に調べることができる ③実習日誌やしおりに自分の目標や必要事項を適切に表現する ④実習先の直前で自分の目標や意気込みを伝えようとする意識をもつ	・進路説明会で実習について説明を聞く。 ・実習概要を使って自分で必要事項を実習日誌に記入する ・実習日誌の作成を通して実習のイメージをもつ
	6月	◎現場実習 事前学習 ★職業基礎 ・目標発表 ・最終確認 ◎ハローワーク講話	①事前学習を通し、自分の実習先の職種や仕事内容について知る ②キャリアデザインや実習概要を活用して現場実習の自分の目標をだてること ③互いの目標を聞き合うことで実習に向けた思いを共有や共感し、共に実習に臨む仲間がいること ④あらためて気づき、実習に向けた決意を新たに	・キャリアデザインや実習する職種の特性を知り、自分の目標を実習日誌に記入する ・学年全体で決意表明をする時間をもつ
	7・8月	◎現場実習 事後学習 ★職業基礎 ・担当者との対話によるふり返り ・ふり返りシートの記入 ・クラスでふり返り ・キャリアデザイン相談会 ・キャリアデザイン相談会のふり返り ・キャリアデザインシートの記入	①実習日誌をもとにふり返りシートを活用し自身の課題や企業からの課題を整理する ②実習をふり返り、担当者や対話やキャリアデザイン相談会での対話を通して、自身の課題に気づき、必要なアドバイスがわかる ③ふり返りのワークシートの記入により自己の適性について理解を深める ④クラスにて各々の体験を共有し、就労に向けて大切となる力等について共感することで共に学び合う ⑤キャリアデザイン相談会にて自身の課題を相談し解決に向けた手立てを考え、校内での学びに生かそうとする	・実習日誌をもとにふり返りシートの記入を行う ・実習担当者や対話をしながらふり返りを行う ・クラス内で体験を共有し必要な力について考える ・相談会の板書の写真を見ながら、自分がこれから参考にするアドバイスを確認する
	9月	◎10月現場実習に向けて ★職業基礎 ・第2回進路説明会 ・10月現場実習のねらい「適性を知る」の確認 ・実習先直前に向けて ・実習先通勤経路検索 ・実習のしおり・日誌の記入	①2年生の現場実習のねらいをふり返り、様々な職種について知る ②ICTを活用して実習概要をもとに通勤経路などを適切に調べることができる ③実習日誌やしおりに自分の目標や必要事項を適切に表現する ④実習先の直前で自分の目標や意気込みを伝えようとする意識をもつ	・進路説明会で実習について説明を聞く。 ・実習概要を使って自分で必要事項を実習日誌に記入する ・実習日誌の作成を通して実習のイメージをもつ
後期	10月	◎現場実習 事前学習 ★職業基礎 ・目標発表 ・最終確認	①事前学習を通し、自分の実習先の職種や仕事内容について知る ②キャリアデザインや実習概要を活用して現場実習の自分の目標をだてること ③互いの目標を聞き合うことで実習に向けた思いを共有や共感し、共に実習に臨む仲間がいること ④あらためて気づき、実習に向けた決意を新たに	・キャリアデザインや実習する職種の特性を知り、自分の目標を実習日誌に記入する ・学年全体で決意表明をする時間をもつ
	11月	◎現場実習 事後学習 ★職業基礎 ・担当者との対話によるふり返り ・ふり返りシートの記入 ・クラスでふり返り ・キャリアデザイン相談会 ・キャリアデザイン相談会のふり返り ・キャリアデザインシートの記入	①実習日誌をもとにふり返りシートを活用し自身の課題や企業からの課題を整理する ②実習をふり返り、担当者や対話やキャリアデザイン相談会での対話を通して、自身の課題に気づき、必要なアドバイスがわかる ③ふり返りのワークシートの記入により自己の適性について理解を深める ④クラスにて各々の体験を共有し、就労に向けて大切となる力等について共感することで共に学び合う ⑤キャリアデザイン相談会にて自身の課題を相談し解決に向けた手立てを考え、校内での学びに生かそうとする	・実習日誌をもとにふり返りシートの記入を行う ・実習担当者や対話をしながらふり返りを行う ・クラス内で体験を共有し必要な力について考える ・相談会の板書の写真を見ながら、自分がこれから参考にするアドバイスを確認する
	12月	◎1月現場実習に向けて ★職業基礎 ・第3回進路説明会 ・1月現場実習のねらい「適性を見極める」の確認 ・実習先直前に向けて ・実習先通勤経路検索 ・実習のしおり・日誌の記入	①1月の現場実習のねらいを確認し、適性を見極めるために必要な知識、技能を確認する ②ICTを活用して実習概要をもとに通勤経路などを適切に調べることができる ③実習日誌やしおりに自分の目標や必要事項を適切に表現する ④実習先の直前で自分の目標や意気込みを伝えようとする意識をもつ	・進路説明会で実習について説明を聞く。 ・実習概要を使って自分で必要事項を実習日誌に記入する ・実習日誌の作成を通して実習のイメージをもつ
	1月	◎現場実習 事前学習 ★職業基礎 ・目標発表 ・最終確認	①事前学習を通し、自分の実習先の職種や仕事内容について知る ②キャリアデザインや実習概要を活用して現場実習の自分の目標をだてること ③互いの目標を聞き合うことで実習に向けた思いを共有や共感し、共に実習に臨む仲間がいること ④あらためて気づき、実習に向けた決意を新たに	・キャリアデザインや実習する職種の特性を知り、自分の目標を実習日誌に記入する ・学年全体で決意表明をする時間をもつ
	2月	◎現場実習 事後学習 ★職業基礎 ・担当者との対話によるふり返り ・ふり返りシートの記入 ・クラスでふり返り ・キャリアデザイン相談会 ・キャリアデザイン相談会のふり返り ・キャリアデザインシートの記入	①実習日誌をもとにふり返りシートを活用し自身の課題や企業からの課題を整理する ②実習をふり返り、担当者や対話やキャリアデザイン相談会での対話を通して、自身の課題に気づき、必要なアドバイスがわかる ③ふり返りのワークシートの記入により自己の適性について理解を深める ④クラスにて各々の体験を共有し、就労に向けて大切となる力等について共感することで共に学び合う ⑤キャリアデザイン相談会にて自身の課題を相談し解決に向けた手立てを考え、校内での学びに生かそうとする	・実習日誌をもとにふり返りシートの記入を行う ・実習担当者や対話をしながらふり返りを行う ・クラス内で体験を共有し必要な力について考える ・相談会の板書の写真を見ながら、自分がこれから参考にするアドバイスを確認する
3月	◎学習発表会 事前学習 ★LHR ◎学習発表会 ・キャリアデザインシートの記入、次年度へのまとめ	①学習発表会に向けてこれまでの活動をふり返り、各コースの特徴や目標などを確認する ②校内実習を通して学んだことやこれからの課題、コースとして大切にしていることや今後の方針等をチームのメンバーと協力してまとめることができる。 ③発表を通して自己有用感を高めるとともにふり返りを行い次年度の課題に気づく	・学習発表会で使う発表資料の作成を校内実習のチームのメンバーで行う ・チームのメンバーと協力して、発表の練習を行う ・これまでの活動をふり返りキャリアデザインシートを完成させ次年度につなげる	

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけている ②自分の強みや課題を整理し、次の目標を立てている ③将来の自立した生活に向けて、主体的に取り組もうとしている	

学年	3	週当たりの単位時間数	2	年間単位時間数	40	授業集団	8~9人	使用教室	普通教室・研修会議室
目標		①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③学びに向かう力、人間性等							
①社会人として自立した生活を目指すうえで必要な知識および技能を身につける ②社会人生活で直面するであろう事柄や判断すべき内容についての学習を通して、自ら考え対応する力や適切な相手に相談するを身につける ③自分の将来を主体的に考える態度や自立した生活を送ろうとする姿勢を養う									

学習計画		学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	OCCCCG授業の進め方 （オリエンテーション）	①卒業後の生活や就労に向けて、進路学習とライフキャリア学習を進めていくことを知る ②卒業後の生活や就労に向けて、自分に必要なことを考える ③卒業後の生活や就労に向けて学習する意欲を高める	ICT機器を使用し、適宜展開する。（通年）
	5月	○社会人の生活 ○「働く」意味を考える	①社会人生活のイメージをもつ ②社会人生活において大切なことや何のために働くかを考える ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・身近な方の体験談を聞く ・仲間同士で意見交換する
	6月	○長く働き続けるために ○電子マネーの管理	①電子マネーのメリットやデメリット、危険性がわかる ②電子マネーを適切に利用できるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・視聴覚教材やパワーポイントで学習する
	7・8月	○インターネット利用 ・SNSのマナー ・危険なサイト	①情報社会における危険性やモラルがわかる ②インターネットを適切に利用できるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・視聴覚教材やパワーポイントで学習する
	9月	○相談機関について（障害福祉のあんない読み合わせ） ○クレジットカードの管理	①卒業後利用できる福祉サービスがわかる ②福祉サービスを適切に利用できるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢を持つ	・障害福祉のあんないを読む ・視聴覚教材やパワーポイントで学習する
後期	10月	○自分の身を守る ・キャッチセールス ・ゲーム課金	①悪質な商法が社会にあることを知る ②自分自身で身を守ることができるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・視聴覚教材やパワーポイントで学習する
	11月	○一人暮らしに必要な費用 ○給与明細の見方 ○求人票の見方 ○お金の貸し借り・割り勘	①一人暮らしのイメージをもつ・給与明細や求人票の見方がわかる ②よりよい暮らしができるようになる・必要時に適切な機関に相談できるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・視聴覚教材やパワーポイントで学習する
	12月	○恋愛と結婚 ○性教育	①正しい性知識や望ましいお付き合いの在り方を知る ②よりよいお付き合いができるようになる ③学んだことや考えたことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・視聴覚教材やパワーポイントで学習する ・仲間同士で意見交換する
	1月	○30歳までのライフプラン（キャリアデザイン相談会事前学習） ○キャリアデザイン相談会	①卒業後の生活のイメージをもつ ②卒業後に向けて自分に必要なことを考え、相談内容を整理する ③相談したことを今後の生活に生かす姿勢をもつ	・身近な方の体験談を聞く ・福祉機関の方に相談する ・仲間同士で意見交換する
	2月	○キャリアデザインシート完成（キャリアデザイン相談会事後学習） ○卒業後の社会人生活に向けて	①将来の「なりたい自分」像をもつ ②卒業後に向けて自分に必要なことを考える ③自己実現に向けて努力できる人になる	・アドバイスを元に将来なりたい自分を考える
	3月			

評価の観点	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
①課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけている ②自分の強みや課題を整理し、次の目標を立てている ③将来の自立した生活に向けて、主体的に取り組もうとしている	

# 特別活動全体計画

## 学校教育目標(開校宣言)

一人ひとりを大切にする教育

地域とともに歩む

自立と社会参加

## 特別活動

**目標**  
 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。  
 (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。  
 (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。  
 (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

### ホームルーム活動

ホームルームや学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、ホームルームでの話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

### 生徒会活動(委員会活動)

異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的、実践的に取り組むことを通して、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

### 学校行事

全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、第1の目標に掲げる資質・能力を育成することを目指す。

#### <内容>

1の資質・能力を育成するため、全ての学年において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

<p><b>(1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画</b></p> <p><b>ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決</b> ホームルームや学校における生活を向上・充実させるための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。</p> <p><b>イ ホームルーム内の組織づくりや役割の自覚</b> ホームルーム生活の充実や向上のため、生徒が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。</p> <p><b>ウ 学校における多様な集団の生活の向上</b> 生徒会などホームルームの枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して学校生活の向上を図るため、ホームルームとしての提案や取組を話し合って決めること。</p>	<p><b>(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全</b></p> <p><b>ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成</b> 自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、コミュニケーションを図りながらよりよい集団生活をつくること。</p> <p><b>イ 男女相互の理解と協力</b> 男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。</p> <p><b>ウ 国際理解と国際交流の推進</b> 我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、共に尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方生き方を探求しようとする。</p> <p><b>エ 青年期の悩みや課題とその解決</b> 心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする。</p> <p><b>オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</b> 節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p>	<p><b>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現</b></p> <p><b>ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解</b> 現在及び将来の生活や学習と自己実現とのつながりを考えたり、社会的・職業的自立の意義を意識したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。</p> <p><b>イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館等の活用</b> 自主的に学習する場としての学校図書館等を活用し、自分にふさわしい学習方法や学習習慣を身に付けること。</p> <p><b>ウ 社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成</b> 社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること。</p> <p><b>エ 主体的な進路の選択決定と将来設計</b> 適性やキャリア形成などを踏まえた教科・科目を選択することなどについて、目標をもって、在り方生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らし合わせて考えること。</p>
--	---	---

#### <内容>

1の資質・能力を育成するため、学校の全生徒をもって組織する生徒会において、次の各活動を通して、それぞれの活動の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

<p><b>(1) 生徒会(委員会)の組織づくりと生徒会活動(委員会活動)の計画や運営</b> 生徒が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。</p> <p><b>(2) 学校行事への協力</b> 学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。</p> <p><b>(3) ボランティア活動などの社会参画</b> 地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。</p>
--

#### <内容>

1の資質・能力を育成するため、全校若しくは学年又はそれらに準ずる集団を単位として、次の各行事において、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うことを通して、それぞれの学校行事の意義及び活動を行う上で必要となることについて理解し、主体的に考えて実践できるよう指導する。

<p><b>(1) 儀式的行事</b> 学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清らかな気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。</p> <p><b>(2) 文化的行事</b> 平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。</p> <p><b>(3) 健康安全・体育的行事</b> 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵かん養、体力の向上などに資するようにすること。</p> <p><b>(4) 旅行・集団宿泊的行事</b> 平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。</p> <p><b>(5) 勤労生産・奉仕的行事</b> 勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験活動などの勤労観・職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。</p> <p>◆各行事のねらいを明確にし、全教師が協力して指導に当たる。</p>
--

#### <育成する資質・能力>

<b>知識及び技能</b>	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けたるようになる。
<b>思考力・判断力・表現力等</b>	集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりした
<b>主体的に学習に取り組む態度</b>	集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成し、他者と協働して集団や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現に向けて、日常生活の向上を図ろうとする態度が身に付いた

特別活動（ホームルーム活動）

学習計画		・ICT機器を使用し、適宜展開する（通年）			
月	1年	2年	3年		
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム内の組織づくり</li> <li>自己紹介、クラスクリエーション、教室整備、学級目標づくり、係・委員会決め</li> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・個人目標決め</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上 ・学年集会</li> <li>・若葉台散策 事前事後</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・教育相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム内の組織づくり</li> <li>自己紹介、クラスクリエーション、教室整備、学級目標づくり、係・委員会決め</li> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・個人目標決め</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上 ・学年集会、学年クリエーション、「2年生になって」のクリエーション、修学旅行事前</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・教育相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームルーム内の組織づくり</li> <li>・クラスクリエーション、教室整備、学級目標決め、係・委員会決め</li> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・個人目標決め</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上 ・学年集会、学年クリエーション「3年生になって」のクリエーション</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・教育相談</li> </ul>	
	5月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・修学旅行事前・事後学習</li> </ul>		
	6月	○ふれあい交流			
	7・8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・スポーツデー事前学習、学年クリエーション</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・夏休みの生活事前事後、期末テストの受け方</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・夏休み明け教育相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・スポーツデー事前学習、学年クリエーション</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・夏休みの生活 事前事後、ファイル整理</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・夏休み明け教育相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・スポーツデー事前学習、学年クリエーション</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・夏休みの生活 事前事後、ファイル整理</li> <li>○青年期の悩みや課題とその解決 ・夏休み明け教育相談</li> </ul>	
	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・防災訓練 事前学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・地区センターまつり 事前事後学習</li> </ul>		
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の個性の理解と尊重</li> <li>・前期のふりかえり 後期目標決め</li> <li>○ふれあい交流</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・若葉台文化祭事前学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の個性の理解と尊重</li> <li>・前期のふりかえり 後期目標決め</li> <li>○ふれあい交流</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・若葉台文化祭事前学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の個性の理解と尊重</li> <li>・前期のふりかえり、後期目標決め</li> <li>○ふれあい交流</li> </ul>	
	11月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・ファイル整理</li> </ul>		
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・冬休みの生活事前学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・A部門との学習発表会事前学習、クラスクリエーション</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・冬休みの生活事前学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・A部門との学習発表会事前学習、学年クリエーション</li> <li>○ホームルーム内の組織づくり ・クラスクリエーション</li> <li>○心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立</li> <li>・冬休みの生活事前学習</li> </ul>	
	1月		<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・学年集会</li> </ul>		
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・遠足事前学習、卒業を祝う会 事前準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・卒業を祝う会 事前準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・学習発表会準備</li> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・学年クリエーション、卒業遠足事前学習、卒業を祝う会準備</li> </ul>	
	3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・修学旅行 事前学習、学年クリエーション</li> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・学習発表会準備、1年間のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における多様な集団の生活の向上</li> <li>・学年クリエーション、教室整備</li> <li>○自他の個性の理解と尊重 ・学習発表会準備、1年間のまとめ</li> </ul>		

特別活動 全学年（委員会活動）

学習計画		・ICT機器を使用し、適宜展開する（通年）					
	月	学級委員会	交流委員会	図書委員会	美化委員会	保健委員会	放送委員会
前期	4月	オリエンテーション	オリエンテーション わかばフライデー準備 対面式準備	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
	5月	月間目標設定	運動会準備 わかばフライデー準備	第1回活動準備	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェックふり返り 手洗い石鹸補充	年間目標 運動会アナウンス
	6月	振り返り 月間目標設定 学年レク計画 等	わかばフライデー準備	①ブックトーク ①わかばフライデー	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェックふり返り 手洗い石鹸補充	振り返り 担当の予定確認
	7・8月	夏休み前・後集会の話し合い	わかばフライデー準備	①図書新聞	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て 大掃除準備	月間目標設定 身だしなみチェックふり返り 手洗い石鹸補充	振り返り 担当の予定確認
	9月	学年目標振り返り・設定	わかばフライデー準備	第1回活動反省 第2回活動準備	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェックふり返り 手洗い石鹸補充	振り返り 担当の予定確認 バザーBGM選定
後期	10月	学年目標振り返り・設定	わかばフライデー準備	読書週間 ②ブックトーク ②わかばフライデー ②図書新聞	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェックふり返り 手洗い石鹸補充	振り返り 担当の予定確認
	11月	冬休み前・後集会の話し合い 学年目標振り返り・設定	わかばフライデー準備	第2回活動反省 第3回活動準備	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェック ふり返り 手洗い石鹸補充 加湿器設置と管理	振り返り リクエスト募集の話
	12月	冬休み前・後集会の話し合い 卒業を祝う会について交流委員と話し合い 学年レク計画 等	1・2年と3年で分かれて、学級委員会と卒業を祝う会準備	③ブックトーク ③わかばフライデー	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て 大掃除準備	月間目標設定 身だしなみチェック ふり返り 手洗い石鹸補充 加湿器の管理	振り返り 担当の予定確認
	1月	卒業を祝う会について交流委員と話し合い（3年生）	1・2年と3年で分かれて、学級委員会と卒業を祝う会準備	第3回活動の反省&準備	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て	月間目標設定 身だしなみチェック ふり返り 手洗い石鹸補充 加湿器の管理	3年生1年間の振り返り 全体振り返り 担当の予定確認
	2月	1・2年と3年で分かれて、学級委員会と卒業を祝う会準備 3年生振り返り・引継ぎ	1・2年と3年で分かれて、学級委員会と卒業を祝う会準備 3年生振り返り・引継ぎ	③図書新聞 第3回活動の反省 3年生1年間の振り返り 3年生からの引継ぎ	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て 3年生振り返り	月間目標設定 身だしなみチェック ふり返り 手洗い石鹸補充 加湿器の管理と収納	3年生からの引継ぎ 振り返り 担当の予定確認
	3月	次年度への反省・引継ぎ事項検討 新入生オリエンテーション準備 離任式司会進行 学年レク計画 等	次年度への反省・引継ぎ 新入生オリエンテーション準備	次年度への反省・引継ぎ 新入生オリエンテーション準備	各教室の清掃用具の点検補充 ゴミの分別、ゴミ捨て 来年度への引継ぎ 大掃除準備	次年度への反省・引継ぎ 新入生オリエンテーション準備	次年度への反省・引継ぎ 新入生オリエンテーション準備

特別活動（学校行事）

学習計画		・ICT機器を使用し、適宜展開する。		
	月	1年	2年	3年
前期	4月	◎儀式的行事 ・始業式、着任式、入学式、新入生オリエンテーション 対面式 ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー。身体計測、視力聴力検査、耳鼻科検診、 歯科検診、全校避難訓練、眼科検診 ◎旅行・集団宿泊の行事 ・若菜台散策	◎儀式的行事 ・始業式、着任式、入学式、新入生オリエンテーション、 対面式 ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー。身体計測、視力聴力検査、耳鼻科検診、 歯科検診、全校避難訓練、眼科検診 ◎旅行・集団宿泊の行事 ・若菜台散策	◎儀式的行事 ・始業式、着任式、入学式、新入生オリエンテーション、 対面式 ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー。身体計測、視力聴力検査、耳鼻科検診、 歯科検診、全校避難訓練、眼科検診 ◎旅行・集団宿泊の行事 ・若菜台散策
	5月	◎健康安全・体育的行事 ・運動会、心臓図、内科検診、眼科検診、歯科検診 ◎勤労生産・儀式的行事 ・第1回職場見学	◎健康安全・体育的行事 ・運動会、内科検診、眼科検診、歯科検診 ◎旅行・集団宿泊の行事 ・修学旅行	◎健康安全・体育的行事 ・運動会、内科検診、眼科検診、歯科検診
	6月	◎健康安全・体育的行事 ・結核検診		
	7・8月	◎儀式的行事 ・夏休み前指導、夏休み明け集会 ◎健康安全・体育的行事 ・大掃除、身体計測	◎儀式的行事 ・夏休み前指導、夏休み明け集会 ◎健康安全・体育的行事 ・大掃除、身体計測	◎儀式的行事 ・夏休み前指導、夏休み明け集会 ◎健康安全・体育的行事 ・大掃除、身体計測
	9月	◎勤労生産・奉仕の行事 ・地域防災訓練	◎文化的行事 ・地区センターまつり	
後期	10月	◎儀式的行事 ・前期終業式、前期始業式 ◎健康安全・体育的行事 ・総合防災訓練◎儀式的行事	◎儀式的行事 ・前期終業式、後期始業式 ◎健康安全・体育的行事 ・総合防災訓練◎儀式的行事	◎儀式的行事 ・前期終業式、後期始業式 ◎健康安全・体育的行事 ・総合防災訓練
	11月	◎文化的行事 ・若菜台文化祭	◎文化的行事 ・若菜台文化祭	
	12月	◎儀式的行事 ・冬休み前指導 ◎文化的行事 ・A部門学習発表会、ミュージックデー ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー、大掃除、歯科指導	◎儀式的行事 ・冬休み前指導 ◎文化的行事 ・A部門学習発表会、ミュージックデー ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー、大掃除、歯科指導	◎儀式的行事 ・冬休み前指導 ◎文化的行事 ・A部門学習発表会、ミュージックデー ◎健康安全・体育的行事 ・スポーツデー、大掃除、歯科指導
	1月	◎儀式的行事 ・冬休み明け集会 ◎勤労生産・奉仕の行事 ・第2回職場見学	◎儀式的行事 ・冬休み明け集会	◎儀式的行事 ・冬休み明け集会
	2月	◎儀式的行事 ・卒業を祝う会	◎儀式的行事 ・卒業を祝う会	◎旅行・集団宿泊の行事 ・卒業遠足 ◎儀式的行事 ・卒業を祝う会 ◎文化的行事 ・3年学習発表会
	3月	◎儀式的行事 ・卒業式、修了式、離任式、春休み前指導 ◎文化的行事 ・1、2年学習発表会、大納会	◎儀式的行事 ・卒業式、修了式、離任式、春休み前指導 ◎文化的行事 ・1、2年学習発表会、大納会	◎儀式的行事 ・卒業式



自立活動 全学年

目標

個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う。

学習計画

	月	学習内容（何を学ぶか） 関連教科は★印をつけて明示	目標 （何ができるようになるか）	方法 （どのように学ぶか）
前期	4月	1 健康の保持 (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。  2 心理的な安定 (1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。  3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。  4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。	・生徒の実態に応じ、日常生活や学習場面等の諸活動において、その障害によって生ずるつまづきや困難の解消のために努めることができる。  ・一人ひとりの生徒の発達の遅れや不均等を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を目指す。	ICT機器を使用し、適宜展開する。(通年)  ・学校教育活動全体を通して、生徒の自立を目指す。  ・特にSHRIは、自立活動扱いとする。  【SHR】 ・SHRの進行 ・予定確認 ・連絡事項 ・1日のふり返りスピーチ ・教員の話や聞く など
	5月			
	6月			
	7・8月			
	9月			
後期	10月	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。  5 身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。  6 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。		
	11月			
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			